

鳥取県がん検診実績報告書

令和5年3月

鳥 取 県
鳥取県健康対策協議会

鳥取県がん検診実績報告書

はじめに

第四期がん対策推進基本計画が令和5年3月28日に閣議決定されました。これを受けて鳥取県でも第四次鳥取県がん対策推進計画の策定を目指しています。第三次の計画（2018年～2023年）では「75歳未満がん年齢調整死亡率を70.0未満とする」を大きな目標の一つとして定めました。まだ変動はあるものと予想されますが、2020年、2021年と目標の70.0未満を達成致しました。がん診療にかかわられるすべての方の努力の積み重ねによるものと感謝致します。当県新計画の骨子案でも、がん対策の全体像を評価する目安として全体目標の一つに挙げられています。鳥取県がん登録事業報告書では年齢調整がん罹患率は全国値よりも高い状況が続いています。がんの早期発見やがん医療の充実によって得られる死亡率減少効果において、少なくとも全国的な水準は維持し続けなければなりません。がん医療の充実も着実に進められていると思われませんが、がん検診受診率の低迷は引き続き大きな課題であり、さらに精密検査受診率も改善の必要があります。要精密検査と判定された場合に精密検査を受診していただくところまでががん検診のプログラムです。せっかく受診されたにも関わらず早期発見の機会を逃すことは避けなければなりません。

このたび、例年通り、令和3年度の「鳥取県がん検診実績報告書」を発行いたします。当県におけるがん検診の更なる充実に向けてご活用いただければ幸いです。

令和5年3月

鳥取県健康対策協議会

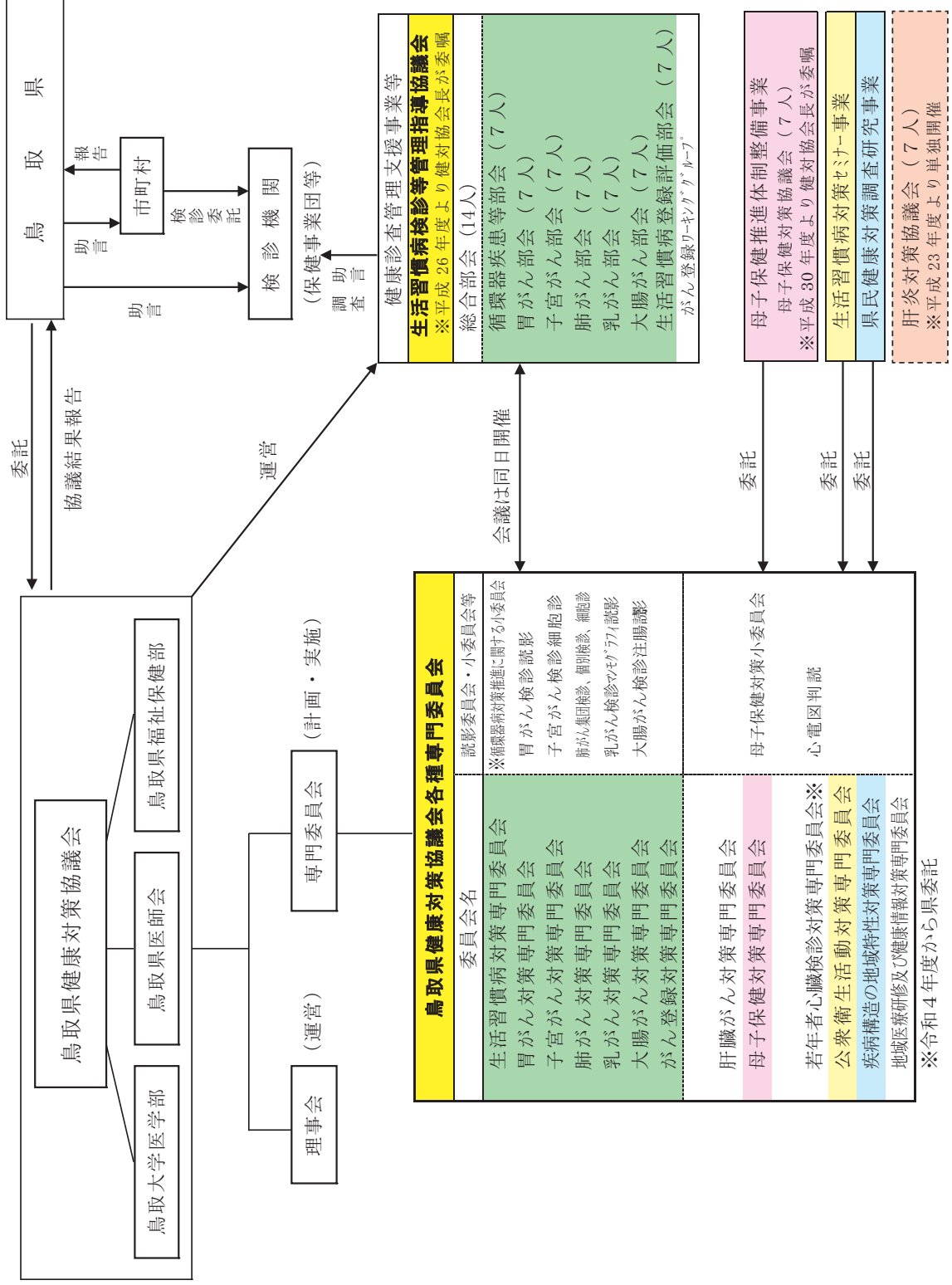
会長 渡 辺 憲

目 次

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図	1
II. 令和3年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診	4
2. 子宮がん検診	17
3. 肺がん検診	26
4. 乳がん検診	40
5. 大腸がん検診	47
6. 肝臓がん検診	56
7. 全国がん検診実績との比較	70
III. 令和4年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1. 胃がん検診症例研究会報告	74
2. 子宮がん検診症例研究会報告	76
3. 肺がん検診症例研究会報告	78
4. 乳がん検診症例研究会報告	80
5. 大腸がん検診症例研究会報告	82
6. 肝臓がん検診症例研究会報告	84
7. 各地区がん検診症例検討会開催状況	86
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について	87

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図

(昭和46年1月26日発足)



Ⅱ. 令和3年度各がん検診事業実績

指 標 の 解 説

1. 対象者数：職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数。

※1 対象者数については、平成20年度から全市町村共通で以下の算式により推計対象者数を算出することとしている。

40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）・男女ごとに、以下の計算式で算出した人数を「推計対象者数」とする。

各係数は直近の国勢調査において報告された人数を用いる。

$$\boxed{\text{推計}} \boxed{\text{対象者数}} = \boxed{\text{市区町村}} \boxed{\text{人口}} - \left(\boxed{\text{就業者数}} - \boxed{\text{農林水産業}} \boxed{\text{従業者数}} \right)$$

（「市町村がん検診事業の充実強化について」平成21年3月厚生労働省総務

胃、肺、大腸がん検診：40歳以上。

乳がん検診：平成17年度より対象者は40歳以上。（同一人の隔年検診）

子宮がん検診：平成17年度より対象者は20歳以上。

肝炎ウイルス検査：以下に該当する者を対象者とする。

(1) 節目検診：健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、40歳の者。

(2) 節目外検診：上記以外の健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、①基本健康診査で肝機能（GPT値）により要指導と診断された者。②平成14年～平成18年度までの本事業からに基づく肝炎ウイルス検査の対象者であって、受診の機会を逸した者。

2. 受診者数：検診を受診した人数

3. 受診率：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合

4. 要精検者数：一次検診の結果、精密検査が必要と診断された人数

5. 要精検率：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合

6. 精検受診者数：精密検査が必要と診断された者のうち、精密検査を受診した人数

7. 精検受診率：精密検査が必要な者のうち、精密検査を受けた者の割合

8. がん、がん疑いの人数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された人数

9. がん発見率：がん検診受診者のうち、がんとされた者の割合

10. 陽性反応適中度：要精密検査者のうち、がんとされた者の割合

11. 確定癌数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会において確定調査を行った結果、「癌」であった者の人数

12. 確定癌率：がん検診受診者のうち、確定調査の結果、癌であった者の割合

1. 胃 がん 検 診

1. 胃がん検診実績

令和3年度の対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計値）は181,414人のうち、受診者数はX線検査7,943人、内視鏡検査は40,801人で合計48,744人、受診率は26.9%であった。新型コロナウイルスの影響で減少がみられた令和2年度に比べ、令和3年度は、受診者数は2,576人増加、受診率も2.5ポイント増加し、回復傾向にある。

受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は83.7%で、年々増加している。

このうち、40歳から69歳（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）では、対象者数63,987人、受診者数22,900人、受診率35.8%であった。

検査の結果、胃がんであった者は129人発見され（X線検査8人、内視鏡検査121人）、がん発見率は0.26%であった。

X線検査でのがん発見率は0.101%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.297%である。

陽性反応適中度（がん/要精検査者）はX線検査1.5%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ10.6%であった。

確定調査の結果、確定癌は130例、発見癌率は0.27%であった。

(1) X線検査は19市町村で実施され、受診者数は7,943人で、受診率は4.4%である。一次検診の要精検査者は540人で、要精検査率は6.8%で、前年度より0.4ポイント減少した。精検受診者数452人、精検受診率は83.7%で前年度より1.5ポイント減少した。車検診の要精検査率6.6%（東部3.9%、中部8.8%、西部8.9%）、施設検診は8.9%（東部7.6%、中部7.4%、西部10.5%）だった。

精検結果は、胃がんであった者は8人で、胃がん発見率は0.101%であった。

X線検査における国のプロセス指標は、要精検査率許容値11.0%以下、精密検査受診率目標値90%以上、がん発見率許容値0.11%以上、陽性反応適中度許容値1.0%以上を指標としているが、鳥取県は精検受診率以外は指標をクリアしており、精度の高い検診がおこなわれている。ただし、例年と同様に施設検診におけるX線検査では要精検査率が高い。

(2) 内視鏡検査は、19市町村で実施され、受診者数は40,801人で、検査結果は胃がんであった者は121人が発見され、がん発見率は0.297%であった。

内視鏡検査の組織診実施者数は1,137で、組織診実施率2.8%、東部3.1%、中部2.9%、西部2.4%である。また、陽性反応適中度（がん/組織診実施者数）は10.6%で、東部9.5%、中部8.3%、西部13.2%であった。

〈検診方法別結果〉

区 分	市町村数		受診者数（率）	がん	がん発見率（%）
	実 施	未実施			
X線検診	19	0	7,943 (16.3%)	8	0.101
内視鏡検診	19	0	40,801 (83.7%)	121	0.297
計			48,744 (100%)	129	0.265

〈検診機関別結果〉

(1) X線検診

・一次検診

区 分	受診者数 (率)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東部	中部	西部
車検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	7,216 (90.8%)	475	6.6	3.9	8.8	8.9
施設検診 (病院・診療所)	727 (9.2%)	65	8.9	7.6	7.4	10.5
計	7,943 (100%)	540	6.8	4.3	8.8	9.1

・精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診 率 (%)	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	397	83.6	8	0.111	0.060	0.054	0.245
施 設 検 診	55	84.6	—	0.000	0.000	0.000	—
計	452	83.7	8	0.101	0.054	0.053	0.211

(2) 内視鏡検診

区 分	受診者数	組 織 診 実 施 者	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
病 院	11,302	396	39	0.345	0.316	0.147	0.546
診 療 所	29,499	741	82	0.278	0.279	0.284	0.275
計	40,801	1,137	121	0.297	0.293	0.243	0.322

〈圏域別結果〉

(1) X線検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	がん	がん発見率 (%)
東 部	3,689	158	4.3	138	87.3	2	0.054
中 部	1,881	166	8.8	137	82.5	1	0.053
西 部	2,373	216	9.1	177	81.9	5	0.211
計	7,943	540	6.8	452	83.7	8	0.101

(2) 内視鏡検診

区 分	受診者数	組織診実施者	実施率 (%)	がん	がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)
東 部	16,731	515	3.1	49	0.293	9.5
中 部	6,982	204	2.9	17	0.243	8.3
西 部	17,088	418	2.4	55	0.322	13.2
計	40,801	1,137	2.8	121	0.297	10.6

※がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

令和3年度に発見された胃がん及び胃がん疑いについて確定調査を行った結果、確定胃癌は130例（一次検査がX線検査：専検診8例、一次検査が内視鏡検査：122例）で、癌発見率は0.267%（東部0.255%、中部0.192%、西部0.313%）で、前年度に比べ、癌は3例減少した。

調査結果は以下のとおりである。

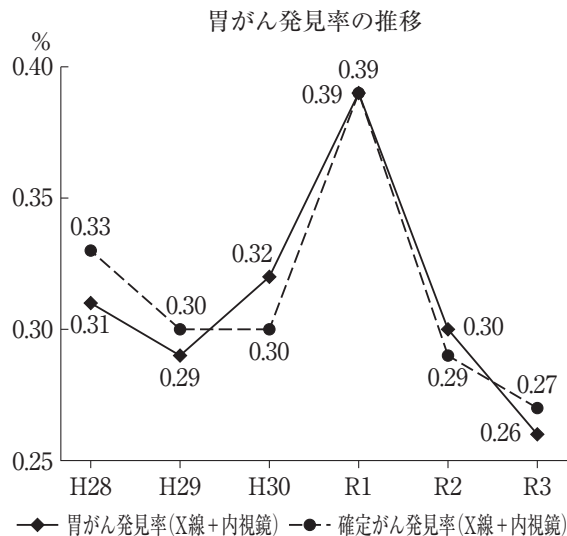
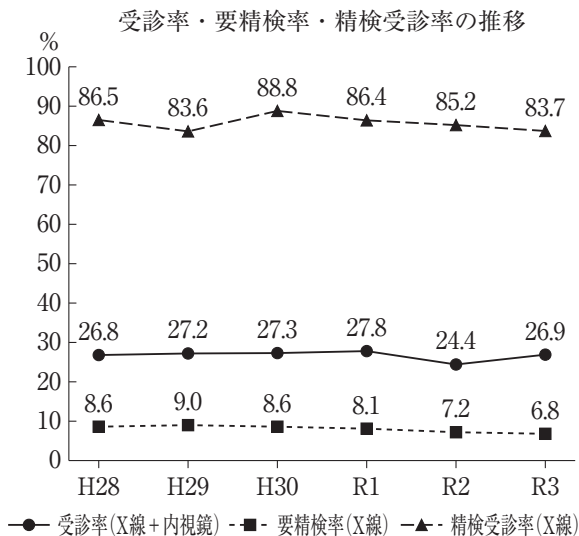
- (1) 早期癌は107例、進行癌は23例であった。早期癌率は82.3%（東部88.5%、中部70.6%、西部80.3%）であった。
- (2) 130例の内、切除は67例で、内視鏡切除が61例であった。非切除例が2例であった。
- (3) 性・年齢別では、男性94例、女性36例であった。40歳代はなく、50歳代2例、60歳代17例、70歳代72例、80歳以上39例で、70歳代の男性が多い。
- (4) 早期癌では「Ⅱc」が63%を占めている。進行癌の肉眼分類は「2」が44%を占めている。例年通りの傾向であった。
- (5) 切除例の大きさは2cm以下のものが59%を占めている。一方で5cm以上のものが21例認められた。
- (6) 肉眼での進行度は、X線検査ではstage IAが5例で62.50%、内視鏡検査ではstage IAが91例で76.47%であった。StageⅣが内視鏡検査で2例見つかっている。
- (7) 逐年検診発見進行癌は4例（東部3例、西部1例）であった。各地区で症例検討を行っていたが、問題点等について検討していただく。

(1) 胃がん検診の受診者数、受診率等の推移

区 分		平成28年度			平成29年度			平成30年度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対象者数(人) A			189,132			189,132			189,132
	受診者数(人) B	11,961	38,684	50,645	11,029	40,453	51,482	10,415	41,196	51,611
	受診率(%) C = B/A	6.3	20.5	26.8	5.8	21.4	27.2	5.5	21.8	27.3
一次検診結果	異常認めず(人) D	10,933			10,036			9,520		
	要精検者数(人) E	1,028			993			895		
	要精検率(%) F = E/B 指標:許容値1.0%以下	8.6			9.0			8.6		
精密検査	精検受診者数(人) G	889			830			795		
	精検受診率(%) H = G/E 指標:目標値90%以上	86.5			83.6			88.8		
精密検査結果	胃がんの者(人) I	15(6)	144(92)	159(98)	15(3)	133(85)	148(88)	15(2)	149(42)	164(44)
	胃がん発見率(%) J = I/B 指標:許容値0.11%以上	0.13	0.37	0.31	0.14	0.33	0.29	0.14	0.36	0.32
	陽性反応適中度(%) K = I/E 指標:許容値1.0%以上	1.5			1.5			1.7		
確定調査結果	確定がん数(人) L	18	150	168	16	138	154	14	141	155
	確定がん率(%) M = L/B	0.15	0.39	0.33	0.15	0.34	0.30	0.13	0.34	0.30

区 分		令和元年度			令和2年度			令和3年度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対象者数(人) A			189,132			189,132			181,414
	受診者数(人) B	9,649	42,845	52,494	7,738	38,430	46,168	7,943	40,801	48,744
	受診率(%) C = B/A	5.1	22.7	27.8	4.1	20.3	24.4	4.4	22.5	26.9
一次検診結果	異常認めず(人) D	8,863			7,183			7,403		
	要精検者数(人) E	786			555			540		
	要精検率(%) F = E/B 指標:許容値1.0%以下	8.1			7.2			6.8		
精密検査	精検受診者数(人) G	679			473			452		
	精検受診率(%) H = G/E 指標:目標値90%以上	86.4			85.2			83.7		
精密検査結果	胃がんの者(人) I	14(4)	193(74)	207(78)	9(0)	129(71)	138(71)	8(1)	121(48)	129(49)
	胃がん発見率(%) J = I/B 指標:許容値0.11%以上	0.15	0.45	0.39	0.12	0.34	0.3	0.1	0.3	0.26
	陽性反応適中度(%) K = I/E 指標:許容値1.0%以上	1.8			1.6			1.48		
確定調査結果	確定がん数(人) L	17	188	205	9	124	133	8	122	130
	確定がん率(%) M = L/B	0.18	0.44	0.39	0.12	0.32	0.29	0.1	0.3	0.27

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 令和3年度胃がんX線検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	対象者数 (人)		一次検診受診者数		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b / a			要精検者数 d		異常認めず		e = d / b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,972	3,512	207	404	7.0	11.5	9.4	8	11	199	393	3.9	2.7	3.1
45～49歳	3,210	3,799	201	399	6.3	10.5	8.6	10	10	191	389	5.0	2.5	3.3
50～54歳	2,743	3,589	164	338	6.0	9.4	7.9	11	10	153	328	6.7	3.0	4.2
55～59歳	2,891	4,281	196	385	6.8	9.0	8.1	11	10	185	375	5.6	2.6	3.6
60～64歳	5,176	7,615	386	630	7.5	8.3	7.9	26	30	360	600	6.7	4.8	5.5
65～69歳	10,744	13,455	677	823	6.3	6.1	6.2	57	36	620	787	8.4	4.4	6.2
70～74歳	14,256	17,509	802	869	5.6	5.0	5.3	93	54	709	815	11.6	6.2	8.8
75～79歳	11,216	15,094	388	394	3.5	2.6	3.0	47	31	341	363	12.1	7.9	10.0
80歳以上	19,085	40,267	340	340	1.8	0.8	1.1	50	35	290	305	14.7	10.3	12.5
計	72,293	109,121	3,361	4,582	4.6	4.2	4.4	313	227	3,048	4,355	9.3	5.0	6.8
合計	181,414		7,943		4.4			540		7,403		6.8		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	精密検査受診者数 f		精密検査受診率 (%) g = f / d			精密検査結果								胃がん発見率 (%) i = h / b			陽性反応の中度 (%) j = h / d		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん h		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
40～44歳	6	8	75.0	72.7	73.7	1	4	5	4	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	5	7	50.0	70.0	60.0	2	2	3	5	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	8	9	72.7	90.0	81.0	3	1	5	8	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	8	8	72.7	80.0	76.2	1	2	7	6	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
60～64歳	20	28	76.9	93.3	85.7	1	6	18	22	0	0	1	0	0.259	0.000	0.098	3.8	0.0	1.8
65～69歳	43	33	75.4	91.7	81.7	8	8	35	25	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
70～74歳	76	49	81.7	90.7	85.0	17	10	57	38	0	0	2	1	0.249	0.115	0.180	2.2	1.9	2.0
75～79歳	41	28	87.2	90.3	88.5	11	5	29	22	0	1	1	0	0.258	0.000	0.128	2.1	0.0	1.3
80歳以上	42	33	84.0	94.3	88.2	9	5	31	27	0	0	2	1	0.588	0.294	0.441	4.0	2.9	3.5
計	249	203	79.6	89.4	83.7	53	43	190	157	0	1	6	2	0.179	0.044	0.101	1.9	0.9	1.5
合計	452		83.7			96		347		1		8		0.101			1.5		

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

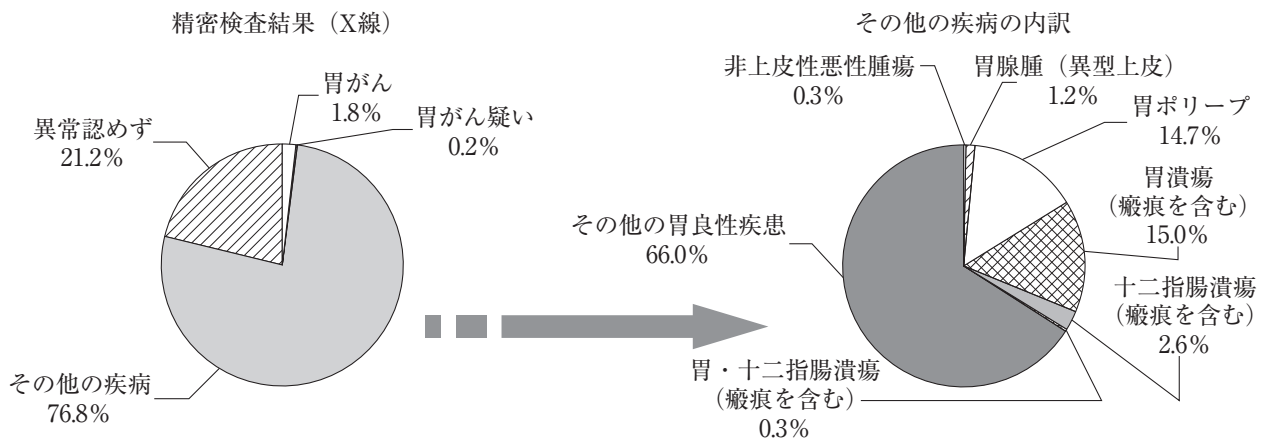
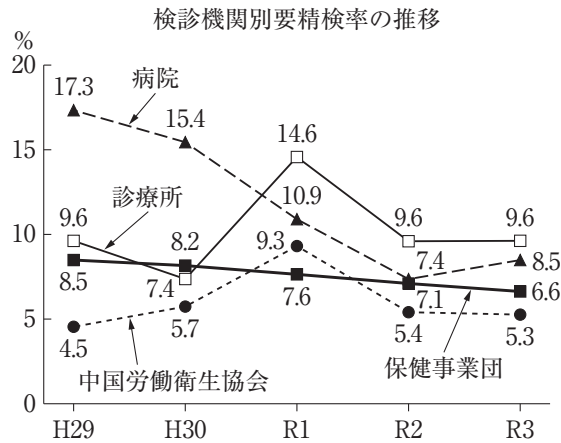
一次検診機関	一次検診受診者数 a'		一次検診結果				要精検率 (%) c' = b' / a'		
	男	女	要精検者数 b'		異常認めず		男	女	計
			男	女	男	女			
保健事業団	2,952	4,017	272	190	2,680	3,827	9.2	4.7	6.6
中国労働衛生協会	89	158	10	3	79	155	11.2	1.9	5.3
病院	173	263	13	24	160	239	7.5	9.1	8.5
診療所	147	144	18	10	129	134	12.2	6.9	9.6
計	3,361	4,582	313	227	3,048	4,355	9.3	5.0	6.8
合計	7,943		540		7,403		6.8		

b. 検診機関別

年 齢	精密検査受診者数 d'		精密検査受診率 (%) e' = d' / b'			精密検査結果								胃がん発見率 (%) g' = f' / a'			陽性反応的中度 (%) h' = f' / b'		
	男	女	男	女	計	異 常 不 認 め		その 他 の 疾 病		胃 が ん 疑 い		胃 が ん		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	計	男	女	男	女						
保健事業団	216	170	79	89	84	46	37	164	130	0	1	6	2	0.203	0.050	0.115	2.2	1.1	1.7
中国労働衛生協会	8	3	80	100	85	2	0	6	3	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
車 検 診 小 計	224	173	79	90	84	48	37	170	133	0	1	6	2	0.197	0.048	0.111	2.1	1.0	1.7
病 院	11	20	85	83	84	2	5	9	15	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
診 療 所	14	10	78	100	86	3	1	11	9	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
施設検診小計	25	30	81	88	85	5	6	20	24	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
計	249	203	79.6	89.4	83.7	53	43	190	157	0	1	6	2	0.179	0.044	0.101	1.9	0.9	1.5
合 計	452		83.7			96		347		1		8		0.101			1.5		

・ 検診機関別要精検率の推移

一次検診機関	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
保 健 事 業 団	8.5	8.2	7.6	7.1	6.6
中国労働衛生協会	4.5	5.7	9.3	5.4	5.3
車 検 診 小 計	8.4	8.1	7.7	7.0	6.6
病 院	17.3	15.4	10.9	7.4	8.5
診 療 所	9.6	7.4	14.6	9.6	9.6
施設検診小計	9.6	13.7	12.4	8.3	8.9
合 計	9.0	9.0	8.6	7.2	6.8



4) 令和3年度胃がんX線検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員							がん発見率 (%) Q = O/D R = O/H	陽性反応 適中 度					
	対象者数 A	車検診 B	施設検診 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D/A	車検診 F	施設検診 G	計 H = F + G	要精検率 (%) I = H/D	精 受診者数 J	精 検 受診率 (%) K = J/H	異 常 認めず L	その他の 疾病 M	がん N	がん疑い O			有所見者 P = M + N + O				
																			鳥取市	米子市	倉吉市	境港市
鳥取市	57,633	1,954	346	2,300	4.0	78	28	106	4.6	93	87.7	8	85	0	0	85	0.000	0.0				
米子市	43,796	313	217	530	1.2	14	21	35	6.6	32	91.4	6	25	1	0	26	0.189	2.9				
倉吉市	16,163	317	18	335	2.1	33	2	35	10.4	35	100.0	9	25	1	0	26	0.299	2.9				
境港市	10,796	216	93	309	2.9	21	12	33	10.7	28	84.8	10	18	0	0	18	0.000	0.0				
岩美町	4,245	434	2	436	10.3	16	0	16	3.7	16	100.0	5	11	0	0	11	0.000	0.0				
八頭町	5,674	747	18	765	13.5	27	0	27	3.5	22	81.5	3	17	2	0	19	0.261	7.4				
若桜町	1,336	70	2	72	5.4	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0				
智頭町	2,723	116	0	116	4.3	9	0	9	7.8	7	77.8	0	7	0	7	0.000	0.0					
湯梨浜町	5,319	428	4	432	8.1	37	0	37	8.6	26	70.3	7	19	0	0	19	0.000	0.0				
三朝町	2,336	271	0	271	11.6	21	0	21	7.7	18	85.7	5	13	0	0	13	0.000	0.0				
北栄町	5,250	377	2	379	7.2	30	0	30	7.9	27	90.0	11	16	0	0	16	0.000	0.0				
琴浦町	6,243	461	3	464	7.4	43	0	43	9.3	31	72.1	10	21	0	0	21	0.000	0.0				
南部町	3,722	138	1	139	3.7	15	0	15	10.8	10	66.7	1	8	0	1	9	0.000	0.0				
伯耆町	4,091	318	3	321	7.8	25	0	25	7.8	17	68.0	0	17	0	0	17	0.000	0.0				
日吉津村	981	116	18	134	13.7	6	2	8	6.0	7	87.5	1	6	0	0	6	0.000	0.0				
大山町	6,342	531	0	531	8.4	64	0	64	12.1	53	82.8	13	38	2	0	40	0.377	3.1				
日南町	2,198	205	0	205	9.3	18	0	18	8.8	14	77.8	1	12	1	0	13	0.488	5.6				
日野町	1,340	106	0	106	7.9	11	0	11	10.4	10	90.9	4	5	1	0	6	0.943	9.1				
江府町	1,226	98	0	98	8.0	7	0	7	7.1	6	85.7	2	4	0	0	4	0.000	0.0				
合計	181,414	7,216	727	7,943	4.4	475	65	540	6.8	452	83.7	96	347	8	1	356	0.101	1.5				
東部	71,611	3,321	368	3,689	5.2	130	28	158	4.3	138	87.3	16	120	2	0	122	0.054	1.3				
中部	35,311	1,854	27	1,881	5.3	164	2	166	8.8	137	82.5	42	94	1	0	95	0.053	0.6				
西部	74,492	2,041	332	2,373	3.2	181	35	216	9.1	177	81.9	38	133	5	1	139	0.211	2.3				

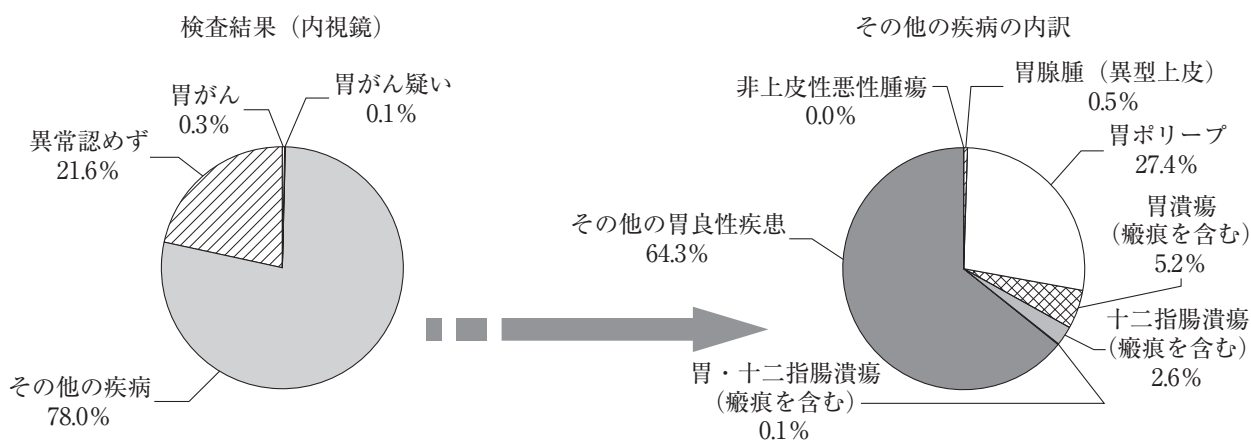
(3) 令和3年度胃がん内視鏡検診

1) 年齢階級別

年 齢	一次検診受診者数 a		検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c = b / a		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん b		男	女	計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
40～44歳	502	919	220	350	282	569	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000
45～49歳	658	1080	223	404	435	676	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000
50～54歳	664	1,217	211	372	452	844	0	1	1	0	0.151	0.000	0.053
55～59歳	640	1,476	167	387	473	1,088	0	1	0	0	0.000	0.000	0.000
60～64歳	1,456	2,530	324	620	1,127	1,908	2	1	3	1	0.206	0.040	0.100
65～69歳	3,075	3,873	563	834	2,492	3,034	9	4	11	1	0.358	0.026	0.173
70～74歳	4,703	5,552	777	1,057	3,890	4,484	10	3	26	8	0.553	0.144	0.332
75～79歳	2,713	3,452	446	657	2,245	2,782	4	6	18	7	0.663	0.203	0.406
80歳以上	2,684	3,607	451	734	2,200	2,854	5	2	28	17	1.043	0.471	0.715
計	17,095	23,706	3,382	5,415	13,596	18,239	30	18	87	34	0.509	0.143	0.297
合 計	40,801		8,797		31,835		48		121		0.297		

2) 検診機関別

年 齢	一次検診受診者数 a'		検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c' = b' / a'		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん b'		男	女	計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
病 院	5,048	6,254	841	1,157	4,166	5,078	13	8	28	11	0.555	0.176	0.345
診 療 所	12,047	17,452	2,541	4,258	9,430	13,161	17	10	59	23	0.490	0.132	0.278
計	17,095	23,706	3,382	5,415	13,596	18,239	30	18	87	34	0.509	0.143	0.297
合計	40,801		8,797		31,835		48		121				



3) 令和3年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	受診者数 A	組織診 実施者数 B	組織診 実施率 (%) C = B/A	検査結果別人員						
				異常 認めず D	その他 の疾病 E	がん 疑い F	がん G	有所見者 H = E + F + G	が ん 発 見 率 (%) I = G/A	陽性反応 適中 度 (%) J = G/B
鳥取市	13,561	436	3.2	1,856	11,661	6	38	11,705	0.280	8.7
米子市	10,830	209	1.9	2,077	8,710	9	34	8,753	0.314	16.3
倉吉市	3,142	108	3.4	732	2,394	10	6	2,410	0.191	5.6
境港市	2,655	123	4.6	928	1,715	2	10	1,727	0.377	8.1
岩美町	643	0	0.0	49	588	2	4	594	0.622	0.0
八頭町	1,305	45	3.4	239	1,060	0	6	1,066	0.460	13.3
若桜町	548	19	3.5	60	487	0	1	488	0.182	5.3
智頭町	674	15	2.2	46	628	0	0	628	0.000	0.0
湯梨浜町	1,127	0	0.0	291	827	5	4	836	0.355	0.0
三朝町	347	0	0.0	260	83	3	1	87	0.288	0.0
北栄町	1,228	42	3.4	300	922	3	3	928	0.244	7.1
琴浦町	1,138	54	4.7	1,129	4	2	3	9	0.264	5.6
南部町	1,261	69	5.5	107	1,145	2	7	1,154	0.555	10.1
伯耆町	862	0	0.0	54	804	1	3	808	0.348	0.0
日吉津村	246	12	4.9	63	182	1	0	183	0.000	0.0
大山町	442	0	0.0	101	341	0	0	341	0.000	0.0
日南町	409	1	0.2	223	184	1	1	186	0.244	100.0
日野町	79	4	5.1	42	37	0	0	37	0.000	0.0
江府町	304	0	0.0	240	63	1	0	64	0.000	0.0
合 計	40,801	1,137	2.8	8,797	31,835	48	121	32,004	0.297	10.6
東 部	16,731	515	3.1	2,250	14,424	8	49	14,481	0.293	9.5
中 部	6,982	204	2.9	2,712	4,230	23	17	4,270	0.243	8.3
西 部	17,088	418	2.4	3,835	13,181	17	55	13,253	0.322	13.2

(4) 令和3年度胃がん検診受診状況（X線＋内視鏡）

市町村名	対象者数 A	受診者数				X線精密検査結果＋内視鏡検査結果					がん 発見率 (%) K = I/D
		X線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D/A	異常 認めず F	その他 の疾病 G	が ん 疑 い H	が ん I	有 所 見 者 J = G + H + I	
鳥取市	57,633	2,300	13,561	15,861	27.5	1,864	11,746	6	38	11,790	0.240
米子市	43,796	530	10,830	11,360	25.9	2,083	8,735	9	35	8,779	0.308
倉吉市	16,163	335	3,142	3,477	21.5	741	2,419	10	7	2,436	0.201
境港市	10,796	309	2,655	2,964	27.5	938	1,733	2	10	1,745	0.337
岩美町	4,245	436	643	1,079	25.4	54	599	2	4	605	0.371
八頭町	5,674	765	1,305	2,070	36.5	242	1,077	0	8	1,085	0.386
若桜町	1,336	72	548	620	46.4	60	487	0	1	488	0.161
智頭町	2,723	116	674	790	29.0	46	635	0	0	635	0.000
湯梨浜町	5,319	432	1,127	1,559	29.3	298	846	5	4	855	0.257
三朝町	2,336	271	347	618	26.5	265	96	3	1	100	0.162
北栄町	5,250	379	1,228	1,607	30.6	311	938	3	3	944	0.187
琴浦町	6,243	464	1,138	1,602	25.7	1,139	25	2	3	30	0.187
南部町	3,722	139	1,261	1,400	37.6	108	1,153	3	7	1,163	0.500
伯耆町	4,091	321	862	1,183	28.9	54	821	1	3	825	0.254
日吉津村	981	134	246	380	38.7	64	188	1	0	189	0.000
大山町	6,342	531	442	973	15.3	114	379	0	2	381	0.206
日南町	2,198	205	409	614	27.9	224	196	1	2	199	0.326
日野町	1,340	106	79	185	13.8	46	42	0	1	43	0.541
江府町	1,226	98	304	402	32.8	242	67	1	0	68	0.000
合計	181,414	7,943	40,801	48,744	26.9	8,893	32,182	49	129	32,360	0.265
東部	71,611	3,689	16,731	20,420	28.5	2,266	14,544	8	51	14,603	0.250
中部	35,311	1,881	6,982	8,863	25.1	2,754	4,324	23	18	4,365	0.203
西部	74,492	2,373	17,088	19,461	26.1	3,873	13,314	18	60	13,392	0.308

(5) 令和3年度胃がん検診発見患者確定調査結果について

表1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
確定胃癌数	2	0	50	1	0	16	5	0	56	130
胃癌発見率%	0.054	0.000	0.299	0.053	0.000	0.229	0.211	0.000	0.328	
	52 0.255			17 0.192			61 0.313			0.267
早期胃癌数	2	0	44	1	0	11	4	0	45	107
早期胃癌率%	46 88.5			12 70.6			49 80.3			
進行胃癌数	0	0	6	0	0	5	1	0	11	23
切除例	1	0	21	0	0	8	4	0	33	67
内視鏡切除例	1	0	29	1	0	8	1	0	21	61
非切除例	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2

表2 性・年齢別

	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	計
男	0	2	15	53	24	94
女	0	0	2	19	15	36

表3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
I	2	0	1	0	0	0	0	0	2	5	5%
I + II a	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
II a	0	0	6	0	0	2	1	0	7	16	15%
II a + II b	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
II b	0	0	3	0	0	0	0	0	1	4	4%
II c	0	0	25	1	0	6	3	0	33	68	64%
II c + III	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1%
II b + II c	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1%
II a + II c	0	0	7	0	0	3	0	0	1	11	10%
III	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1%
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
計	2	0	44	1	0	11	4	0	45	107	

表4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
1	0	0	1	0	0	0	1	0	4	6	26%
2	0	0	4	0	0	3	0	0	3	10	43%
3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	13%
4	0	0	1	0	0	2	0	0	1	4	17%
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
計	0	0	6	0	0	5	1	0	11	23	

表5 切除例の深達度

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
t1a	0	0	31	1	0	7	4	0	29	72	
t1b	2	0	13	0	0	4	0	0	16	35	
t2	0	0	1	0	0	1	1	0	5	8	
t3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	9	
t4a	0	0	1	0	0	1	0	0	2	4	
t4b	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
計	2	0	50	1	0	16	5	0	55	129	
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	

表6 切除例の大きさ

mm	～ 10	11 ～ 20	小計 (%)		21 ～ 50	51 ～	計	不 明
車	1	4	5	63%	2	1	8	0
施	0	0	0	0%	0	0	0	0
内	27	40	67	58%	28	20	115	7
計	28	44	72	59%	30	21	123	7

表7-1 早期癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	1	0	14
M	2	0	47
L	4	0	39
全 体	0	0	0
計	7	0	100
不 明	0	0	0

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	4	0	41
大 弯	0	0	16
前 壁	2	0	17
後 壁	1	0	24
全 周	0	0	0
計	7	0	98
不 明	0	0	2

表7-2 進行癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	0	0	6
M	1	0	8
L	0	0	7
D	0	0	0
全 体	0	0	0
計	1	0	21
不 明	0	0	1

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	0	0	9
大 弯	0	0	4
前 壁	1	0	2
後 壁	0	0	3
全 周	0	0	2
計	1	0	20
不 明	0	0	2

表8 発見胃癌の進行度

stage	東 部			中 部			西 部			計			計			
	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡 検 診	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡 検 診	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡 検 診	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡 検 診	X 線	内		
I A	1	0	41	1	0	10	3	0	40	5	0	91	5	62.50%	91	76.47%
I B	1	0	4	0	0	0	0	0	5	1	0	9	1	12.50%	9	7.56%
II A	0	0	2	0	0	2	2	0	3	2	0	7	2	25.00%	7	5.88%
II B	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0.00%	2	1.68%
III A	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0.00%	3	2.52%
III B	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	4	0	0.00%	4	3.36%
III C	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0.00%	1	0.84%
IV	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0.00%	2	1.68%
計	2	0	50	1	0	15	5	0	54	8	0	119	8	100%	119	100%
不明	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	3	0		3	

2. 子宮がん検診

1. 子宮がん検診実績

令和3年度子宮頸部がん検診は対象者数（20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）121,933人のうち、受診者数30,942人、受診率25.4%で、令和2年度に比べ、受診率は2.4ポイント増であった。

このうち、40歳から69歳の値（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）は、対象者数49,063人、受診者数24,472人、受診率49.9%であった。

要精検者数は369人（判定不能で再検査未実施となった者を含む）、一次検査の結果判定不能で、再検査の結果、判定不能だった者が18人であった。要精検率は1.19%で、令和2年度に比べ0.60ポイント減少した。

精検受診者数297人、精検受診率80.5%で令和2年度に比べ7.0ポイント減少した。

精検の結果、がん2人、がん発見率（がん/受診者数）は0.01%で、令和2年度に比べ0.01ポイント減少した。

陽性反応適中度（がん/要精検者数）は0.5%であった。上皮内病変は118人（CIN3 30人、CIN2 19人、CIN1 68人、CIN2か3区別不能1人）であった。

精検受診率は国の許容値70%以上は上回るものの、目標値90%以上には届いていない状況である。また、要精検率は許容値を満たしているが、がん発見率、陽性反応適中度はいずれも国の許容値に届いていない状況である。

精密検査結果のうち、上皮内病変39.7%を占めており、若年者層から多く見ついている。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数(率)	要精検者数	要精検率(%)			
			計	東部	中部	西部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	9,391 (30.4%)	52 (52)	0.55 (0.55)	0.65	0.26	0.72
施 設 検 診 検 診 (病院・診療所)	21,551 (69.6%)	317 (305)	1.47 (1.42)	1.77	1.13	1.34
計	30,942 (100%)	369 (357)	1.19 (1.15)	1.35	0.71	1.25

※要精検者数の（ ）は、判定不能の者のうち、再検が未実施者のを除く

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	がん	がん発見率(%)			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	43	82.7	1	0.011	0.000	0.000	0.052
施 設 検 診 検 診	254	80.1	1	0.005	0.000	0.034	0.000
計	297	80.5	2	0.006	0.000	0.018	0.008

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	上皮内病変	がん	がん発見率
東 部	4,763	31	0.65	29	93.5	13	0	0.000
中 部	2,689	7	0.26	3	42.9	2	0	0.000
西 部	1,939	14	0.72	11	78.6	3	1	0.052
計	9,391	52	0.55	43	82.7	18	1	0.011

(2) 施設検診検診

区分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	上皮内病変	がん	がん発見率
東 部	7,897	140	1.77	121	86.4	60	0	0.000
中 部	2,916	33	1.13	29	87.9	15	1	0.034
西 部	10,738	144	1.34	104	72.2	25	0	0.000
計	21,551	317	1.47	254	80.1	100	1	0.005

2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者30,942人中、体部がん検診対象者数は1,502人、一次検診会場での受診者は1,093人であった。一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者は125人、受診者の合計は1,218人、受診率は81.1%であった。

一次検診の結果、要精検となった者29人、要精検率2.65%、精密検査受診者数は23人で、精密検査受診率79.3%であった。精検の結果、子宮体部がんが6人発見され、がん発見率は0.55%であった。陽性反応適中度20.7%であった。子宮内膜増殖症は3件であった。

3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

1) 子宮頸部癌

令和3年度は子宮頸部癌2例で、I A期1例、I B期以上が1例であった。治療対象のCIN3またはAISは32例であった。CIN1、2または腺異形成70例であった。令和2年度に比べ、子宮頸部癌は4例減少、CIN3またはAISは10例減少した。なお、I B期以上1例は前年受診であった。

2) 子宮体部癌

子宮体部癌は9例、子宮内膜増殖症3例であった。

4. その他

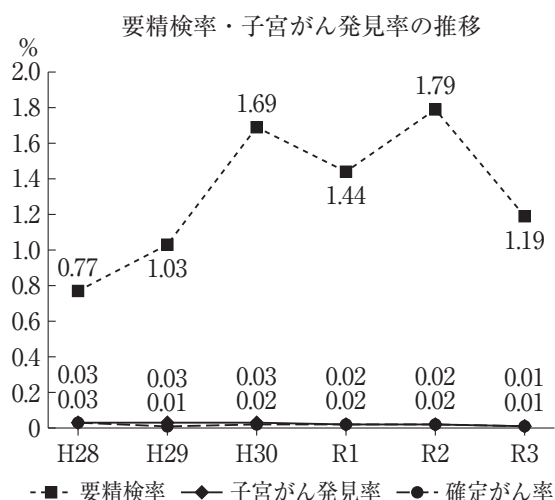
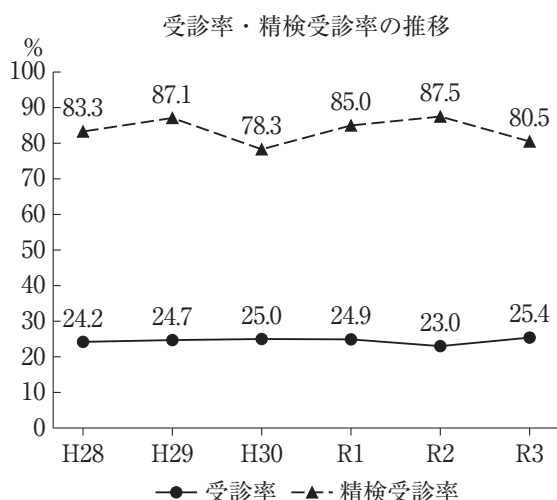
1) 令和3年度妊婦健康診査における子宮頸部がん検診受診状況について

令和3年度実績は、妊婦健康診査受診者3,335人中、子宮頸部がん検診受診者数3,300人、受診率99.0%で、要精検者数91人、要精検率2.8%、精検受診者数78人、精検受診率85.7%で精検結果がんは発見されていない。

(1) 子宮頸部がん検診の受診者数、受診率等の推移

	区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
一次検診	対象者数(人) A	129,896	129,896	129,896	129,896	129,896	121,933
	受診者数(人) B	31,447	32,138	32,455	32,318	29,851	30,942
	受診率(%) C = B/A	24.2	24.7	25.0	24.9	23.0	25.4
一次検診結果	異常認めず(人) D	31,206	31,807	31,906	31,838	29,304	30,555
	要精検者数(人) E	241	331	549	466	534	369
	判定不能(人) F	19	36	45	14	13	18
	要精検率(%) G = E/B 指標：許容値1.4%以下	0.77	1.03	1.69	1.44	1.79	1.19
精密検査	精検受診者数(人) H	185	257	430	396	467	297
	精検受診率(%) I = H/E 指標：目標値90%以上	83.3	87.1	78.3	85.0	87.5	80.5
精密検査結果	子宮がんの者(人) J	9(90)	10(130)	9(189)	6(127)	6(144)	2(118)
	子宮がん発見率(%) K = J/B 指標：許容値0.05%以上	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.01
	陽性反応適中度(%) L = J/E 指標：許容値4.0%以上	4.1	3.4	1.6	1.3	1.1	0.5
確定調査結果	確定がん数(人) M	9	3	5	5	6	2
	確定がん率(%) N = M/B	0.03	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01

- * 1 精密検査結果欄の()内の数値は、平成29年度までは異形成の者、平成30年度からは上皮内病変の者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出
- * 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上
- * 5 対象者数について、平成20年度報告から、20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚労省が示す算定式により算出した推計数を計上
- * 6 要精検者数について、平成22年度報告から、一次検診で判定不能の者のうち、再検が未実施の者も含んだ数を計上



(2) 令和3年度子宮頸部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b / a	経年受診者数 再掲	一次検診結果			要精検率 (%) e = d / b
					要精検者数 d	判定不能	異常認めず	
20～24歳	3,556	570	16.0	161	29	1	541	5.09
25～29歳	2,496	1,131	45.3	584	38	2	1,093	3.36
30～34歳	3,195	1,794	56.2	1,106	59	0	1,735	3.29
35～39歳	3,565	2,430	68.2	1,776	48	1	2,382	1.98
40～44歳	3,512	3,189	90.8	2,332	59	1	3,130	1.85
45～49歳	3,799	3,167	83.4	2,452	54	4	3,113	1.71
50～54歳	3,589	2,769	77.2	2,206	32	6	2,737	1.16
55～59歳	4,281	2,604	60.8	2,072	18	1	2,586	0.69
60～64歳	7,615	3,237	42.5	2,629	14	1	3,223	0.43
65～69歳	13,455	3,581	26.6	3,047	11	1	3,570	0.31
70～74歳	17,509	3,768	21.5	3,321	3	0	3,765	0.08
75～79歳	15,094	1,685	11.2	1,473	2	0	1,683	0.12
80歳以上	40,267	1,017	2.5	850	2	0	1,015	0.20
計	121,933	30,942	25.4	24,009	369	18	30,573	1.19

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 f	精密検査受診率 (%) g = f/d	異常認めず	子宮がん h	精密検査結果							未受診	未把握	子宮がん発見率 (%) i = h/b	陽性反応適中度 (%) k = h/d
					上皮内病変			その他							
					うち微小浸潤がん	CIN3 又はAIS	CIN2	CIN1	腺異形成	がん疑い又は未確定	その他疾患				
20～24歳	29	23.0	9	0	0	0	1	10	0	0	3	1	7	0.000	0.0
25～29歳	38	30.0	10	0	0	0	0	8	0	3	9	2	12	0.000	0.0
30～34歳	59	52.0	19	0	0	4	4	12	1	4	8	2	17	0.000	0.0
35～39歳	48	36.0	11	0	0	5	1	13	0	2	4	7	12	0.000	0.0
40～44歳	59	56.0	11	0	0	12	8	7	0	8	10	3	14	0.000	0.0
45～49歳	54	39.0	11	0	0	4	2	12	0	2	8	5	14	0.000	0.0
50～54歳	32	21.0	7	1	1	3	0	1	0	2	7	7	5	0.036	3.1
55～59歳	18	13.0	4	0	0	1	0	3	0	2	3	4	4	0.000	0.0
60～64歳	14	12.0	1	1	0	0	2	2	0	3	3	0	5	0.031	7.1
65～69歳	11	9.0	5	0	0	1	1	0	0	1	1	0	1	0.000	0.0
70～74歳	3	3.0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.000	0.0
75～79歳	2	1.0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.000	0.0
80歳以上	2	2.0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0.000	0.0
計	369	297.0	91	2	1	30	19	68	1	30	56	31	93	0.006	0.5

3) 検診機関別

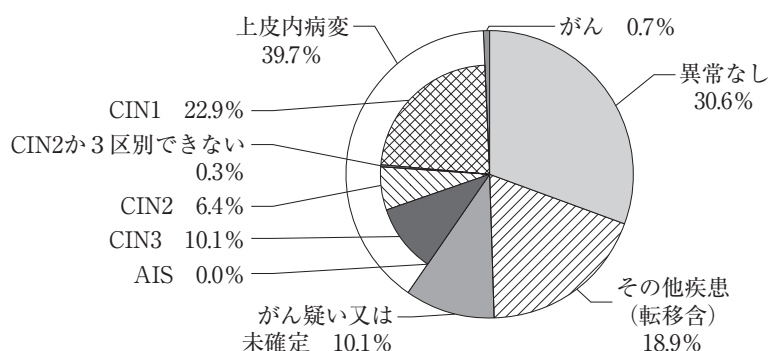
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'	一次検診結果			要精検率 (%) c' = b' / a'
		要精検者数 b'	判定不能	異常認めず	
保健事業団	9,105	46	0	9,059	0.51
中国労働衛生協会	286	6	0	280	2.10
病院	7,267	48	4	7,219	0.66
診療所	14,284	269	14	14,015	1.88
計	30,942	369	18	30,573	1.19

b. 精密検査結果

年 齢	精密検査受診者数 d'	精密検査受診率 (%) e' = d' / b'	異常認めず	子宮がん f'	精密検査結果							未受診	未把握	子宮がん発見率 (%) g' = f' / a'	陽性反応適中度 (%) h' = f' / b'
					上皮内病変			その他							
					うち微小浸潤がん	CIN3 又はAIS	CIN2	CIN1	腺異形成	がん疑い又は未確定	その他疾患				
保健事業団	39	84.8	11	1	0	7	4	6	0	2	8	1	3	0.011	2.2
中国労働衛生協会	4	66.7	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0.000	0.0
病院	37	77.1	9	0	0	7	0	8	0	7	6	4	7	0.000	0.0
診療所	217	80.7	69	1	1	16	15	53	1	21	41	26	81	0.007	0.4
計	297	80.5	91	2	1	30	19	68	1	30	56	31	93	0.006	0.5

精密検査結果 (受診者数 = 297人)



4) 令和3年度子宮頸部がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員							がん発見率 (%) R = O/D	陽性反応適中 (%) S = O/H		
	対象者数 A	車検診 B	施設検診 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D/A	車検診 F	施設検診 G	計 H = F + G	要精検率 (%) I = H/D	精検受診者数 J	精検受診率 (%) K = J/H	異常認めず L	その他疾病等 M	がん又は上皮内病変 N = O + P	がん O			上皮内病変 P	有所見者 Q = M + N
鳥取市	39,440	3,028	6,910	9,938	25.2	26	120	146	1.47	126	86.3	38	26	62	0	62	88	0.000	0.0
米子市	31,241	76	7,298	7,374	23.6	1	100	101	1.37	71	70.3	25	28	18	0	18	46	0.000	0.0
倉吉市	10,745	411	1,556	1,967	18.3	1	21	22	1.12	19	86.4	5	4	10	1	9	14	0.051	4.5
境港市	7,293	361	1,558	1,919	26.3	4	20	24	1.25	21	87.5	5	10	6	0	6	16	0.000	0.0
岩美町	2,633	491	266	757	28.8	2	6	8	1.06	8	100.0	3	4	1	0	1	5	0.000	0.0
八頭町	3,578	873	378	1,251	35.0	3	11	14	1.12	13	92.9	3	1	9	0	9	10	0.000	0.0
若桜町	810	201	58	259	32.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
智頭町	1,680	170	285	455	27.1	0	3	3	0.66	3	100.0	1	1	1	0	1	2	0.000	0.0
湯梨浜町	3,362	590	481	1,071	31.9	1	3	4	0.37	3	75.0	1	0	2	0	2	2	0.000	0.0
三朝町	1,461	305	131	436	29.8	2	2	4	0.92	4	100.0	1	0	3	0	3	3	0.000	0.0
北栄町	3,293	647	433	1,080	32.8	3	4	7	0.65	3	42.9	1	2	0	0	0	2	0.000	0.0
琴浦町	3,907	736	315	1,051	26.9	0	3	3	0.29	3	100.0	0	0	3	0	3	3	0.000	0.0
南部町	2,324	195	474	669	28.8	0	12	12	1.79	9	75.0	3	6	0	0	0	6	0.000	0.0
伯耆町	2,610	361	369	730	28.0	1	4	5	0.68	1	20.0	1	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日吉津村	714	60	262	322	45.1	0	1	1	0.31	1	100.0	0	1	0	0	0	1	0.000	0.0
大山町	3,884	535	407	942	24.3	3	4	7	0.74	6	85.7	1	2	3	1	2	5	0.106	14.3
日南町	1,329	173	62	235	17.7	2	1	3	1.28	2	66.7	1	1	0	0	0	1	0.000	0.0
日野町	853	178	11	189	22.2	3	0	3	1.59	2	66.7	2	0	0	0	0	0	0.000	0.0
江府町	776	0	297	297	38.3	0	2	2	0.67	2	100.0	0	0	2	0	2	2	0.000	0.0
合計	121,933	9,391	21,551	30,942	25.4	52	317	369	1.19	297	80.5	91	86	120	2	118	206	0.006	0.5
東部	48,141	4,763	7,897	12,660	26.3	31	140	171	1.35	150	87.7	45	32	73	0	73	105	0.000	0.0
中部	22,768	2,689	2,916	5,605	24.6	7	33	40	0.71	32	80.0	8	6	18	1	17	24	0.018	2.5
西部	51,024	1,939	10,738	12,677	24.8	14	144	158	1.25	115	72.8	38	48	29	1	28	77	0.008	0.6

※1 令和元年度から上皮内病変には「AIS」「CIN3」「CIN2」「CIN1」及び「CIN2又は3のいずれかで区別できない者(HSIL)」の合計を計上

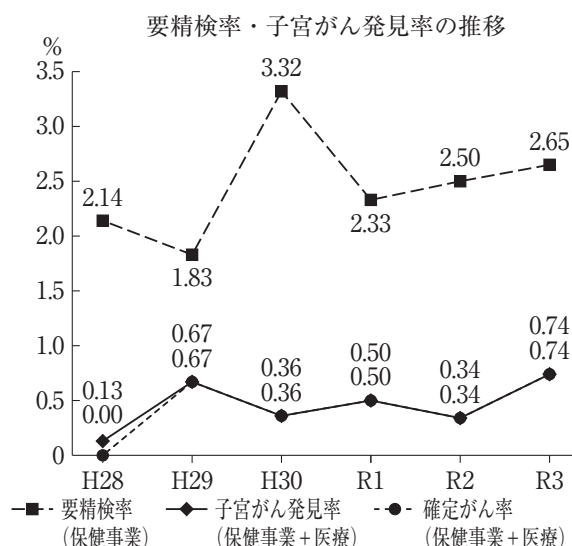
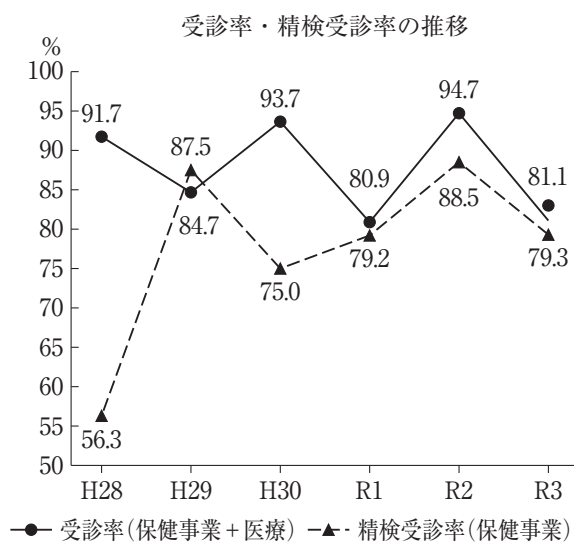
※2 平成30年度から「その他疾病等」には「子宮頸がんの疑いがある者又は未確定」及び「子宮頸がんおよびCIN(異形成等)以外の疾患であった者(転移性の子宮頸がんを含む)」を計上

(3) 子宮体部がん検診の受診者数、受診率等の推移（最終報告）

区 分		平成28年度			平成29年度			平成30年度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	823		823	1,057		1,057	1,197		1,197
	受 診 者 数(人) B	748	7	755	874	21	895	964	157	1,121
	受 診 率(%) C = B / A	90.9		91.7	82.7		84.7	80.5		93.7
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	726			845			919		
	要 精 検 者 数(人) E	16			16			32		
	判 定 不 能(人) F	6			13			13		
	要 精 検 率(%) G = E / B	2.14			1.83			3.32		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) H	9			14			24		
	精 検 受 診 率(%) I = H / E	56.3			87.5			75.0		
精密検査 結 果	子 宮 が ん の 者(人) J	1(1)	0(2)	1(3)	3(1)	3(0)	6(1)	4(2)	0(1)	4(3)
	子 宮 が ん 発 見 率(%) K = J / B	0.13	0.00	0.13	0.34	14.29	0.67	0.41	0.00	0.36
	陽 性 反 応 適 中 度(%) L = J / E	6.25			18.8			12.5		
確定調査 結 果	確 定 が ん 数(人)	0	0	0	3	3	6	4	0	4
	確 定 が ん 率(%)			0.00			0.67			0.36

区 分		令和元年度			令和2年度			令和3年度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	1,476		1,476	1,231		1,231	1,502		1,502
	受 診 者 数(人) B	1,031	163	1,194	1,040	126	1,166	1,093	125	1,218
	受 診 率(%) C = B / A	69.9		80.9	84.5		94.7	72.8		81.1
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	1,000			1,006			1,055		
	要 精 検 者 数(人) E	24			26			29		
	判 定 不 能(人) F	7			8			9		
	要 精 検 率(%) G = E / B	2.33			2.50			2.65		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) H	19			23			23		
	精 検 受 診 率(%) I = H / E	79.2			88.5			79.3		
精密検査 結 果	子 宮 が ん の 者(人) J	3(2)	3(1)	6(3)	4(6)	0(0)	4(6)	6(3)	3(2)	9(5)
	子 宮 が ん 発 見 率(%) K = J / B	0.29	1.84	0.50	0.38	0.00	0.34	0.55	2.40	0.74
	陽 性 反 応 適 中 度(%) L = J / E	12.5			15.4			20.7		
確定調査 結 果	確 定 が ん 数(人)	3	3	6	4	0	4	6	3	9
	確 定 が ん 率(%)			0.50			0.34			0.74

- ※ 1 「保健事業分」= 集団検診及び医療機関検診により検診を受けた者、「医療分」= 集団検診において当日体部がん検診を受診せず、後日医療機関において受診した者
 ※ 2 精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上
 ※ 3 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
 ※ 4 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。
 ※ 5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(4) 令和3年度子宮体部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	子宮がん検診受診者数 a	体部がん検診対象者数 b	対象率 (%) c = b / a	一次検診受診者数 d	受診率 (%) e = d / b	一次検診結果			要精検率 (%) g = f / d
						要精検 f	異常認めず	判定不能	
20～24歳	570	9	1.58	6	66.7	0	6	0	0.00
25～29歳	1,131	19	1.68	17	89.5	0	17	0	0.00
30～34歳	1,794	65	3.62	50	76.9	1	49	0	2.00
35～39歳	2,430	125	5.14	86	68.8	0	86	0	0.00
40～44歳	3,189	217	6.80	156	71.9	4	152	0	2.56
45～49歳	3,167	279	8.81	217	77.8	4	213	0	1.84
50～54歳	2,769	250	9.03	202	80.8	8	191	3	3.96
55～59歳	2,604	138	5.30	101	73.2	3	98	0	2.97
60～64歳	3,237	113	3.49	80	70.8	2	78	0	2.50
65～69歳	3,581	93	2.60	62	66.7	1	59	2	1.61
70～74歳	3,768	110	2.92	66	60.0	4	61	1	6.06
75～79歳	1,685	58	3.44	35	60.3	2	30	3	5.71
80歳以上	1,017	26	2.56	15	57.7	0	15	0	0.00
計	30,942	1,502	4.85	1,093	72.8	29	1,055	9	2.65

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 h	精検受診率 (%) i = h / f	精密検査結果				子宮がん発見率 (%) k = j / d	陽性反応適中度 (%) l = j / f
			異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮がん j		
20～24歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
25～29歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
30～34歳	1	100.0	1	0	0	0	0.00	0.0
35～39歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
40～44歳	3	75.0	2	1	0	0	0.00	0.0
45～49歳	3	75.0	3	0	0	0	0.00	0.0
50～54歳	7	87.5	3	1	3	0	0.00	0.0
55～59歳	3	100.0	1	1	0	1	0.99	33.3
60～64歳	2	100.0	0	0	0	2	2.50	100.0
65～69歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
70～74歳	2	50.0	0	1	0	1	1.52	25.0
75～79歳	2	100.0	0	0	0	2	5.71	100.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	23	79.3	10	4	3	6	0.55	20.7

3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診しなかった者の結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検診受診者数	精密検査結果				子宮がん発見率 (%)
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮がん	
20～24歳	3	3	0	0	0	0.00
25～29歳	0	0	0	0	0	0.00
30～34歳	4	4	0	0	0	0.00
35～39歳	19	19	0	0	0	0.00
40～44歳	29	28	0	0	1	3.45
45～49歳	27	26	0	1	0	0.00
50～54歳	19	19	0	0	0	0.00
55～59歳	15	14	0	0	1	6.67
60～64歳	2	1	1	0	0	0.00
65～69歳	2	1	0	0	1	50.00
70～74歳	4	3	0	1	0	0.00
75～79歳	0	0	0	0	0	0.00
80歳以上	1	1	0	0	0	0.00
計	125	119	1	2	3	2.40

4) 令和3年度子宮体部がん検診受診状況(保健事業分)

市町村名	対象者数			受診者数			要精検者数						精密検査結果別人員						がん発見率(%) R=O/D	陽性反応適中度(%) S=O/H
	A	B	C	施設検診	計	受診率(%) E=D/A	車検診	施設検診	計	要精検率(%) I=H/D	精検受診者数	精検受診率(%) K=J/H	異常認めず	その他の疾病	がん又は子宮内膜増殖症	がん	子宮内膜増殖症	有所見者		
				D=B+C	H=F+G		F	G	H	I	J	K	L	M	N=O+P	O	P	Q=M+N		
鳥取市	453	0	281	281	6	62.0	0	6	6	2.14	6	100.0	3	1	2	1	1	3	0.36	16.7
米子市	300	0	294	294	16	98.0	0	16	16	5.44	13	81.3	6	3	4	3	1	7	1.02	18.8
倉吉市	118	0	114	114	3	96.6	0	3	3	2.63	2	66.7	1	0	1	0	1	1	0.00	0.0
境港市	34	0	34	34	0	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
岩美町	20	0	13	13	1	65.0	0	1	1	7.69	1	100.0	0	0	1	1	0	1	7.69	100.0
八頭町	43	0	30	30	0	69.8	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
若桜町	3	0	3	3	0	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
智頭町	8	0	3	3	0	37.5	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
湯梨浜町	20	0	20	20	0	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
三朝町	7	0	7	7	0	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
北栄町	30	0	28	28	0	93.3	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
琴浦町	30	0	28	28	0	93.3	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
南部町	14	0	14	14	0	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
伯耆町	379	0	181	181	2	47.8	0	2	2	1.10	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日吉津村	4	0	4	4	0	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
大山町	9	0	9	9	0	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日南町	3	0	3	3	0	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日野町	1	0	1	1	0	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
江府町	26	0	26	26	1	100.0	0	1	1	3.85	1	100.0	0	0	1	1	0	1	3.85	100.0
合計	1,502	0	1,093	1,093	29	72.8	0	29	29	2.65	23	79.3	10	4	9	6	3	13	0.55	20.7
東部	527	0	330	330	7	62.6	0	7	7	2.12	7	100.0	3	1	3	2	1	4	0.61	28.6
中部	205	0	197	197	3	96.1	0	3	3	1.52	2	66.7	1	0	1	0	1	1	0.00	0.0
西部	770	0	566	566	19	73.5	0	19	19	3.36	14	73.7	6	3	5	4	1	8	0.71	21.1

(5) 令和3年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最終診断	車検診		施設検診	
	令和2年度	令和3年度	令和2年度	令和3年度
CIN1、2または腺異形成	9	11	94	59
CIN 3 または AIS	5	8	37	24
頸癌 I A 期	0	0	1	1
頸癌 I B 期以上	1	1	4	0
合計	15	20	136	84

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最終診断	令和2年度	令和3年度
内膜増殖症	7	3
体癌 I A 期	1	4
体癌 I B 期以上	3	5
合計	11	12

表3 発見子宮がん症例（I B 期以上）のがん検診受診歴

受診歴	車検診	施設検診	計
前年受診	1	0	1
2年間隔	0	0	0
3年以上の間隔	0	0	0
初回受診	0	1	1

表4 治療機関

	CIN2/3、AIS	頸癌 I A 期	頸癌 I B 期以上	計
鳥取県立中央病院	14	0	0	14
鳥取大学医学部附属病院	7	1	1	9
鳥取県立厚生病院	7	0	0	7
鳥取市立病院	5	0	0	5
さくらレディースクリニック	6	0	0	6
博愛病院	3	0	0	3
彦名レディスライフクリニック	3	0	0	3
鳥取産院	2	0	0	2
鳥取赤十字病院	1	0	0	1
宮本産婦人科医院	1	0	0	1
中曾産婦人科医院	1	0	0	1
計	50	1	1	52

3. 肺 が ん 検 診

1. 肺がん検診実績

令和3年度対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）181,414人のうち、受診者数53,894人、受診率29.7%で令和2年度に比べ3.4ポイント増であった。

このうち、40歳から69歳の値（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）は、対象者数63,987人、受診者数22,096人、受診率34.5%であった。

要精検者は1,963人、要精検率3.64%で前年度より113人（0.08ポイント）減少した。精密検査受診者は1,759人、精検受診率89.6%で前年度より0.3ポイント減であった。要精検率は国の指標（許容値）である3.0%以下を上回っているが、減少傾向である。精検受診率は国の目標値90%と同等で、原発性肺がん24人、肺がん疑い90人の計114人が発見された。肺がん発見率は0.04%で、国の指標（許容値）0.03%以上より高率であったが、前年度より8人（0.02ポイント）減少し、肺がん疑いが多かった。また、陽性反応的中度は1.2%で、前年度より0.5ポイント減少した。

要精検率は許容値（3.0%以下）を上回り、がん発見率（許容値0.03%以上）も許容値を上回っていたが、陽性反応適中度（許容値1.3%以上）は許容値を下回っている。地区別では、西部地区の要精検率が高い。

令和3年度の結果からは、受診率の回復が見られ、陽性反応的中率は国の指標をやや下回る結果ではあるが、引き続き多くの肺がんが発見され、精度管理も良好と考えられる。

施設検診受診者数の増加と車検診受診者数の減少傾向とが続いているが、施設検診と車検診を比較すると、要精検率は施設検診3.69%、車検診3.54%であり同程度であった。要精検率についての地域差も縮小してきている。

X線受診者総数53,894人のうち経年受診者は35,420人、経年受診率65.7%である。

喀痰検査の対象となる高危険群所属者は7,238人（13.4%）で、そのうち喀痰検査を受診した者は2,079人で、X線検査受診者の3.9%、要精検者は2人、精検受診者2人であった。

経年と非経年受診者、高危険群と非高危険群所属者のがん発見率の比較では、経年受診者のがん発見率は0.040%、非経年受診者のがん発見率は0.054%であった。また、高危険群所属者7,238人のうちがんが10人発見され、がん発見率0.138%、非高危険群所属者46,656人のうちがんが14人発見され、がん発見率0.03%で、高危険群所属者の方が約4倍高かった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数 (率)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東 部	中 部	西 部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	18,203 (33.8%)	645	3.54	3.06	3.18	4.39
施 設 検 診 (病 院 ・ 診 療 所)	35,691 (66.2%)	1,318	3.69	3.43	3.79	3.98
計	53,894 (100%)	1,963	3.64	3.33	3.47	4.10

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)			
				計	東 部	中 部	西 部
車 検 診	555	86.0	7	0.038	0.058	0.039	0.016
施 設 検 診	1,204	91.4	17	0.048	0.035	0.042	0.065
計	1,759	89.6	24	0.045	0.042	0.040	0.050

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	6,860	210	3.06	186	88.6	9	4	0.058
中 部	5,189	165	3.18	145	87.9	11	2	0.039
西 部	6,154	270	4.39	224	83.0	10	1	0.016
計	18,203	645	3.54	555	86.0	30	7	0.038

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	17,060	586	3.43	553	94.4	46	6	0.035
中 部	4,777	181	3.79	157	86.7	3	2	0.042
西 部	13,854	551	3.98	494	89.7	11	9	0.065
計	35,691	1,318	3.69	1,204	91.4	60	17	0.048

〈経年受診者の状況〉

※経年受診者＝昨年度も肺がん検診を受診した者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体 (X線受診者数)			経年受診者数 (率)		
	男	女	計	男	女	計
R 1	22,150	32,521	54,671	15,612 (70.5%)	23,244 (71.5%)	38,856 (71.1%)
R 2	20,342	29,391	49,733	12,759 (62.7%)	18,788 (63.9%)	31,547 (63.4%)
R 3	21,875	32,019	53,894	14,452 (66.1%)	20,968 (65.5%)	35,420 (65.7%)

(2) がん発見率の推移

年 度	経 年 受 診 者			非 経 年 受 診 者			発見率倍率 (非経年/経年)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
R 1	38,856	19	0.049	15,815	19	0.120	2.46
R 2	31,547	20	0.063	18,186	12	0.066	1.04
R 3	35,420	14	0.040	18,474	10	0.054	1.37

〈高危険群所属者の状況〉

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当する者
年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体（X線受診者数）			高危険群所属者数（率）		
	男	女	計	男	女	計
R 1	22,150	32,521	54,671	6,093 (27.5%)	302 (0.9%)	6,395 (11.7%)
R 2	20,342	29,391	49,733	5,658 (27.8%)	562 (1.9%)	6,220 (12.5%)
R 3	21,875	32,019	53,894	6,874 (31.4%)	364 (1.1%)	7,238 (13.4%)

(2) がん発見率の推移

年度	高危険群所属者			非高危険群所属者			発見率倍率 (高危険/非高危険)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
R 1	6,395	7	0.109	48,276	31	0.064	1.70
R 2	6,220	10	0.161	43,513	22	0.051	3.18
R 3	7,238	10	0.138	46,656	14	0.030	4.60

〈喀痰細胞診の実施状況〉

※喀痰細胞診対象者＝X線検査受診者における高危険群所属者

(1) 結果の推移

年度	X線検査受診者中 高危険群所属者	喀痰検査受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	がん	がん発見率
R 1	6,395	1,828	1	0.05	0	0	0.000
R 2	6,220	1,890	5	0.26	4	2	0.106
R 3	7,238	2,079	2	0.10	2	0	0.000

〈発見がん患者の状況〉

(1) 要精検カテゴリー別患者数（人）

年 度	全 体	X線のみ要精検	喀痰のみ要精検	ともに要精検
R 1	38	38	0	0
R 2	32	30	1	1
R 3	24	24	0	0

2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

昭和62年度から令和3年度までに発見された肺がん又は肺がん疑いについて予後調査した結果、肺がん確定診断1,726例、内訳は原発性肺癌1,564例、転移性肺腫瘍162例であった。

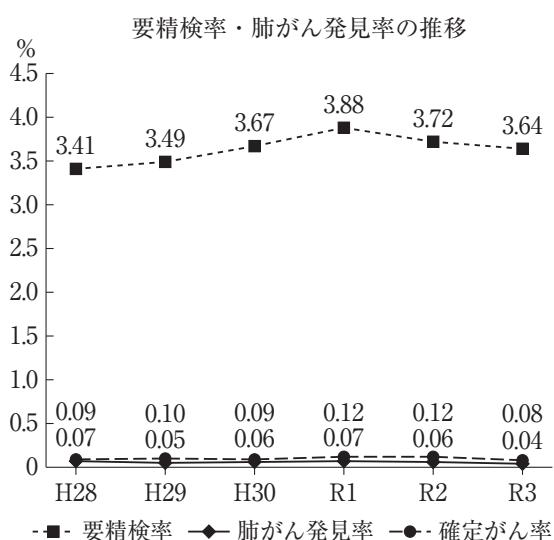
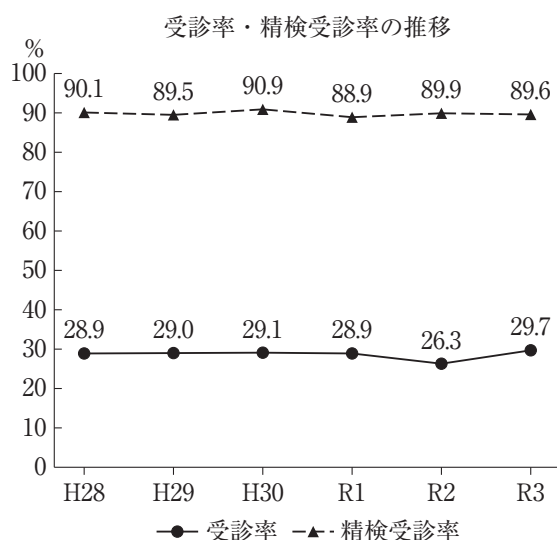
令和3年度については、以下のとおりであった。

- (1) 原発性肺癌38例、転移性肺腫瘍3例、合計41例の肺がん確定診断を得た。
- (2) 発見された原発性肺癌の38例すべて（100%）が胸部X線で発見され、喀痰細胞診で発見された肺がんはなかった。
- (3) 対人口10万人あたりの原発性肺癌発見者は71人であった。
- (4) 原発性肺癌の平均年齢は73.5歳、男性22例、女性は16例、臨床病期はⅠA期17例（44.7%）、Ⅰ期21例（55.3%）となっている。組織型は、腺癌は26例（68.4%）であった。
- (5) 手術症例の割合は26例（68.4%）、術後病期Ⅰ期の肺癌は21例（80.8%）であった。腺癌が20例（76.9%）で圧倒的に多かった。
- (6) 腫瘍径は平成30年度より第8版となり充実成分径で計測するようになったため、平均28.0mmであった。最高は60mmだった。
- (7) 転移性肺腫瘍は3例あり、前立腺癌1例、腎臓癌1例、不明1例であった。
- (8) 原発性肺癌確定者の施設検診と車検診の比較では、手術なしが施設検診では多かった。

(1) 肺がん検診の受診者数、受診率等の推移（最終報告）

区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	189,132	189,132	189,132	189,132	189,132	181,414
	受 診 者 数(人) B	54,679	54,776	55,050	54,671	49,733	53,894
	受 診 率(%) C = B/A	28.9	29.0	29.1	28.9	26.3	29.7
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	52,815	52,867	53,032	52,549	47,886	51,933
	要 精 検 者 数(人) E	1,864	1,909	2,023	2,123	1,850	1,963
	要 精 検 率(%) F = E/B 指標：許容値3.0%以下	3.41	3.49	3.67	3.88	3.72	3.64
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,680	1,709	1,839	1,887	1,664	1,759
	精 検 受 診 率(%) H = G/E 指標：目標値90%以上	90.1	89.5	90.9	88.9	89.9	89.6
精 密 検 査 結 果	肺 が ん の 者(人) I	40(52)	28(94)	31(115)	46(104)	42(68)	28(90)
	上記のうち原発性肺がんの数 J	37	27	31	38	32	24
	肺 が ん 発 見 率(%) K = J/B 指標：許容値0.03%以上	0.07	0.05	0.06	0.07	0.06	0.04
	陽 性 反 応 適 中 度(%) L = J/E 指標：許容値1.3%以上	2.0	1.4	1.5	1.8	1.7	1.2
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) M	50	53	52	63	59	41
	上記のうち原発性肺がん数(人) N	46	50	49	59	55	38
	確 定 が ん 率(%) O = N/B	0.09	0.10	0.09	0.12	0.12	0.08

- * 1 精密検査結果中の（ ）内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出
- * 4 確定がん数は、確定調査結果、がんと確定された数を計上
- * 5 要精密検査者数(E)、精検受診者数(G)、肺がんの者(I)、確定がん数(L)については、E判定者数を計上



(2) 令和3年度肺がん検診結果

1) 一次検診（年齢階級別）

a. X線検査結果

年 齢	対象者数		胸 部 エ ッ ク ス 線 検 査									エックス線フィルム読影結果						
			一次検診 受診者数		受診率 (%)			経年受診者数 再掲※		経年受診者 割合 (%)		要精検者数		要精検率 (%)				
	a		b		c = b/a			d		e = d/b			f		g = f/b			
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	計		
40～44歳	2,972	3,512	663	1,206	22.3	34.3	28.8	246	456	37.1	37.8	19	19	2.87	1.58	2.03		
45～49歳	3,210	3,799	747	1,202	23.3	31.6	27.8	376	632	50.3	52.6	16	27	2.14	2.25	2.21		
50～54歳	2,743	3,589	704	1,307	25.7	36.4	31.8	375	717	53.3	54.9	15	27	2.13	2.07	2.09		
55～59歳	2,891	4,281	692	1,511	23.9	35.3	30.7	385	851	55.6	56.3	21	36	3.03	2.38	2.59		
60～64歳	5,176	7,615	1,649	3,071	31.9	40.3	36.9	875	1,887	53.1	61.4	59	90	3.58	2.93	3.16		
65～69歳	10,744	13,455	3,959	5,385	36.8	40.0	38.6	2,616	3,724	66.1	69.2	151	154	3.81	2.86	3.26		
70～74歳	14,256	17,509	6,086	7,658	42.7	43.7	43.3	4,467	5,581	73.4	72.9	224	252	3.68	3.29	3.46		
75～79歳	11,216	15,094	3,524	4,814	31.4	31.9	31.7	2,537	3,333	72.0	69.2	154	209	4.37	4.34	4.35		
80歳以上	19,085	40,267	3,851	5,865	20.2	14.6	16.4	2,575	3,787	66.9	64.6	199	289	5.17	4.93	5.02		
計	72,293	109,121	21,875	32,019	30.3	29.3	29.7	14,452	20,968	66.1	65.5	858	1,103	3.92	3.44	3.64		
合計	181,414		53,894		29.7			35,420		65.7		1,961		3.64				

※経年受診者＝昨年度も肺がん検診を受診した者

b. 喀痰細胞診結果

年 齢	X線検査受診 者中高危険群 所属者※		喀痰容器提 出者数 h		喀痰細胞診結果						X線・ 喀 痰 細胞診 ともに 要精検 k		一次検診総合結果					
					要精検 者数 i		精 検 不 要		要精検率 (%) j = i/h				要精検者数 l = f + i - k		要精検率 (%) m = l/b			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計			
40～44歳	2	1	1	2	0	0	1	2	0.00	0.00	0	0	19	19	2.87	1.58	2.03	
45～49歳	4	2	6	0	0	0	6	0	0.00	0.00	0	0	16	27	2.14	2.25	2.21	
50～54歳	170	27	53	11	0	0	53	11	0.00	0.00	0	0	15	27	2.13	2.07	2.09	
55～59歳	190	28	50	12	0	0	50	12	0.00	0.00	0	0	21	36	3.03	2.38	2.59	
60～64歳	548	57	177	17	0	0	177	17	0.00	0.00	0	0	59	90	3.58	2.93	3.16	
65～69歳	1,443	70	436	20	0	0	436	20	0.00	0.00	0	0	151	154	3.81	2.86	3.26	
70～74歳	2,367	93	694	26	2	0	692	26	0.29	0.00	0	0	226	252	3.71	3.29	3.48	
75～79歳	1,224	50	330	19	0	0	330	19	0.00	0.00	0	0	154	209	4.37	4.34	4.35	
80歳以上	926	36	215	10	0	0	215	10	0.00	0.00	0	0	199	289	5.17	4.93	5.02	
計	6,874	364	1,962	117	2	0	1,960	117	0.10	0.00	0	0	860	1,103	3.93	3.44	3.64	
合 計	7,238		2,079		2		2,077		0.10		0		1,963		3.64			

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当するもの
年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	要精検者数 (再掲)		精密検査 受診者数		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率(%)			陽性反応適中度 (%)		
	n		o		p = o / n			異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん		r = q / b			s = q / n		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	19	19	17	18	89.5	94.7	92.1	11	8	6	10	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	16	27	14	22	87.5	81.5	83.7	11	13	3	7	0	2	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	15	27	13	24	86.7	88.9	88.1	7	13	5	9	1	2	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	21	36	17	33	81.0	91.7	87.7	9	19	7	13	1	0	0	1	0.000	0.066	0.045	0.0	2.8	1.8
60～64歳	59	90	48	82	81.4	91.1	87.2	29	40	16	38	1	4	2	0	0.121	0.000	0.042	3.4	0.0	1.3
65～69歳	151	154	133	136	88.1	88.3	88.2	56	64	64	65	8	5	5	2	0.126	0.037	0.075	3.3	1.3	2.3
70～74歳	226	252	201	234	88.9	92.9	91.0	83	102	101	118	16	12	1	2	0.016	0.026	0.022	0.4	0.8	0.6
75～79歳	154	209	138	196	89.6	93.8	92.0	67	87	58	95	7	12	6	2	0.170	0.042	0.096	3.9	1.0	2.2
80歳以上	199	289	179	254	89.9	87.9	88.7	62	114	107	128	9	10	1	2	0.026	0.034	0.031	0.5	0.7	0.6
計	860	1,103	760	999	88.4	90.6	89.6	335	460	367	483	43	47	15	9	0.069	0.028	0.045	1.7	0.8	1.2
合計	1,963		1,759		89.6			795		850		90		24					1.2		
X線のみ要精検	1,961		1,757		89.6			794		850		89		24		/			1.2		
略痰のみ要精検	2		2		100.0			1		0		1		0					0.0		
X線+略痰要精検	0		0		0.0			0		0		0		0					0.0		

3) 検診機関別

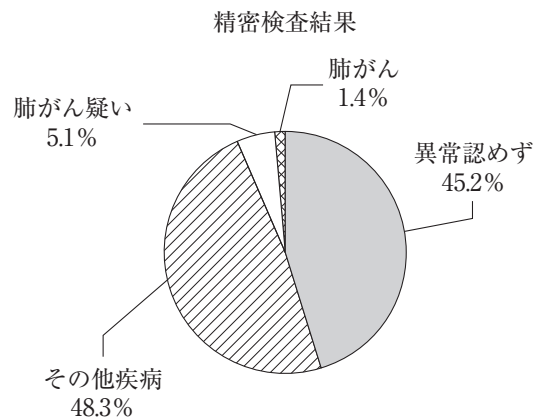
a. 一次検診結果

一 次 検 診 機 関	胸部エックス線検査				エックス線フィルム読影結果							X線検査受診 者中高危険群 所 属 者	
	受診者数 a'		経年受診者数再掲		要精検者数 b'		異常認めず		要精検率 (%) c' = b' / a'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女
保 健 事 業 団	6,647	10,642	4,514	7,217	260	347	6,387	10,295	3.91	3.26	3.51	2,195	88
中国労働衛生協会	312	602	224	502	12	26	300	576	3.85	4.32	4.16	38	5
病 院	4,299	5,546	2,991	3,727	169	201	4,130	5,345	3.93	3.62	3.76	1,281	62
診 療 所	10,617	15,229	6,723	9,522	417	529	10,200	14,700	3.93	3.47	3.66	3,360	209
計	21,875	32,019	14,452	20,968	858	1,103	21,017	30,916	3.92	3.44	3.64	6,874	364
合 計	53,894		35,420		1,961		51,933		3.64			7,238	

一次検診機関	喀痰容器提出者数		喀痰細胞診結果						X線・喀痰細胞診とも必要精検(C)		一次検診総合結果				
			要精検者数		精検不要		要精検率(%)				要精検者数		要精検率(%)		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	430	28	0	0	430	28	0.00	0.00	0	0	260	347	3.91	3.26	3.51
中国労働衛生協会	30	0	0	0	30	0	0.00	0.00	0	0	12	26	3.85	4.32	4.16
病院	456	18	1	0	455	18	0.22	0.00	0	0	170	201	3.95	3.62	3.77
診療所	1,046	71	1	0	1,045	71	0.10	0.00	0	0	418	529	3.94	3.47	3.66
計	1,962	117	2	0	1,960	117	0.10	0.00	0	0	860	1,103	3.93	3.44	3.64
合計	2,079		2		2,077		0.10		0		1,963		3.64		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数		精密検査受診率(%)			精密検査結果								肺がん発見率(%)			陽性反応適中度(%)		
						異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	220	303	84.6	87.3	86.2	94	138	110	144	11	19	5	2	0.075	0.019	0.040	1.9	0.6	1.2
中国労働衛生協会	11	21	91.7	80.8	84.2	5	9	6	12	—	—	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
病院	157	186	92.4	92.5	92.5	72	91	73	88	11	7	1	0	0.023	0.000	0.010	0.6	0.0	0.3
診療所	372	489	89.0	92.4	90.9	164	222	178	239	21	21	9	7	0.085	0.046	0.062	2.2	1.3	1.7
計	760	999	88.4	90.6	89.6	335	460	367	483	43	47	15	9	0.069	0.028	0.045	1.7	0.8	1.2
合計	1,759		89.6			795		850		90		24		0.045			1.2		



4) 令和3年度肺がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員						がん陽性反応 適中 度 (%) R = O/H		
	対象者数	車検診 施設検診	計	受診率 (%) E = D/A	車検診	施設検診	計	要精検率 (%) I = H/D	精 受診者数	精 検 受診率 (%) K = J/H	異 認め ず	常 疾 病	他の がん 疑い	肺 がん		有所見者 P = M+N+O	が発見率 (%) Q = O/D
A	B	C	D = B + C	E = D/A	F	G	H = F + G	I = H/D	J	K = J/H	L	M	N	O	P = M + N + O	Q = O/D	
鳥取市	57,633	3,400	14,563	17,963	31.2	97	495	592	3.30	94.4	249	254	47	9	310	0.050	1.5
米子市	43,796	1,119	10,343	11,462	26.2	32	424	456	3.98	88.8	190	196	10	9	215	0.079	2.0
倉吉市	16,163	560	2,754	3,314	20.5	16	107	123	3.71	85.4	53	46	4	2	52	0.060	1.6
境港市	10,796	808	2,254	3,062	28.4	39	82	121	3.95	91.7	46	63	2	0	65	0.000	0.0
岩美町	4,245	1,040	406	1,446	34.1	30	12	42	2.90	90.5	14	22	1	1	24	0.069	2.4
八頭町	5,674	1,852	912	2,764	48.7	52	37	89	3.22	88.8	32	42	5	0	47	0.000	0.0
若桜町	1,336	129	649	778	58.2	6	26	32	4.11	87.5	12	15	1	0	16	0.000	0.0
智頭町	2,723	439	530	969	35.6	25	16	41	4.23	85.4	18	16	1	0	17	0.000	0.0
湯梨浜町	5,319	1,136	856	1,992	37.5	46	27	73	3.66	93.2	28	35	5	0	40	0.000	0.0
三朝町	2,336	864	174	1,038	44.4	21	7	28	2.70	82.1	14	8	1	0	9	0.000	0.0
北栄町	5,250	1,281	643	1,924	36.6	46	27	73	3.79	89.0	31	29	3	2	34	0.104	2.7
琴浦町	6,243	1,348	350	1,698	27.2	36	13	49	2.89	83.7	22	18	1	0	19	0.000	0.0
南部町	3,722	291	1,257	1,548	41.6	10	45	55	3.55	87.3	18	29	1	0	30	0.000	0.0
伯耆町	4,091	1,078	0	1,078	26.4	45	0	45	4.17	77.8	13	18	4	0	22	0.000	0.0
日吉津村	981	232	0	232	23.6	20	0	20	8.62	65.0	3	9	1	0	10	0.000	0.0
大山町	6,342	1,309	0	1,309	20.6	64	0	64	4.89	84.4	25	26	2	1	29	0.076	1.6
日南町	2,198	496	0	496	22.6	19	0	19	3.83	94.7	9	9	0	0	9	0.000	0.0
日野町	1,340	231	0	231	17.2	11	0	11	4.76	81.8	6	2	1	0	3	0.000	0.0
江府町	1,226	590	0	590	48.1	30	0	30	5.08	83.3	12	13	0	0	13	0.000	0.0
合計	181,414	18,203	35,691	53,894	29.7	645	1,318	1,963	3.64	89.6	795	850	90	24	964	0.045	1.2
東部	71,611	6,860	17,060	23,920	33.4	210	586	796	3.33	92.8	325	349	55	10	414	0.042	1.3
中部	35,311	5,189	4,777	9,966	28.2	165	181	346	3.47	87.3	148	136	14	4	154	0.040	1.2
西部	74,492	6,154	13,854	20,008	26.9	270	551	821	4.10	87.5	322	365	21	10	396	0.050	1.2

(3) 令和3年度肺がん検診発見がん患者の予後調査の確定について

2023. 2. 13現在

肺がん確定診断（原発性1,564、転移性162） 1,726例
 他部位癌（鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5） 12例

総計 1,738例

1) 肺がん確定診断

(単位：例)

	昭和 62年	昭和 63年	平成 元年	平成 2年	平成 3年	平成 4年	平成 5年	平成 6年	平成 7年	平成 8年	平成 9年	平成 10年
原発性肺癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38	38	53	40
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5	4	2	7
合計	6	26	22	36	43	46	44	27	43	42	55	47

	平成 11年	平成 12年	平成 13年	平成 14年	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年
原発性肺癌	41	42	30	48	65	50	57	62	48	52	41	65
転移性肺腫瘍	7	6	7	6	3	2	5	6	7	3	8	4
合計	48	48	37	54	68	52	62	68	55	55	49	69

	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	合計
原発性肺癌	55	49	58	74	47	46	50	49	59	55	38	1,564
転移性肺腫瘍	6	5	4	7	1	4	3	3	4	4	3	162
合計	61	54	62	81	48	50	53	52	63	59	41	1,726

2) 原発性肺がん診断方法

				〔令和3年度集計〕			
胸 X 間 接	Dのみ	245例	} 1,455例(93.0%)	Dのみ	0例	} 38例(100.0%)	
	Eのみ	1,210例		Eのみ	38例		
細 胞 診	Dのみ	23例	} 58例(3.7%)	Dのみ	0例	} 0例(0.0%)	
	Eのみ	35例		Eのみ	0例		
胸X線間接と細胞診	D + D	11例	} 48例(3.1%)	D + D	0例	} 0例(0.0%)	
	D + E	9例		D + E	0例		
	E + D	6例		E + D	0例		
	E + E	22例		E + E	0例		
	不明	3例	} 3例(0.2%)	不明	0例	} 0例(0.0%)	
計 1,564例				計 38例			

3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S62	16,420	745(4.54%)	652(87.5%)	6	37
S63	38,445	65(0.17%)	60(92.3%)	22	57
H元	52,473	117(0.22%)	107(91.5%)	18	34
H2	68,374	153(0.22%)	132(86.3%)	32	49
H3	70,189	95(0.14%)	89(93.7%)	36	51
H4	69,909	133(0.19%)	111(83.5%)	37	53
H5	69,027	133(0.19%)	98(73.7%)	41	59
H6	66,316	103(0.16%)	89(86.4%)	22	33
H7	65,226	162(0.25%)	135(83.3%)	38	58
H8	64,169	114(0.18%)	91(79.8%)	38	59
H9	67,092	152(0.23%)	123(80.9%)	53	79
H10	64,540	137(0.21%)	111(81.0%)	40	62
H11	64,845	169(0.26%)	142(84.0%)	41	64
H12	62,837	311(0.49%)	242(77.8%)	42	67
H13	62,631	216(0.34%)	152(70.4%)	30	48
H14	63,616	343(0.54%)	271(79.0%)	48	75
H15	63,649	640(1.01%)	489(76.4%)	65	102
H16	60,113	1,791(2.98%)	1,433(80.0%)	50	83
H17	51,020	1,659(3.25%)	1,409(84.9%)	57	112
H18	49,296	1,780(3.61%)	1,505(84.6%)	62	126
H19	49,806	1,940(3.90%)	1,656(85.4%)	48	96
H20	46,015	2,041(4.44%)	1,799(88.1%)	52	113
H21	46,247	2,122(4.59%)	1,888(89.0%)	41	89
H22	45,482	2,004(4.41%)	1,767(88.2%)	65	142
H23	48,513	2,467(5.09%)	2,208(89.5%)	55	113
H24	50,376	2,460(4.88%)	2,201(89.5%)	49	97
H25	50,569	2,345(4.64%)	2,062(87.9%)	58	115
H26	53,208	2,303(4.33%)	2,021(87.8%)	74	139
H27	55,045	2,092(3.80%)	1,877(89.7%)	47	85
H28	54,679	1,864(3.41%)	1,680(90.1%)	46	84
H29	54,776	1,909(3.49%)	1,709(89.5%)	50	91
H30	55,050	2,021(3.67%)	1,839(91.0%)	49	89
R元	54,671	2,123(3.88%)	1,887(88.9%)	59	106
R2	49,733	1,850(3.72%)	1,666(90.1%)	55	111
R3	53,894	1,963(3.64%)	1,759(89.6%)	38	71
計	1,958,251	40,522(2.07%)	35,460(87.5%)	1,564	80

4) 原発性肺癌 (1,564例)

(1) 年齢・性別

[R3年度集計]

区分	原発性肺癌(例)	比率(%)
～59歳	92	5.9
60～69歳	466	29.8
70～79歳	717	45.8
80～	289	18.5
計	1,564	100.0

平均年齢=72.3
男:女=933例:630例(不明:1例)

区分	原発性肺癌(例)	比率(%)
～59歳	2	5.3
60～69歳	11	28.9
70～79歳	20	52.6
80～	5	13.2
計	38	100.0

平均年齢=73.5
男:女=22例:16例(不明:0例)

(2) 原発性肺癌の臨床病期と組織型

a. 病期分類 (第7版+8版)

臨床病期	(例)
Occult	2
0	2
I A	661 (42.3%)
I B	238
II A	58
II B	82
III A	176
III B	93
III C	3
IV	212
不明	37
計	1,564

〔R3年度集計〕(第8版)

臨床病期	(例)
Occult	0
0	0
I A	17 (44.7%)
I B	4
II A	0
II B	6
III A	2
III B	1
III C	0
IV	7
不明	1
計	38

21 (55.3%)
I期肺癌

多発癌は病期の
進んだ方を採用

IAの内訳……臨床病期 IA1: 2例、IA2: 9例、IA3: 6例

b. 組織型

組織型	(例)
扁平上皮癌	330
腺癌	991 (63.2%)
大細胞癌	21
小細胞癌	93
腺扁平上皮癌	14
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	116
計	1,567*

〔R3年度集計〕

組織型	(例)
扁平上皮癌	4
腺癌	26 (68.4%)
大細胞癌	1
小細胞癌	3
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	0
不明	4
計	38

* 3例: 扁平上皮癌と腺癌、腺癌と大細胞癌、腺癌と腺癌(**)の同時多発癌を含む

(3) 原発性肺癌の手術症例

(981例、手術率: 62.7%)

〔R3年度集計〕

a. 臨床病期、術後病期

原発性肺癌の手術症例 (26例、手術率: 68.4%)

臨床病期 (例)		術後病期 (例)	
Occult	2	Occult	2
0	0 (0.0%)	0	2 (0.2%)
I A	586 (59.7%)	I A	501 (51.1%)
I B	197	I B	219
II A	36	II A	46
II B	53	II B	65
III A	82	III A	95
III B	15	III B	24
III C	0	III C	0
IV	9	IV	22
不明	1	不明	5
計	981	計	981

臨床病期 (例)		術後病期 (例)	
Occult	0	Occult	0
0	0	0	0
I A*	16 (61.5%)	I A**	13 (50.0%)
I B	4	I B	8
II A	0	II A	0
II B	5	II B	1
III A	1	III A	3
III B	0	III B	0
III C	0	III C	0
IV	0	IV	1
不明	0	不明	0
計	26	計	26

21 (80.8%)

IAの内訳……臨床病期 IA1: 2例、IA2: 8例、IA3: 6例

**術後病期 IA1: 2例、IA2: 7例、IA3: 4例

b. 組織型分類

〔R 3年度集計〕

組織型	(例)
扁平上皮癌	183
腺癌	737(75.1%)
大細胞癌	16
小細胞癌	11
腺扁平上皮癌	15
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	17
計	981

組織型	(例)
扁平上皮癌	4
腺癌	20(76.9%)
大細胞癌	1
小細胞癌	0
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	0
不明	1
計	26

(4) 腫瘍径

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)	H17年度 (%)	H18年度 (%)	H19年度 (%)	H20年度 (%)	H21年度 (%)
0~10	1	2	1	0	2	1	2	4	2	4	3	2
11~20	9 (22.5)	10	15(35.7)	11(36.7)	17(35.4)	11	17(34.0)	11	26(41.9)	14(29.2)	21(40.4)	10
21~30	6	15(36.6)	7	6	13	13	10	16(28.1)	15	18	6	13(31.7)
31~40	6	9	8	9	8	17(26.2)	12	11	10	5	14	8
41~50	7	1	3	1	3	8	4	4	2	3	5	6
51~	7	2	6	3	3	13	5	6	4	1	1	2
不明	4	2	2	0	2	2	0	5	3	3	2	0
計	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48	52	41
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	29.6mm	30.6mm	26.0mm	24.6mm	26.1mm	25.9mm
最高	90mm	70mm	80mm	100mm	85mm	145mm	70mm	85mm	59mm	57mm	71mm	68mm

腫瘍径 (mm)	H22年度 (%)	H23年度 (%)	H24年度 (%)	H25年度 (%)	H26年度 (%)	H27年度 (%)	H28年度 (%)	H29年度 (%)	H30年度 (%)	R元年度 (%)	R2年度 (%)	R3年度 (%)
0~10	2	1	4	3	3	0	1	8	1	1	9	1(2.6)
11~20	13	16(29.1)	14(28.6)	16	28(37.8)	16(34.0)	14(30.4)	15(30.0)	14(28.6)	13	14(25.5)	10(26.3)
21~30	26(40.0)	16(29.1)	13	20(34.5)	21	8	10	15	15	16(27.1)	11	14(36.8)
31~40	15	6	8	8	7	14	13	2	5	16(27.1)	6	4(10.5)
41~50	6	4	6	5	6	6	5	2	7	8	6	4(10.5)
51~	2	11	2	6	5	3	2	8	5	2	8	2(5.3)
不明	1	1	2	0	4	0	1	0	2	3	1	3(7.9)
計	65	55	49	58	74	47	46	50	49	59	55	38
平均	29.4mm	33.2mm	28.4	28.3mm	26.7mm	30.4mm	28.6mm	32.2mm	32.1mm	29.5mm	27.7mm	28.0mm
最高	80mm	90mm	100mm	60mm	70mm	70mm	56mm	83mm	71mm	68mm	80mm	60mm

5) 転移性肺腫瘍 (162例)

大腸癌：34例 乳癌：21例 前立腺癌：15例 甲状腺癌：13例 腎臓癌：13例
 肝臓癌：9例 胃癌：8例 子宮癌：5例 胆管癌：4例 膵臓癌：4例
 尿管癌：4例 胆のう癌：4例 膀胱癌：4例 肺癌：2例 食道癌：2例
 卵巣癌：2例 子宮肉腫：2例 胸腺癌：1例 肛門癌：1例 顎下腺癌：1例
 咽頭癌：1例 後腹膜腫瘍：1例 卵管肉腫：1例 腹膜癌：1例 不明：9例

〔R 3年度集計〕 (3例)

前立腺癌：1例、腎臓癌：1例、不明：1例

6) 令和3年度原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較

	車 検 診	施 設 検 診
受診者数	18,203	35,691
要精検数	645 (3.5) 東部：210 (3.06) 中部：165 (3.18) 西部：270 (4.39)	1,318 (3.69) 東部：586 (3.43) 中部：181 (3.79) 西部：551 (3.98)
確定者数	12名 (0.077) (東：6中：3、西：3)	26名 (0.073) (東：13中：2、西：11)
発見方法	E1：11、E2：1	E1：12、E2：3、E：11
年 齢	72.1歳	74.0歳
性 差	男性：9名 女性：3名	男性：13名 女性：13名
臨床病期	0 0名 ⅠA7名、ⅠB0名、 ⅡA0名、ⅡB2名、 ⅢA1名、ⅢB0名 Ⅳ2名	0 0名 ⅠA10名、ⅠB4名、 ⅡA0名、ⅡB4名、 ⅢA1名、ⅢB1名 Ⅳ5名、不明1名
組 織 型	扁平上皮癌2名、腺癌10名	扁平上皮癌2名、腺癌16名、 大細胞癌1名、小細胞癌3名、 不明4名
手 術	あり10名、なし2名	あり16名、なし10名
腫 瘍 径	2.92cm	2.75cm

4. 乳 がん 検 診

1. 乳がん検診実績

令和3年度対象者数109,121人（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）、受診者数17,631人、受診率16.2%で、令和2年度より2.1ポイント増加した。

このうち、40歳から69歳の値（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）は、対象者数36,251人、受診者数12,236人、受診率33.8%であった。

要精検者数1,108人、要精検率6.28%で前年度より0.49ポイント減少した。精検受診者数1,050人、精検受診率は94.8%で、令和2年度より0.6ポイント減少した。

精検の結果、乳がん78人、がん発見率（がん/受診者数）0.44%、陽性反応適中度（がん/要精検者数）7.04%であった。令和2年度に比べ、がん発見率は0.15ポイント、陽性反応適中度は1.7ポイント減少した。

要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度において国が示す許容値を満たしており、精度は保たれていると考えられる。

令和2年度はコロナ感染症の影響で受診率、受診人数の低下が起こっていたが、令和3年度は例年通りの受診状況に戻りつつある。検診のプロセス指標（要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度）は、例年通りすべて達成できていた。

〈検診機関別受診結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数（率）	要精検者数	要精検率（%）
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	7,423 (42.1%)	453	6.10
施 設 検 診 (病院・診療所)	10,208 (57.9%)	655	6.42
計	17,631 (100%)	1,108	6.28

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
車 検 診	424	93.6	26	0.35
施 設 検 診	626	95.6	52	0.51
計	1,050	94.8	78	0.44

〈圏域別結果〉

区 分	対象者数	受診者数	受診率 (%)	要精検率 (%)	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
東 部	42,827	7,123	16.63	4.70	326	97.3	22	0.31
中 部	20,991	3,273	15.59	5.77	173	91.5	18	0.55
西 部	45,303	7,235	15.97	8.07	551	94.3	38	0.53
計	109,121	17,631	16.16	6.28	1,050	94.8	78	0.44

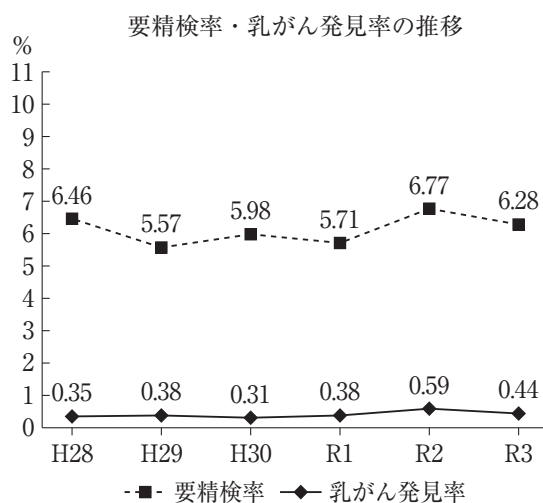
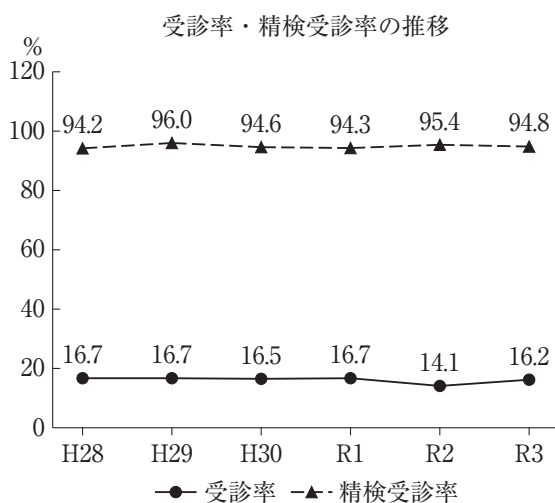
2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

令和3年度の確定乳がんは78例で、前年度より18例減少した。確定乳癌の平均年齢は64.8歳であったが、患者数では70歳代の患者が最も多かった。乳癌罹患率は全国的にも45歳から急上昇し、70～74歳のピークとなっており、本県のデータもそれを裏付けていた。早期癌は65.0%を占め、前年度と同様であった。40歳代の受診者にステージ4の症例が1例あり、初回受診であった。術式は乳房温存手術の割合が全体の1/3程度（34%）であり、近年この比率が続いている。

(1) 乳がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区 分		平成28年度	平成28年度・鳥取市分含	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
一次検診	対象者数(人) A	115,469	115,469	115,469	115,469	115,469	115,469	109,121
	受診者数(人) B	13,226	19,245	19,317	19,075	19,228	16,249	17,631
	受診率(%) C = B/A	11.5	16.7	16.7	16.5	16.7	14.1	16.2
一次検診結果	異常認めず(人) D	12,265	18,001	18,242	17,935	18,131	15,149	16,523
	要精検者数(人) E	961	1,244	1,075	1,140	1,097	1,100	1,108
	要精検率(%) F = E/B 指標 11.0%以下	7.27	6.46	5.57	5.98	5.71	6.77	6.28
精密検査	精検受診者数(人) G	896	1,172	1,032	1,078	1,034	1,049	1,050
	精検受診率(%) H = G/E	93.2	94.2	96.0	94.6	94.3	95.4	94.8
精密検査結果	乳がんの者(人) I	49(2)	67(3)	74(3)	60(1)	73(0)	96(0)	78(6)
	乳がん発見率(%) J = I/B 指標 0.23%以上	0.37	0.35	0.38	0.31	0.38	0.59	0.44
	陽性反応適中度(%) K = I/E 指標 2.5%以上	5.10	5.39	6.88	5.26	6.65	8.73	7.04
確定調査結果	確定がん数(人) L	45	63	72	60	73	96	78
	確定がん率(%) M = L/B	0.34	0.33	0.37	0.31	0.37	0.59	0.44

- * 1 精密検査結果欄の () 内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- * 4 確定がん数について
 - ・確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上
- * 5 平成30年度報告（平成29年度実績）から、検診方法がマンモグラフィのみとなった。



(2) 令和3年度乳がん検診（マンモグラフィのみの受診者）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年齢	対象者数 a	一次検診受診者数 b	受診率 (%) c = b/a	一次検診結果		要精検率 (%) e = d/b
				要精検者数 d	異常認めず	
40～44歳	3,512	1,961	55.8	193	1,768	9.84
45～49歳	3,799	1,683	44.3	157	1,526	9.33
50～54歳	3,589	1,882	52.4	128	1,754	6.80
55～59歳	4,281	1,677	39.2	98	1,579	5.84
60～64歳	7,615	2,543	33.4	132	2,411	5.19
65～69歳	13,455	2,490	18.5	123	2,367	4.94
70～74歳	17,509	3,091	17.7	162	2,929	5.24
75～79歳	15,094	1,288	8.5	64	1,224	4.97
80歳以上	40,267	1,016	2.5	51	965	5.02
計	109,121	17,631	16.2	1,108	16,523	6.28

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数 f	精密検査 受診率 (%) g = f / d	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) i = h / b	陽性反応 適中度 (%) j = h / d
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん h		
40～44歳	185	95.9	70	110	0	5	0.25	2.59
45～49歳	151	96.2	69	77	0	5	0.30	3.18
50～54歳	123	96.1	49	67	0	7	0.37	5.47
55～59歳	93	94.9	47	36	0	10	0.60	10.20
60～64歳	121	91.7	64	48	3	6	0.24	4.55
65～69歳	118	95.9	64	44	0	10	0.40	8.13
70～74歳	153	94.4	71	54	3	25	0.81	15.43
75～79歳	57	89.1	28	24	0	5	0.39	7.81
80歳以上	49	96.1	18	26	0	5	0.49	9.80
計	1,050	94.8	480	486	6	78	0.44	7.04

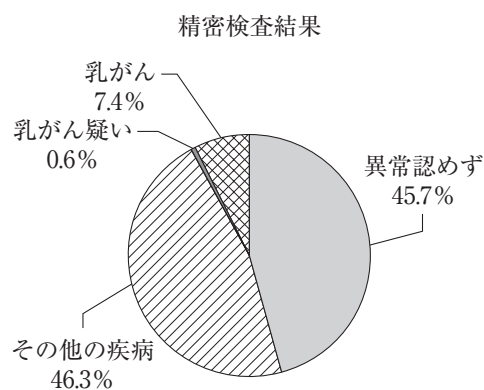
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

検診機関	一次検診 受診者数 a'	一次検診結果		要精検率(%) c' = b' / a'
		要精検者数 b'	異常認めず	
保健事業団	7,128	432	6,696	6.06
病 院	8,455	546	7,909	6.46
診 療 所	1,753	109	1,644	6.22
中国労働衛生協会	295	21	274	7.12
計	17,631	1,108	16,523	6.28

b. 精密検査結果

検 診 機 関	精密検査 受診者数 d'	精密検査 受診率 (%) f' = d' / b'	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) h' = g' / a'	陽性反応 適中度 (%) I' = h' / b'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん g'		
保健事業団	404	93.52	199	179	2	24	0.34	5.56
病 院	520	95.24	228	245	2	45	0.53	8.24
診 療 所	106	97.25	49	48	2	7	0.40	6.42
中国労働衛生協会	20	95.2	4	14	0	2	0.68	9.52
計	1,050	94.8	480	486	6	78	0.44	7.04



4) 令和3年度乳がん検診受診状況(マンモグラフィーのみの受診者)

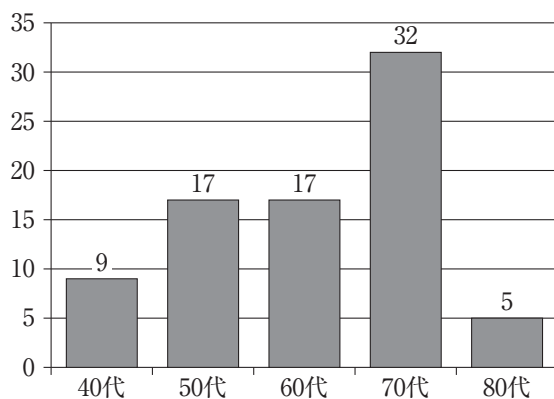
市町村名	受診者数				要精検査数				精密検査結果別人員						がん発見率(%) Q=O/D	陽性反応 適中度(%) R=O/H		
	対象者数 A	車検診 B	施設検診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検診 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検査率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精 検 率 (%) K=J/H	異常 認めず L	その他 の疾病 M	がん 疑い N			がん O	有所見者 P=M+N+O
鳥取市	34,640	2,336	3,159	5,495	15.9	120	140	260	4.73	254	97.7	100	135	1	18	154	0.328	6.9
米子市	26,929	528	3,321	3,849	14.3	60	265	325	8.44	313	96.3	116	174	2	21	197	0.546	6.5
倉吉市	9,799	352	721	1,073	11.0	23	47	70	6.52	67	95.7	34	28	0	5	33	0.466	7.1
境港市	6,622	353	929	1,282	19.4	28	66	94	7.33	90	95.7	61	26	1	2	29	0.156	2.1
岩美町	2,446	171	309	480	19.6	9	11	20	4.17	20	100.0	10	9	0	1	10	0.208	5.0
八頭町	3,339	574	144	718	21.5	28	9	37	5.15	36	97.3	21	15	0	0	15	0.000	0.0
若桜町	785	140	22	162	20.6	7	0	7	4.32	5	71.4	2	3	0	0	3	0.000	0.0
智頭町	1,617	151	117	268	16.6	6	5	11	4.10	11	100.0	4	4	0	3	7	1.119	27.3
湯梨浜町	3,083	457	193	650	21.1	23	16	39	6.00	30	76.9	11	15	0	4	19	0.615	10.3
三朝町	1,393	267	24	291	20.9	18	1	19	6.53	17	89.5	13	1	1	2	4	0.687	10.5
北栄町	3,070	430	140	570	18.6	21	8	29	5.09	28	96.6	16	8	1	3	12	0.526	10.3
琴浦町	3,646	544	145	689	18.9	23	9	32	4.64	31	96.9	18	9	0	4	13	0.581	12.5
南部町	2,199	162	261	423	19.2	11	26	37	8.75	37	100.0	21	12	0	4	16	0.946	10.8
伯耆町	2,425	204	223	427	17.6	13	15	28	6.56	15	53.6	6	9	0	0	9	0.000	0.0
日吉津村	628	58	75	133	21.2	2	5	7	5.26	7	100.0	3	2	0	2	4	1.504	28.6
大山町	3,632	411	171	582	16.0	44	17	61	10.48	57	93.4	27	25	0	5	30	0.859	8.2
日南町	1,288	122	34	156	12.1	10	2	12	7.69	12	100.0	10	2	0	0	2	0.000	0.0
日野町	828	163	0	163	19.7	7	0	7	4.29	7	100.0	2	5	0	0	5	0.000	0.0
江府町	752	0	220	220	29.3	0	13	13	5.91	13	100.0	5	4	0	4	8	1.818	30.8
合計	109,121	7,423	10,208	17,631	16.2	453	655	1,108	6.28	1,050	94.8	480	486	6	78	570	0.442	7.0
東部	42,827	3,372	3,751	7,123	16.6	170	165	335	4.70	326	97.3	137	166	1	22	189	0.309	6.6
中部	20,991	2,050	1,223	3,273	15.6	108	81	189	5.77	173	91.5	92	61	2	18	81	0.550	9.5
西部	45,303	2,001	5,234	7,235	16.0	175	409	584	8.07	551	94.3	251	259	3	38	300	0.525	6.5

(3) 令和3年度検診発見乳がん追跡調査結果

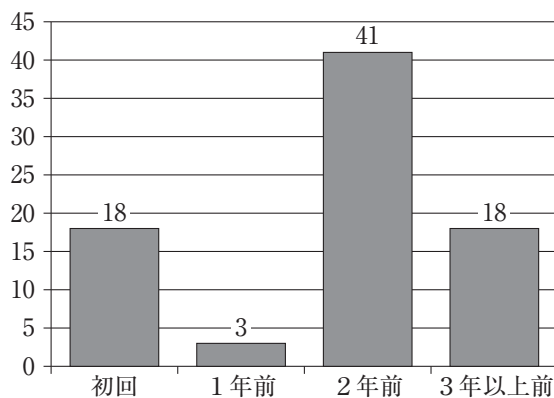
1) 確定乳癌80例

東部地区(23例)：鳥取市19例 岩美町1例 智頭町3例
中部地区(18例)：倉吉市5例 北栄町3例 湯梨浜町4例 琴浦町4例
三朝町2例
西部地区(39例)：米子市22例 境港市3例 大山町5例 南部町4例
江府町4例 日吉津村1例

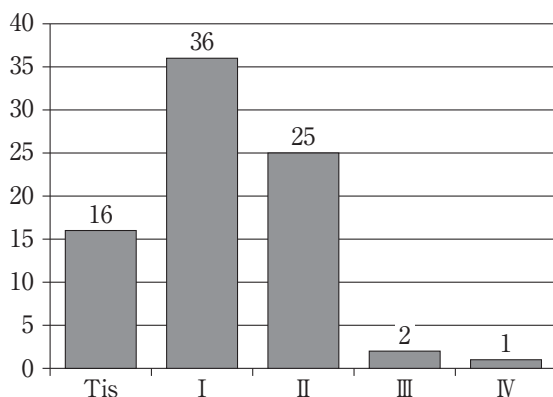
2) 年齢構成



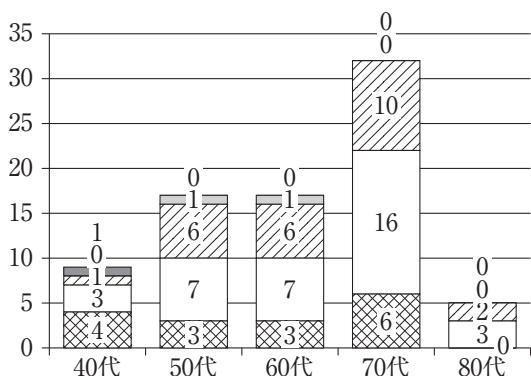
3) 検診歴



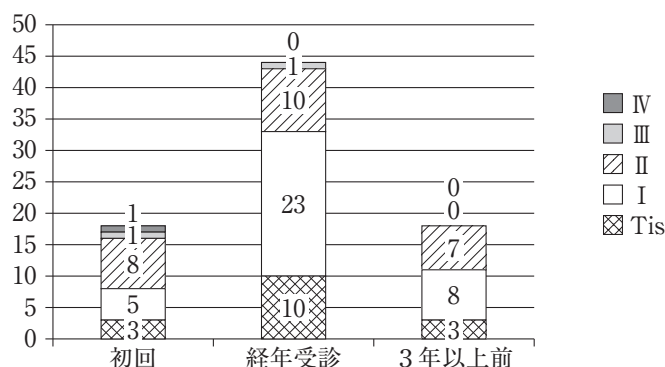
4) 病期



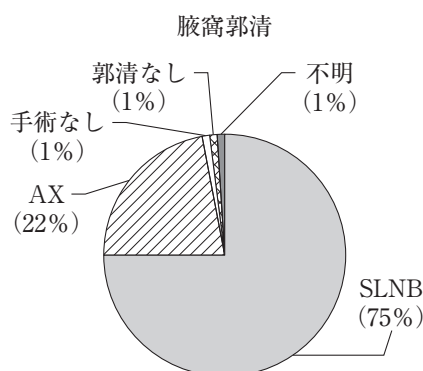
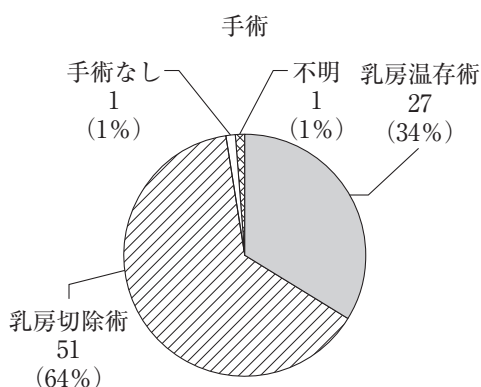
年代と病期



受診歴と病期



5) 治療



その他の治療

内分泌治療	58
化学療法	13
放射線	27
抗HER2薬	7

(重複あり)

まとめ

1. 令和3年度の乳癌確定症例は現時点で80例であった。前年度の96例に比較して減少していたが、例年並みであった。地域ごとの患者数は中部地区発見例の割合がやや増加していた。
2. 発見癌患者の平均年齢は64.8歳で前年度(63.7歳)とほぼ同様であった。例年60代の乳癌患者数が最も多いが、初めて70代が最も患者数の多い年代となった。2019年の国立がんセンター統計では、罹患率は45歳から急上昇となるが、70~74才の罹患率がピークとなっており、本県のデータもそれを裏付けるものかもしれない。
3. 検診受診歴についても前年度と同様で、経年受診者が多く、経年受診者では早期癌の割合が高かった。
4. 病期に関しては、65.0%が早期癌症例であり、前年度の66.7%とほぼ同様であった。40代の初回受診者にStage IV症例が1例認められた。
5. 術式に関しては、乳房部分切除(乳房温存)が34%であり、近年この比率が続いている。

5. 大腸がん検診

1. 大腸がん検診実績

対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）は181,414人で、受診者数は53,884人、受診率は29.7%で、前年度比で2.1ポイント増加した。令和2年度には受診率が27.6%まで低下して平成23年度以来の低い値となっていたが、今年度は改善傾向となった。

このうち、40歳から69歳の値（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）は、対象者数63,897人、受診者数24,641人、受診率38.5%であった。

要精検者数は4,143人、要精検率7.7%で、前年度より1.2ポイント減である。精検受診者は3,165人、精検受診率76.4%で前年度より0.2ポイント減である。精密検査の結果、大腸がんは144人で、前年度比5人の減少となった。大腸がん疑いは12人であった。がん発見率（がん/受診者数）は0.27%で前年度に比べ0.02ポイント減であった。また、陽性反応適中度（がん/要精検者数）は3.48%で前年度に比べ0.27ポイント増であった。

要精検率は東部7.1%、中部8.0%、西部8.2%、がん発見率は東部0.260%、中部0.227%、西部0.297%、陽性反応適中度は東部3.6%、中部2.8%、西部3.6%であった。

要精検率は国が示す許容値7%を上回っているが、がん発見率、陽性反応適中度は国の許容値を満たしており、精度は保たれていると考えられる。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数（率）	要精検者数	要精検率（%）			
			計	東部	中部	西部
車検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	18,343 (34.0%)	1,126	6.1	5.7	6.2	6.6
施設検診 (病院・診療所)	35,541 (66.0%)	3,017	8.5	7.8	10.6	8.7
計	53,884 (100%)	4,143	7.7	7.1	8.0	8.2

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	がん	がん発見率（%）			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	878	78.0	38	0.207	0.211	0.192	0.219
施 設 検 診	2,287	75.8	106	0.298	0.281	0.278	0.322
計	3,165	76.4	144	0.267	0.260	0.227	0.297

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	要精検者数	要 精 検 率	精検受診者数	精検受診率	が ん 疑 い	が ん	がん発見率
東 部	406	5.7	316	77.8	3	15	0.211
中 部	389	6.2	303	77.9	1	12	0.192
西 部	331	6.6	259	78.2	1	11	0.219
計	1,126	6.1	878	78.0	5	38	0.207

(2) 施設検診

区 分	要精検者数	要 精 検 率	精検受診者数	精検受診率	が ん 疑 い	が ん	がん発見率
東 部	1,241	7.8	955	77.0	2	45	0.281
中 部	458	10.6	340	74.2	1	12	0.278
西 部	1,318	8.7	992	75.3	4	49	0.322
計	3,017	8.5	2,287	75.8	7	106	0.298

2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

検診で発見された大腸がん及びがん疑い156例について確定調査を行った結果、確定癌153例（地域検診43例、施設検診110例）、腺腫2例、その他1例であった。そのうち早期がんは94例、早期癌率は61.4%であった。令和2年度に比べ確定癌が8例増加し、早期癌率が1.3ポイント減少している。

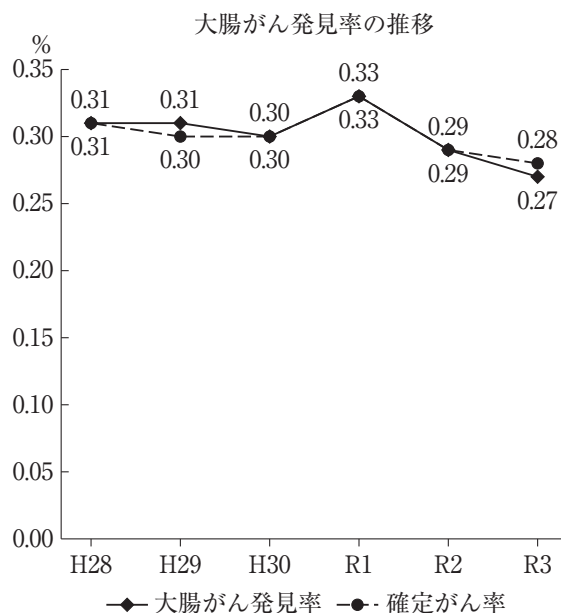
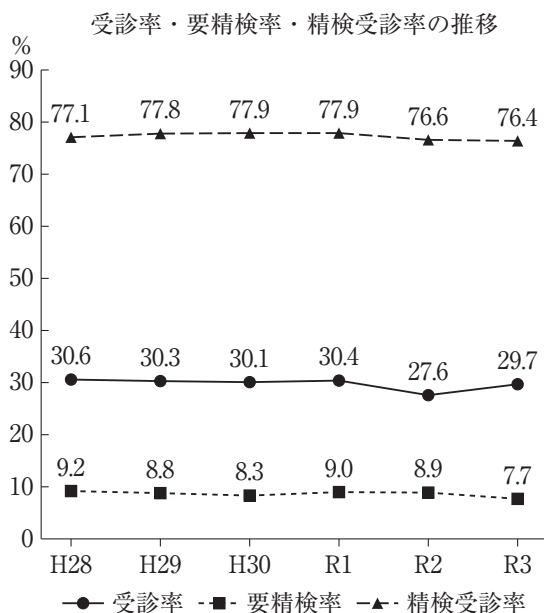
調査の結果は、以下のとおりで、例年と同様の傾向であった。

- (1) 性及び年齢では男女とも例年通り65歳以上から癌が多く発見され、70歳代が一番多かった。令和2年度は40歳代から癌が5例発見されたが、令和3年度は3例であった。
- (2) 部位では「R」と「S」合わせて53.0%で、肉眼分類では「2」が30.7%であった。早期癌94例の肉眼分類では「Ip」「Isp」合わせて41.5%であった。
- (3) 深達度「m」が42.5%、「sm」が19.0%で、早期癌率61.5%であった。
- (4) Dukes分類は「A」が62.1%、組織型分類は「Wel」が54.2%、「Mod」が35.9%であった。
- (5) 治療方法は外科手術が24例（15.7%）、内視鏡下手術61例（39.9%）、内視鏡治療は65例（42.5%）であった。
- (6) 逐年検診発見進行癌は20例（東部8例、中部4例、西部8例）であった。各地区で症例検討を行っていただき、問題点等について検討していただく。

(1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	189,132	189,132	189,132	189,132	189,132	181,414
	受 診 者 数(人) B	57,917	57,352	56,991	57,476	52,107	53,884
	受 診 率(%) C = B/A	30.6	30.3	30.1	30.4	27.6	29.7
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	52,596	52,323	52,245	52,330	47,453	49,741
	要 精 検 者 数(人) E	5,321	5,029	4,746	5,146	4,654	4,143
	要 精 検 率(%) F = E/B 指標：許容値7.0%以下	9.20	8.77	8.33	8.95	8.93	7.70
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	4,102	3,911	3,696	4,009	3,563	3,165
	精 検 受 診 率(%) H = G/E 指標：目標値90%以上	77.1	77.8	77.9	77.9	76.6	76.4
精 密 検 査 結 果	大 腸 がん の 者(人) I	177(14)	175(7)	170(13)	190(6)	149(10)	144(12)
	大 腸 がん 発 見 率(%) J = I/B 指標：許容値0.13%以上	0.31	0.31	0.30	0.33	0.29	0.27
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E 指標：許容値1.9%以上	3.3	3.5	3.6	3.7	3.2	3.5
確 定 調 査 結 果	確 定 がん 数(人) L	181	171	170	190	149	153
	確 定 がん 率(%) M = L/B	0.31	0.30	0.30	0.33	0.29	0.28

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。
- ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 令和3年度大腸がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 a		一 次 検 診 受 診 者 数 b		受診率 (%) C = b / a			一 次 検 診 結 果				要精検率 (%) e = d / b		
								要精検者数 d		異常認めず				
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,972	3,512	732	1,495	24.6	42.6	34.3	35	89	697	1,406	4.8	6.0	5.6
45～49歳	3,210	3,799	824	1,601	25.7	42.1	34.6	37	79	787	1,522	4.5	4.9	4.8
50～54歳	2,743	3,589	794	1,646	28.9	45.9	38.5	49	93	745	1,553	6.2	5.7	5.8
55～59歳	2,891	4,281	792	1,967	27.4	45.9	38.5	44	93	748	1,874	5.6	4.7	5.0
60～64歳	5,176	7,615	1,816	3,501	35.1	46.0	41.6	142	174	1,674	3,327	7.8	5.0	5.9
65～69歳	10,744	13,455	3,963	5,510	36.9	41.0	39.1	325	296	3,638	5,214	8.2	5.4	6.6
70～74歳	14,256	17,509	5,884	7,481	41.3	42.7	42.1	548	533	5,336	6,948	9.3	7.1	8.1
75～79歳	11,216	15,094	3,394	4,515	30.3	29.9	30.1	378	352	3,016	4,163	11.1	7.8	9.2
80歳以上	19,085	40,267	3,396	4,573	17.8	11.4	13.4	417	459	2,979	4,114	12.3	10.0	11.0
計	72,293	109,121	21,595	32,289	29.9	29.6	29.7	1,975	2,168	19,620	30,121	9.1	6.7	7.7
合 計	181,414		53,884		29.7			4,143		49,741		7.7		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数 f		精密検査受診率 (%) g = f / d			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) i = h y / b			陽性反応適中度 (%) j = h / d		
						異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん h							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	22	61	62.9	68.5	66.9	6	29	15	30	0	0	1	2	0.137	0.134	0.135	2.9	2.2	2.4
45～49歳	25	55	67.6	69.6	69.0	8	26	16	28	0	0	1	1	0.121	0.062	0.082	2.7	1.3	1.7
50～54歳	32	71	65.3	76.3	72.5	9	34	18	35	1	0	4	2	0.504	0.122	0.246	8.2	2.2	4.2
55～59歳	29	67	65.9	72.0	70.1	4	38	21	28	0	0	4	1	0.505	0.051	0.181	9.1	1.1	3.7
60～64歳	103	140	72.5	80.5	76.9	17	53	79	78	2	1	5	8	0.275	0.229	0.244	3.5	4.6	4.1
65～69歳	253	220	77.8	74.3	76.2	24	72	214	138	2	0	13	10	0.328	0.181	0.243	4.0	3.4	3.7
70～74歳	427	432	77.9	81.1	79.5	64	137	339	280	0	1	24	14	0.408	0.187	0.284	4.4	2.6	3.5
75～79歳	302	295	79.9	83.8	81.8	35	95	252	179	1	1	14	20	0.412	0.443	0.430	3.7	5.7	4.7
80歳以上	294	337	70.5	73.4	72.0	62	88	223	235	0	3	9	11	0.265	0.241	0.251	2.2	2.4	2.3
計	1,487	1,678	75.3	77.4	76.4	229	572	1,177	1,031	6	6	75	69	0.347	0.214	0.267	3.8	3.2	3.5
合計	3,165		76.4			801		2,208		12		144		0.267			3.5		

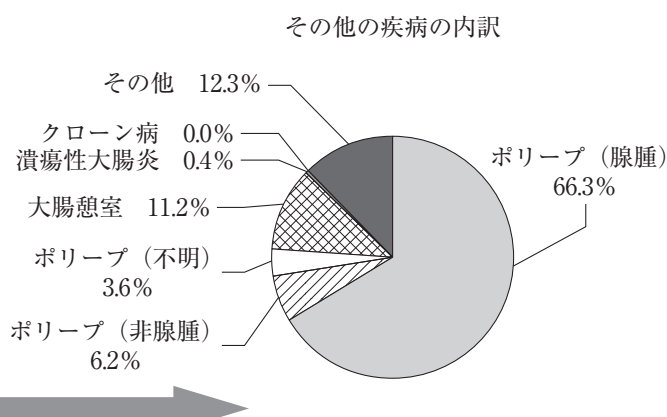
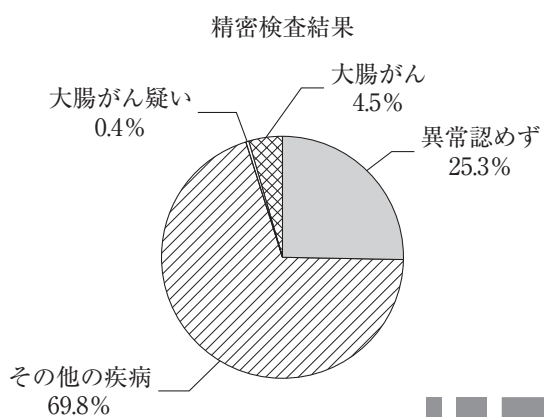
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数		一次検診結果				要精検率 (%)		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b'/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	6,646	10,755	502	573	6,144	10,182	7.6	5.3	6.2
中国労働衛生協会	315	627	19	32	296	595	6.0	5.1	5.4
地域検診小計	6,961	11,382	521	605	6,440	10,777	7.5	5.3	6.1
病院	4,496	5,867	466	476	4,030	5,391	10.4	8.1	9.1
診療所	10,138	15,040	988	1,087	9,150	13,953	9.7	7.2	8.2
施設検診小計	14,634	20,907	1,454	1,563	13,180	19,344	9.9	7.5	8.5
計	21,595	32,289	1,975	2,168	19,620	30,121	9.1	6.7	7.7
合計	53,884		4,143		49,741		7.7		

b. 精密検査結果

年齢	精密検査受診者数 d'		精密検査受診率 (%) e' = d'/b'			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) g' = f'/a'			陽性反応適中度 (%) h' = f'/b'		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん f'		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
保健事業団	382	449	76.1	78.4	77.3	54	162	314	264	0	4	14	19	0.211	0.177	0.190	2.8	3.8	3.1
中国労働衛生協会	18	29	94.7	90.6	92.2	5	12	11	13	0	1	2	3	0.635	0.478	0.531	10.5	15.8	9.8
地域検診小計	400	478	76.8	79.0	78.0	59	174	325	277	0	5	16	22	0.230	0.193	0.207	3.1	3.6	3.4
病院	324	350	69.5	73.5	71.5	55	128	254	217	2	0	13	5	0.289	0.085	0.174	2.8	1.1	1.9
診療所	763	850	77.2	78.2	77.7	115	270	598	537	4	1	46	42	0.454	0.279	0.350	4.7	4.3	4.2
施設検診小計	1,087	1,200	74.8	76.8	75.8	170	398	852	754	6	1	59	47	0.403	0.225	0.298	4.1	3.0	3.5
計	1,487	1,678	75.3	77.4	76.4	229	572	1,177	1,031	6	6	75	69	0.347	0.214	0.267	3.8	3.5	3.5
合計	3,165		76.4			801		2208		12		144		0.267			3.5		



4) 令和3年度大腸がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員							がん発見率 (%) Q = O/D	陽性反応 適中 度 R = O/H	
	車検診		施設検診		計 D = B + C	受診率 (%) E = D/A	車検診 F	施設検診 G	計 H = F + G	要精検率 (%) I = H/D	精 受診者数 J	精 検 受診率 (%) K = J/H	異 認め ず L	常 その 他の がん 疑 い M	が ん 疑 い が N			入 所 見 者 P = M + N + O
	A	B	C	D														
鳥取市	57,633	3,680	13,771	17,451	30.3	187	1,047	1,234	7.1	955	77.4	241	656	4	54	714	0.309	4.4
米子市	43,796	0	11,196	11,196	25.6	0	984	984	8.8	741	75.3	182	521	2	36	559	0.322	3.7
倉吉市	16,163	628	2,674	3,302	20.4	39	288	327	9.9	272	83.2	84	175	1	12	188	0.363	3.7
境港市	10,796	742	2,424	3,166	29.3	41	192	233	7.4	199	85.4	47	139	0	13	152	0.411	5.6
岩美町	4,245	1,079	526	1,605	37.8	71	46	117	7.3	95	81.2	16	76	1	2	79	0.125	1.7
八頭町	5,674	1,828	759	2,587	45.6	114	72	186	7.2	140	75.3	17	119	0	4	123	0.155	2.2
若桜町	1,336	129	408	537	40.2	6	33	39	7.3	24	61.5	6	18	0	0	18	0.000	0.0
智頭町	2,723	378	539	917	33.7	28	43	71	7.7	57	80.3	18	39	0	0	39	0.000	0.0
湯梨浜町	5,319	1,128	823	1,951	36.7	64	75	139	7.1	91	65.5	27	61	1	2	64	0.103	1.4
三朝町	2,336	590	223	813	34.8	50	37	87	10.7	61	70.1	19	40	0	2	42	0.246	2.3
北栄町	5,250	2,458	274	2,732	52.0	155	28	183	6.7	135	73.8	41	89	0	5	94	0.183	2.7
琴浦町	6,243	1,432	328	1,760	28.2	81	30	111	6.3	84	75.7	11	70	0	3	73	0.170	2.7
南部町	3,722	293	1,163	1,456	39.1	21	97	118	8.1	90	76.3	23	62	3	2	67	0.137	1.7
伯耆町	4,091	1,072	165	1,237	30.2	69	23	92	7.4	55	59.8	19	35	0	1	36	0.081	1.1
日吉津村	981	267	226	493	50.3	17	20	37	7.5	21	56.8	4	16	0	1	17	0.203	2.7
大山町	6,342	1,332	0	1,332	21.0	93	0	93	7.0	68	73.1	17	48	0	3	51	0.225	3.2
日南町	2,198	479	42	521	23.7	40	2	42	8.1	33	78.6	14	18	0	1	19	0.192	2.4
日野町	1,340	266	0	266	19.9	18	0	18	6.8	15	83.3	4	10	0	1	11	0.376	5.6
江府町	1,226	562	0	562	45.8	32	0	32	5.7	29	90.6	11	16	0	2	18	0.356	6.3
合計	181,414	18,343	35,541	53,884	29.7	1,126	3,017	4,143	7.7	3,165	76.4	801	2,208	12	144	2,364	0.267	3.5
東部	71,611	7,094	16,003	23,097	32.3	406	1,241	1,647	7.1	1,271	77.2	298	908	5	60	973	0.260	3.6
中部	35,311	6,236	4,322	10,558	29.9	389	458	847	8.0	643	75.9	182	435	2	24	461	0.227	2.8
西部	74,492	5,013	15,216	20,229	27.2	331	1,318	1,649	8.2	1,251	75.9	321	865	5	60	930	0.297	3.6

(3) 令和3年度大腸がん検診発見大腸がん患者確定調査結果

表1 報告癌と確定癌

	地域検診				施設検診				計			総計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報告癌	18	13	12	43	47	13	53	113	65	26	65	156
確定癌	18	13	12	43	47	13	50	110	65	26	62	153
腺腫	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	2
その他	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1

表2 性及び年齢

年齢		40～	45～	50～	55～	60～	65～	70～	75～	80～	計
地域	男	0	0	0	3	2	2	4	2	2	15
	女	1	1	3	0	4	5	5	3	6	28
	計	1	1	3	3	6	7	9	5	8	43
施設	男	1	1	4	1	4	12	19	14	7	63
	女	1	0	0	1	5	5	10	17	8	47
	計	2	1	4	2	9	17	29	31	15	110
計	男	1	1	4	4	6	14	23	16	9	78
	女	2	1	3	1	9	10	15	20	14	75
総計		3	2	7	5	15	24	38	36	23	153

表3 部位

	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	9	5	3	17	12	6	11	29	46(30.1)
S	5	1	4	10	13	4	8	25	35(22.9)
D	0	0	1	1	5	0	3	8	9(5.9)
T	0	4	0	4	4	2	6	12	16(10.5)
A	3	1	2	6	10	1	19	30	36(23.5)
C	1	1	2	4	3	0	3	6	10(6.5)
V	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	1	0	1	0	0	0	0	1(0.7)
計	18	13	12	43	47	13	50	110	153

表4 大きさ

大きさ (mm)	地 域				施 設				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0~10	4	4	3	11	16	4	9	29	40(26.1)
11~20	4	3	4	11	15	2	9	26	37(24.2)
21~50	6	6	1	13	11	5	26	42	55(35.9)
51~	2	0	1	3	5	0	4	9	12(7.8)
不明	2	0	3	5	0	2	2	4	9(6.0)
計	18	13	12	43	47	13	50	110	153

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	27	67	94(61.4)
1	1	3	4(2.6)
2	14	33	47(30.7)
3	0	5	5(3.3)
4	0	0	0
5	0	2	2(1.3)
不明	1	0	1(0.7)
計	43	110	153

表6 O型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	6	8	14(14.9)
I sp	7	18	25(26.6)
I s	2	12	14(14.9)
II a	5	12	17(18.1)
II a+ II c	4	14	18(19.1)
II b	0	0	0
II c	0	2	2(2.1)
III	0	0	0
その他	0	0	0
不明	3	1	4(4.3)
計	27	67	94

表7 深達度

深達度	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	8	7	5	22	5	18	65(42.5)
sm	4	1	2	12	1	9	29(19.0)
不明	0	0	0	0	0	0	0
小計	12	8	7	34	6	27	94(61.4)
mp	3	3	1	5	1	6	19(12.4)
ss	2	1	2	6	4	8	23(15.0)
se	0	1	1	0	2	8	12(7.8)
si	0	0	0	2	0	0	2(1.3)
不明	1	0	1	0	0	1	3(2.0)
計	18	13	12	47	13	50	153

表8 Dukes分類

Dukes分類	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	12	7	8	32	5	31	95(62.1)
B	1	2	2	5	0	6	16(10.5)
C	2	1	0	5	4	11	23(15.0)
D	1	0	1	1	1	1	5(3.3)
不明	2	3	1	4	3	1	14(9.2)
計	18	13	12	47	13	50	153

表9 組織型分類

組織型	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	11	7	5	30	5	25	83(54.2)
Mod	6	5	5	14	7	18	55(35.9)
Por	0	1	0	0	0	0	1(0.7)
Muc	0	0	1	0	0	0	1(0.7)
その他	1	0	0	3	0	1	5(3.3)
不明	0	0	1	0	1	6	8(5.2)
計	18	13	12	47	13	50	153

表10 治療法

治療方法	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外科手術	1	1	2	9	4	7	24(15.7)
内視鏡下手術	8	5	5	15	3	25	61(39.9)
内視鏡治療	9	7	4	22	5	18	65(42.5)
その他不明	0	0	1	1	1	0	3(2.0)
計	18	13	12	47	13	50	153

6. 肝 臓 が ん 検 診

1. 鳥取県における肝臓がん検診事業の沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40～70歳の5歳刻み）＋節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H10-13と同様
H15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14-と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH16で廃止（定期検査は継続）
H17～18	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14-と同様
H19～	肝炎ウイルス検査（国庫）	・節目検診（40歳のみ＋未受診者）＋節目外（要指導者等）
		・H23年より節目検診（40歳以上の5歳刻み）に個別受診勧奨

2. 肝臓がん検診実績

1) 令和3年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

令和3年度は19市町村で実施し、対象者は205,176人（前年度205,096人）のうち受検者数は4,458人（前年度4,399人）で、受検率は2.2%（前年度2.1%）であった。要精検者数はHBs抗原陽性者57人1.3%（前年度1.4%）、HCV抗体陽性者12人0.3%（前年度0.3%）であった。要精検者のうち精密検査受診者は39人57.4%（前年度67.6%）と前年より10.2%減少した。精検受診者39人中肝臓がんは0人であった（がん発見率0%）。

2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対する定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は19市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	対 象 者	受 診 者	受 診 率	定 期 検 査 結 果		
				慢性肝炎	肝 硬 変	肝臓がん
B型肝炎	2,510人	892人	35.5%	138人 (15.5%)	10人 (1.1%)	8人 (0.9%)
C型肝炎	797人	323人	40.5%	46人 (14.2%)	7人 (2.2%)	6人 (1.9%)

※肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

3) 平成7年度から令和3年度の27年間を集計すると、受診者総数は179,658人、HBs抗原陽性者3,750人 陽性率2.09%、HCV抗体陽性者3,766人 陽性率2.10%であった。年齢別陽性率はB型で50-54歳をピークに山型を示し、C型は高齢になるほど陽性率が高かった。

3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

- (1) 令和3年度肝炎ウイルス検査からは肝臓がんは発見されなかった。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がんが4名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がんが4名であった。
- (2) 平成7年から開始した肝臓がん検診によって発見された肝臓がんは令和元年度までで31人で現在生存中の患者は4人であった。平成10年から開始した定期検査によって発見された肝臓がんは精査中も含めて令和3年度までで202人で現在生存中の患者は55人である。

定期検査発見癌患者は検診発見癌患者に比べて生存率が有意に良好であった(図1)。しかし、その5年生存率は50%と未だ低値である。一方検診発見癌患者の5年生存率は24%と極めて悪い。年代別の生存率を比較すると時代を経るごとに改善していた(図2)。1期(1995年から2004年)に比べて2期(2005年から2014年)、3期(2015年から現在)は有意に良好であり、3期は2期に比べて統計学的には有意ではなかったが、さらに改善していた。

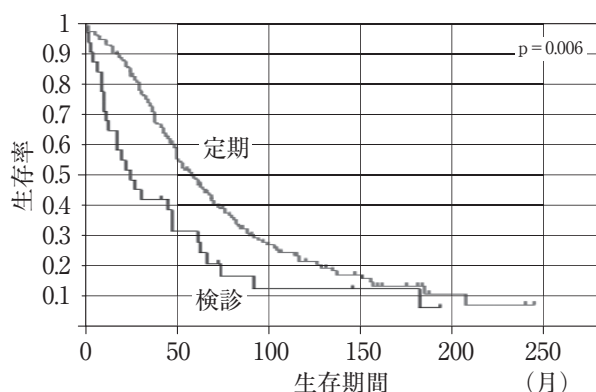


図1. 定期検査発見がん患者と健診発見がん患者の生存率

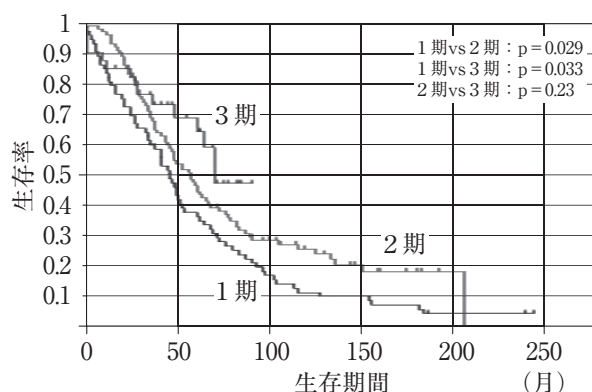


図2. 発見時期別の生存率(1期:1995年~2004年、2期:2005年~2014年、3期:2015年~2022年)

(1) 肝炎ウイルス検査受診者数等の推移

(1) 一次検診

年 度	受 検 者 数	HBs陽性者	HBs陽性率	HCV陽性者	HCV陽性率
R 1	4,872	46	0.9	6	0.1
R 2	4,399	60	1.4	11	0.3
R 3	4,458	57	1.3	12	0.3

※各陽性者数にはB型、C型ともに陽性である者が含まれるため、各陽性者数の合計は下段の要精検者数に一致しない。

(2) 精密検査

年 度	要精検者数	精検受診者数	精検受診率	が ん	がん発見率
R 1	52	30	57.7	0	0.00
R 2	71	48	67.6	0	0.00
R 3	68	39	57.4	0	0.00

※がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

(3) 年齢階級別受診状況

区 分	令和2年度			平成7～令和2年度		
	受 診 者 数	HBs陽性率	HCV陽性率	受 診 者 数	HBs陽性率	HCV陽性率
40～44歳	871	0.5	0.0	19,939	1.65	0.47
45～49歳	381	0.5	0.3	13,695	2.64	1.08
50～54歳	359	0.8	0.6	15,055	2.87	1.33
55～59歳	322	1.2	0.0	18,419	2.53	1.81
60～64歳	662	1.7	0.5	31,350	2.19	2.23
65～69歳	829	1.2	0.2	33,884	2.07	2.47
70～74歳	747	2.4	0.4	27,951	1.77	2.87
75～79歳	155	1.9	0.6	10,913	1.49	3.50
80歳以上	132	1.5	0.0	8,452	1.36	3.23
計	4,458	1.3	0.3	179,658	2.09	2.10

(2) 令和3年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年齢階級	一次検診受診者数 a		一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%)			HCV抗体陽性率 (%)		
			異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b		HCV抗体のみ陽性 c		HBs・HCVともに陽性 d		e = (b + d) / a			f = (c + d) / a		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	306	565	305	562	1	3	0	0	0	0	0.3	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0
45～49歳	167	214	164	214	2	0	1	0	0	0	1.2	0.0	0.5	0.6	0.0	0.3
50～54歳	162	197	161	193	0	3	1	1	0	0	0.0	1.5	0.8	0.6	0.5	0.6
55～59歳	127	195	127	191	0	4	0	0	0	0	0.0	2.1	1.2	0.0	0.0	0.0
60～64歳	288	374	282	366	4	7	2	1	0	0	1.4	1.9	1.7	0.7	0.3	0.5
65～69歳	456	373	446	372	8	1	1	0	1	0	2.0	0.3	1.2	0.4	0.0	0.2
70～74歳	396	351	384	342	11	7	1	2	0	0	2.8	2.0	2.4	0.3	0.6	0.4
75～79歳	80	75	77	74	3	0	0	1	0	0	3.8	0.0	1.9	0.0	1.3	0.6
80歳以上	62	70	62	68	0	2	0	0	0	0	0.0	2.9	1.5	0.0	0.0	0.0
計	2,044	2,414	2,008	2,382	29	27	6	5	1	0	1.5	1.1	1.3	0.3	0.2	0.3
合 計	4,458		4,390		56		11		1		1.3			0.3		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	区分	精密検査受診者		精密検査対象者診断結果												肝臓がん発見率 h = g / a			
		精密検査受診者		健康指導				診断名				その他				肝臓がん g	肝臓がん h		
		男	女	慢性肝炎		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		その他の疾病		男	女	男	女				
				男	女	男	女	男	女	男	女								
40~44歳	B型陽性	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.000
45~49歳	B型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.000
50~54歳	B型陽性	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
55~59歳	B型陽性	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
60~64歳	B型陽性	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	3	6	0	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
65~69歳	B型陽性	4	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	5	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
70~74歳	B型陽性	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	6	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
75~79歳	B型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
80歳以上	B型陽性	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
計	B型陽性	13	20	9	18	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	4	2	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	17	22	9	19	2	0	0	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0.000
合計	B型陽性	33	27	2	2	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	6	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	39	28	2	2	1	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'		一次検診結果								HBs抗原陽性率 (%)			HCV抗体陽性率 (%)			
			異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b'		HCV抗体のみ陽性 c'		HBs・HCVともに陽性 d'		e' = (b' + d')/a'			f' = (c' + d')/a'			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計	
直 営	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保 健 事 業 団	509	735	505	728	4	6	0	1	0	0	0.8	0.8	0.8	0.0	0.1	0.1	
中国労働衛生協会	39	57	37	56	2	1	0	0	0	0	5.1	1.8	3.1	0.0	0.0	0.0	
病 院	499	482	488	475	8	5	3	2	0	0	1.6	1.0	1.3	0.6	0.4	0.5	
診 療 所	997	1,140	978	1,123	15	15	3	2	1	0	1.6	1.3	1.5	0.4	0.2	0.3	
計	2,044	2,414	2,008	2,382	29	27	6	5	1	0	1.5	1.1	1.3	0.3	0.2	0.3	
合 計	4,458		4,390		56		11		1		1.3			0.3			

4) 令和3年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査受診状況（最終報告）

実施市町村数＝19

市町村名	対象者数			受診者数			陽性者数			精密検査結果別人員							がん発見率 (%) R=P/D	
	A	単検診 B	施設検診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	HBs抗原のみ陽性 F	HCV抗体のみ陽性 G	HBs抗原HCV抗体ともに陽性 H	HBs抗原陽性率 (%) I=(F+H)/D	HCV抗体陽性率 (%) J=(G+H)/D	精受診者数 K	精受診率 (%) L=k/(F+G+H)	無症候性 キヤリア M	その他の 疾病 N	がん疑い O	P		Q=N+O+P
鳥取市	63,373	429	881	1,310	2.1	10	3	0	0.8	0.2	9	69.2	6	3	0	0	3	0.000
米子市	64,249	0	1,046	1,046	1.6	12	0	0	1.1	0.0	8	66.7	7	1	0	0	1	0.000
倉吉市	16,541	47	297	344	2.1	6	1	0	1.7	0.3	5	71.4	4	1	0	0	1	0.000
境港市	11,206	71	198	269	2.4	3	0	0	1.1	0.0	2	66.7	2	0	0	0	0	0.000
岩美町	4,396	53	0	53	1.2	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
八頭町	4,845	134	0	134	2.8	3	1	0	2.2	0.7	2	50.0	2	0	0	0	0	0.000
若桜町	1,440	3	11	14	1.0	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
智頭町	2,957	38	29	67	2.3	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
湯梨浜町	9,293	29	166	195	2.1	8	0	0	4.1	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
三朝町	4,141	52	78	130	3.1	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
北栄町	3,874	36	103	139	3.6	1	2	0	0.7	1.4	2	66.7	1	1	0	0	1	0.000
琴浦町	4,490	57	111	168	3.7	1	3	0	0.6	1.8	2	50.0	0	2	0	0	2	0.000
南部町	3,722	49	133	182	4.9	3	1	1	2.2	1.1	2	40.0	2	0	0	0	0	0.000
伯耆町	840	144	0	144	17.1	3	0	0	2.1	0.0	3	100.0	3	0	0	0	0	0.000
日吉津村	914	0	0	—	0.0	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
大山町	4,612	101	0	101	2.2	2	0	0	2.0	0.0	2	100.0	1	1	0	0	1	0.000
日南町	1,282	15	42	57	4.4	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日野町	1,589	51	23	74	4.7	1	0	0	1.4	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
江府町	1,412	31	0	31	2.2	3	0	0	9.7	0.0	2	66.7	0	2	0	0	2	0.000
合計	205,176	1,340	3,118	4,458	2.2	56	11	1	1.3	0.3	39	57.4	28	11	0	0	11	0.000
東部	77,011	657	921	1,578	2.0	13	4	0	0.8	0.3	11	64.7	8	3	0	0	3	0.000
中部	38,339	221	755	976	2.5	16	6	0	1.6	0.6	9	40.9	5	4	0	0	4	0.000
西部	89,826	462	1,442	1,904	2.1	27	1	1	1.5	0.1	19	65.5	15	4	0	0	4	0.000

※ がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上。

(3) 平成7～令和3年度肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者の定期検査結果

1) 令和3年度B型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果 (年齢階級別)

年齢	定期検査結果														
	健康指導対象者						検査者						結果		
	受診者数 (令和4年10月31日現在の実人員)		健康指導対象者 (令和3年4月1日現在の実人員)		健康指導対象者 (令和3年4月1日現在の実人員)		検査者 (令和3年4月1日現在の実人員)		検査者 (令和3年4月1日現在の実人員)		検査者 (令和3年4月1日現在の実人員)		結果		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
40～44歳	8	9	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	34	35	11	4	7	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	23	37	3	10	0	7	0	2	0	1	0	0	0	0	0
55～59歳	46	73	10	26	7	20	1	0	2	5	0	0	0	0	0
60～64歳	92	126	37	49	28	39	1	2	7	8	1	0	0	0	0
65～69歳	120	214	43	90	33	72	3	2	3	15	2	0	0	1	0
70～74歳	203	313	93	137	70	104	3	3	17	25	2	1	0	1	0
75～79歳	214	289	68	102	51	86	1	1	14	9	1	2	0	0	0
80歳以上	216	458	73	133	52	108	3	5	12	15	0	0	1	2	0
計	956	1,554	341	551	251	440	14	13	59	79	6	4	0	5	3
合計 (比率%)	2,510		892 (100)		691 (77.5)		27 (2.7)		138 (14.1)	10 (1.1)			1 (0.1)	8 (0.9)	13 (1.5)

※ 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

2) 令和3年度C型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果 (年齢階級別)

年齢	定期検査結果														
	健康指導対象者						検査者						結果		
	受診者数 (令和4年10月31日現在の実人員)		健康指導対象者 (令和3年4月1日現在の実人員)		健康指導対象者 (令和3年4月1日現在の実人員)		検査者 (令和3年4月1日現在の実人員)		検査者 (令和3年4月1日現在の実人員)		検査者 (令和3年4月1日現在の実人員)		結果		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
40～44歳	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	5	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	7	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	9	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	16	19	5	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
65～69歳	32	24	11	13	3	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0
70～74歳	44	67	15	32	2	6	1	1	1	5	1	1	0	1	0
75～79歳	39	84	16	39	4	11	2	0	1	5	0	0	0	2	0
80歳以上	104	337	55	127	24	29	2	0	4	27	2	2	0	2	0
計	256	541	104	219	34	47	5	1	7	39	4	3	0	3	5
合計 (比率%)	797		323 (100)		81 (25.1)		6 (1.9)		46 (14.2)	7 (2.2)			0 (0.0)	6 (1.9)	14 (4.3)

※ 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

(4) 平成7～令和3年度肝臓がん検診結果（最終報告）

年齢階級	一次検診 受診者数 A		HBs抗原陽性					HCV抗体陽性				
			陽性者数 B		陽性率（%） C = B/A			陽性者数 D		陽性率（%） E = D/A		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計
40～44歳	6,713	13,226	134	194	2.00	1.47	1.65	42	51	0.63	0.39	0.47
45～49歳	4,504	9,191	134	227	2.98	2.47	2.64	45	103	1.00	1.12	1.08
50～54歳	4,601	10,454	149	283	3.24	2.71	2.87	42	158	0.91	1.51	1.33
55～59歳	5,702	12,717	150	316	2.63	2.48	2.53	82	251	1.44	1.97	1.81
60～64歳	12,227	19,123	324	363	2.65	1.90	2.19	221	479	1.81	2.50	2.23
65～69歳	14,852	19,032	341	361	2.30	1.90	2.07	311	525	0.00	2.76	2.47
70～74歳	12,035	15,916	232	264	1.93	1.66	1.77	321	480	2.67	3.02	2.87
75～79歳	4,381	6,532	76	87	1.73	1.33	1.49	151	231	3.45	3.54	3.50
80歳以上	3,170	5,282	34	81	1.07	1.53	1.36	116	157	3.66	2.97	3.23
計	68,185	111,473	1,574	2,176	2.31	1.95	2.09	1,331	2,435	1.95	2.18	2.10
合計	179,658		3,750		2.09			3,766		2.10		

(5) 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について

- (1) 令和3年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査による発見がんまたはがん疑い
※発見がんなし

(2) 令和3年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No.	年齢	性	市町村	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考
1	82	女	米子市												定期検査報告書に記載ミスあり。腹部エコー上、肝細胞癌の所見は認められなかった。
2	89	男	米子市	肝臓がん	肝切除	2021.11.19	単発	S5	3.3	腫瘤	無	B	3.6	66	2021年9月8日のMRIで肝細胞癌の所見を認めため、精査加療目的に鳥取大学医学部附属病院に紹介
3	74	男	北栄町	肝臓がん	RFA	2021.11.18	単発	S5	8.1×6.2	腫瘤	有	B	20.0	94.07	2021年11月18日 S5: 8mm大HCCにRFA 2022年8月18日 S7: 18mm大HCCにRFA
4	81	男	伯耆町	肝臓がん (治療後)											肝臓がん治療後のため、調査票に記入なし
5	89	男	伯耆町	肝臓がん	TAE RFA		2個	S3 S8	40×46 28×38	腫瘤	無	B	2.2	1447	鳥大第2内科にて2個のHCCに対して、TAE、RFAによる治療が反復実施されていた。終末期は腹腔内リンパ節及び生身骨に多発転移。
6	67	男	江府町	肝臓がん	肝切除	2017.1.22	単発	S8	30×30	腫瘤	有	B	2.4	208	2016/11初発stageⅡ 2017/1/22他院で肝前区域切除術施行 無再発で経過良好
7	81	男	米子市	肝臓がん	肝切除	2018.8.29	単発	S2	39.7×16.1	浸潤	無	C	16.0	149	平成30年7月11日に定期検査で腫瘍マーカーが上昇したことから、ふしゼクリニックスより紹介受診。平成30年8月29日 S2に対して肝外側区域切除、S5/6に対して生検+RFAを実施した。(S5/6は悪性所見なし)
8	72	男	米子市	肝臓がん	肝切除	2022.3.11	単発	S8	40×30	腫瘤	有	C	4.0	35	C型肝炎治療後、経過観察中に定期検査で、S8にHCCが出現。鳥大にて令和4年3月11日にS8亜区域切除術を施行し、以後再発なく現在に至る。現在、山陰労災病院でフォロー中
9	80	女	若桜町	肝臓がん	RFA		単発	S5	14	腫瘤	無	C	3.0	57	2022.10.19 CTにHCC再発なし。 1年1回はCTフォロー 次回2023.1.11再診予定。
10	81	女	若桜町	肝臓がん	肝切除	2022.6.1	単発	S4	2.5	腫瘤	有	C	7.0	228	RFA 2014.9.8 RFA 2017.9.4 TACE2020.12.10 2022.6.1当院外科にて(S4)肝部分切除施行。同年7月1日外科終診。内科にて定期フォロー。2022.11.9CTに明らかなHCC再発なし。腹水少量あり。門脈血栓縮小。糖尿コントロール良好。肝機能著変なし。腫瘍マーカー正常。次回2023.2.1予定。
11	84	女	八頭町												鳥取市立病院受診歴無

(3) 平成10年度～令和2年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見癌追跡調査報告

No	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2023調査
1	71	男	切除	95. 8.	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C			再発、6年11か月後死亡	
2	63	男	切除	97. 2. 26	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C			4年6か月後死亡	
3	71	男	TAE	97. 7. 16	2個	S68	30×30	腫瘍	有	C			再発、5年9か月後死亡	
4	63	男女	PEIT	97. 12. 3	単発	S2	10×10	腫瘍	無	C			12年11か月後他病死	
5	59	男女	TAE	98. 5.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	B			再発、3年2か月後死亡	
6	76	男女	TAE	98. 6. 30	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C			再発、2年3か月後死亡	
7	70	男	切除	98. 9. 1	単発	S8	40×30	腫瘍	有	C			再発、2年9か月後死亡	
8	68	男	MCT	99. 1. 25	4個	S2377	27×27	腫瘍	有	C			再発、3年5か月後死亡	
9	83	男	TAE	99. 2. 11	>4個	S35678	40×30	腫瘍	有	C			11か月後死亡	
10	79	男	TAE	99. 6. 9	単発	S8		浸潤	有	C			8か月後死亡	
11	64	男女	切除	00. 2. 8	2個	S5/6. 4	75×70	腫瘍	有	C			再発、3年6か月後死亡	
12	79	男女	TAE	00. 3. 1	単発	S6	10×10	腫瘍	有	B			8年8か月後死亡	
13	66	男	切除	00. 9. 27	2個	S65	15×15	腫瘍	有	B			再発、4年2か月後死亡	
14	82	男	TAE	00. 4. 5	単発	S4	55×40	腫瘍	有	C			1年2か月後他病死	
15	74	男女	切除	00. 2. 28	単発	S2	32×32	腫瘍	有	C			再発、4年4か月後死亡	
16	64	男女	TAI	99. 10. 14	>4個	S23457	10×10	腫瘍	有	C			再発、5年8か月後死亡	
17	75	男女	TAE	00. 4. 19	単発	S7	30×30	腫瘍	有	C			4年5か月後死亡	
18	75	男	TAE	97. 11.	>4個	S4568	25×25	腫瘍	有	C			4年1か月後他病死	
19	86	男女	PEIT	00. 8. 18	単発	S4	15×15	腫瘍	無	C			7年9か月後他病死	
20	70	男女		01. 7. 2						C			同月死亡	
21	65	男	切除	98. 2. 5	単発	S1	90×90	腫瘍	有	B	28396		3年10か月後死亡	
22	67	男	切除	01. 11. 19	単発	S8	13×13	腫瘍	有	B	5		3年8か月後再発、2021/10県外へ転出	
23	76	男女	T/P	01. 8. 1	単発	S7	15×15	腫瘍	有	C	3		再発、4年3か月後死亡	
24	66	男女	TAE	01. 7. 26	単発	S7	10×10	腫瘍	有	C	8		無再発生存中	再発なく経過(2021. 10. 1)
25	75	男女	T/P	02. 3. 4	単発	S5/6	37×31	腫瘍	無	C	719		5年1か月後他病死	
26	73	男女	TAE	01. 4. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	2074		7か月後死亡	
27	76	男女	T/P	02. 10. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	4		2年1か月後他病死	
28	79	男女	TAE	01. 6. 27	>4個	S2457	40×40	腫瘍	有	C	83		1年10か月後死亡	
29	79	男女	切除	03. 2. 26	単発	S3	30×30	浸潤	有	C	538		再発、3年6か月後死亡	
30	82	男女	RFA	03. 5. 26	単発	S5	35×35	腫瘍	有	B	5		再発、2年5か月後死亡	
31	78	男女	T/R	02. 9. 24	単発	S8	40×40	腫瘍	無	C	4		1年3か月後他病死	
32	75	男	切除	03. 6. 3	単発	S6	20×20	腫瘍	有	B	6215		再発、10年8か月後死亡	
33	76	男	切除	04. 3. 10	2個	S28	50×50	腫瘍	有	C	22		再発、3年5か月後死亡	
34	76	男	MCT	03. 8. 14	単発	S8	25×20	腫瘍	有	C	59		再発、9年8か月後死亡	
35	83	男	PEIT	03. 5. 30	単発	S5/6	22×21	腫瘍	有	C	29		再発、6年8か月後死亡	
36	80	男	RFA	04. 8. 3	>4個	S13468	30×25	腫瘍	有	C	15		3年10か月後死亡	
37	91	男女	未治療		>4個	S3478	100×100	腫瘍	不明	C	NT		2か月後死亡	
38	74	男女	TAE		>4個			腫瘍	無	C	NT		2年10か月後死亡	
39	75	男女	TAE	03. 10.	単発	S8	23×23	腫瘍	有	C	239		再発、4年2か月後死亡	
40	79	男	RFA	04. 3. 15	単発	S8	30×20	腫瘍	有	C	6		再発、6年4か月後死亡	
41	56	男女	RFA	04. 4. 7	単発	S7/8	23×26	腫瘍	無	B	8		無再発生存中	生存、再発なし
42	78	男女	TAE	04. 5. 19	単発	S5	25×25	腫瘍	不明	C	1447		再発、7年3か月後死亡	
43	75	男	TAI	05. 1. 6	3個	S568	15×15	腫瘍	有	C	80		再発、1年3か月後死亡	
44	68	男女	切除	04. 9. 13	単発	S6	30×20	腫瘍	有	C	5		再発、8年2か月後死亡	
45	72	男女	T/R	04. 10.	2個	S86	20×20	腫瘍	有	B/C	44		再発、1年5か月後死亡	
46	62	男女	TAE	03. 4.	不明	不明	不明	腫瘍	有	C	1055		再発、3年後死亡	
47	86	男女	TAE	04. 6.	単発	S8	40×40	腫瘍	有	C	55		5か月後死亡	
48	73	男	切除	00. 3.	単発	不明	10×10	不明	有	B			再発、6年後死亡	
49	76	男	切除	05. 5. 12	単発	S7/8	90×80	腫瘍	無	B	2		4年3か月後再発H28. 3. 3 S3部分切除 再発なし、生存	他病死 (2022. 7月)
50	64	男女	TAE	09. 1.	単発	S5	10×10	腫瘍	有	C	28		再発、3年3か月後死亡	
51	73	男女	未治療		>4個	S278	7×7	腫瘍	有	C	270		4年10か月後死亡	
52	75	男	切除	06. 3. 29	単発	S7/8	43×25	浸潤	有	C	170		再発、3年10か月後死亡	
53	74	男	RFA	04. 9. 6	単発	S7	18×18	腫瘍	有	C	3		5年5か月後死亡	
54	75	男	T/R	05. 8.	2個	S67	25×25	腫瘍	有	C	11		4年2か月後死亡	
55	87	男女	未治療		単発	S2	20×20	腫瘍	有	C	22		4年後他病死	
56	89	男女	T/P	05. 12.	単発	S2	15×15	腫瘍	有	C	210		4年1か月後他病死	
57	82	男女	T/R	05. 10.	単発	S6	50×50	腫瘍	無	C	1		1年9か月後他病死	
58	77	女	切除	04. 11. 7	2個	S68	20×20	腫瘍	有	C	20		2年11か月後再発 H28. 9. 26死亡	
59	59	女	RFA	06. 1.	単発	S5	13×12	腫瘍	無	B/C	35		再発、7年7か月後死亡	
60	67	女	RFA	04. 4.	単発	S5	15×15	腫瘍	無	B	4		6年3か月後再発 生存不明	
61	68	男	肝腫否定		(単発)	S6	13×13		無	B	2		生存不明	
62	69	男	TAE	07. 11. 14	2個	S57	15×15	腫瘍	有	C	147		再発、3年6か月後死亡	
63	79	男	TAE	06. 11.	多発	両葉	20×20	腫瘍	有	C	54		1年10か月後死亡	
64	87	男女	T/R	06. 11. 15	単発	S4	16×23	腫瘍	有	C	158		再発、6年4か月後死亡	
65	79	男女	T/R	06. 11. 20	単発	S8	30×30	腫瘍	無	C	10		再発、6年10か月後他病死	
66	82	男女	TAE	06. 3. 14	単発	S8	35×35	腫瘍	無	C	14		再発、7年3か月後死亡	
67	69	男	切除	06. 9. 26	2個	S67	22×20	腫瘍	無	C	12		H28. 5再発S5 43mm 治療希望されず 12年7か月後死亡、死亡原因不明	
68	72	男女	TAE	06. 5. 18	単発	S6	15×15	腫瘍	有	C	79		再発、4年10か月後死亡	
69	81	男女	切除	97. 3. 24	単発	S8		腫瘍	有	C	251		再発、12年11か月後死亡	
70	80	男女	T/R	06. 8. 31	>4個	S84	31×27	腫瘍	有	C	42		再発、6年1か月後死亡	
71	73	男女	TAE	06. 2. 21	>4個	S853	37×31	腫瘍	有	C	28		1年6か月後死亡	
72	64	男	切除	07. 1. 12	単発	S5	35×35	腫瘍	無	C	14		2年10か月後再発、13年5か月後死亡、肝臓連死	
73	82	女	TAE	06. 9. 6	単発	S1	20×20	腫瘍	有	C	22		再発、1年後死亡	
74	80	男	RFA	02. 9.	単発	S8		腫瘍	有	C	2. 4		再発、9年6か月後死亡	
75	63	女	T/R	07. 5. 8	単発	S8	16×16			B	17		7年1か月後再発、2020/2 S6 8mmRFA	2022. 5. 19 S5 (以前のRFA搬入の中核側Φ1cm) 鳥大にてS5部分切除施行
76	73	男	M/R	03. 8. 5	>4個	S348	15×15		無	B	58. 6		再発、8年後死亡	
77	73	男	切除	05. 3. 14	単発	S45	42×28	腫瘍	有	B	289		再発、3年後死亡	

No	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2023調査
78	74	男	切除	06.12.21	単発	S458	35×30	腫瘍	無	C	4.7		再発、8年10か月後死亡	
79	60	女	RFA	07.7.	単発	S7	17×12	腫瘍	有	C	9.8		3年4か月後再発。	再発あり(2022.3月) 2022.10.26 TACE
80	87	女	未治療		単発	S6	66×56	腫瘍	無	C	2.8		2年7か月後他病死	
81	80	女	TAE	03.3.	単発	S2/3	20×20	腫瘍	無	C	7.0		再発、8年7か月後死亡	
82	77	女	TAE	08.10.7	単発	S6	50×50	腫瘍	有	C	3.2		再発、2年後死亡	
83	70	男	RFA		単発	S5	12×12	腫瘍	有	B	4		H29.3.22 S1 2.5cm 再 発肝切除、H30.6.21 S8 亜区域切除 2.3cm	生存
84	77	女	TAE	09.3.24	2個	S58	25×25	腫瘍	有	C	2012		1年3か月後肝不全死	
85	84	女	T/P	09.9.7	単発	S7	30×30	腫瘍	有	C	3643		2年1か月後肝不全死	
86	72	女	TAE	09.12.18	>4個		40×40	腫瘍	有	C	7.8		再発、3年2か月後死亡	
87	79	女	TAE	10.11.18	2個	S8/3	40×35	腫瘍	有	C	197		4年1か月後再発、2021/ 1/18USB発肝のう腫、肝 腫瘍病変	2022.6.6超高齢であり、 造影CTや積極的治療 を行わない
88	89	男	TAE	09.10.6	>4個		20×20	腫瘍		C	3.7		3年9か月後死亡	
89	76	女	T/R	08.5.12	単発	S3	25×25	腫瘍	有	C	3.9		5年2か月後再発、9年8 か月後死亡、他病死心不全	
90	76	女	T/R	09.7.22	2個	S3/5	25×25	腫瘍	有	C	11.8		1年7か月後死亡	
91	79	女	T/R	10.3.25	単発	S7	23×23	腫瘍	有	C	9		2年11ヶ月後他病死	
92	85	女	切除	10.3	単発	S3	25×25	腫瘍	有	C	3.9		再発、3年後死亡	
93	66	男	TAE	09.7.	>4個	S1		浸潤	有	B	58		1年10か月後死亡	
94	73	男	切除	09.10.20	単発	S5	40×40	腫瘍	無	B	2.8		無再発生存中	生存、再発なし
95	68	女	切除	09.8.21	>4個	S348	15×15	腫瘍	無	B	4.9		生存中、リスト外という意 見有	
96	75	男	TAE	08.1	>4個	S2458	38×25	腫瘍	有	C	10.9		再発、5年3か月後死亡	
97	78	男	精査中							C	189			
98	75	男	TAE	07.2.11	単発	S6			無	B	5.3		再発、7年5か月後死亡	
99	66	男	TAE	11.1.20	2個	S5/6	12×12	腫瘍		C	5		H28.11.11 HCC再発 リ ンパ節転移 H29.7.10死亡	
100	80	女	RFA	10.11.09	単発	S6~7	18×18	腫瘍	無	C	48.4		3年8か月後再発、生存不 明	肝がん死(2020.7月)
101	64	女	TAE	10.11	単発	S6	5×5	腫瘍	有	C	26		再発、5年1か月後死亡	
102	75	女	切除	08.7.30					無	C			H27.1再発	2022.12月再発 患者背景から、積極的 な治療困難であり、 BSCとして対症療法の方 針となった。
103	75	男	TAE	10.12.08	>4個	S2/5/ 6/7/8	20×17	腫瘍	有	C			再発、2年5か月後死亡	
104	69	女	RFA	10.4	単発	S6	18×18		無	C	19		3年10か月後再発、8年1 か月後死亡、肝臓死	
105	79	男	TAI	09.10.26	2個	S7/8	18×15	腫瘍		C	60.3		2年8か月後死亡	
106	71	女	切除	07.8.17	単発	S2~3	60×60	腫瘍	有	B	148		再発、4年5か月後死亡	
107	85	女	RFA	10.7	2個	S4/7	15×15	腫瘍	有	C	16.6		再発、5年4か月後他病死	
108	84	女	RFA	09.10.30	単発	S8	15×15	腫瘍	有	C	1.9		無再発、2020/2/19他病死	
109	65	男	T/R	10.03.	単発	S5	24×24		有	B	7.8		再発、4年11か月後死亡	
110	57	女	切除	11.1.18	単発	S6	40×25	腫瘍	無	B	4		無再発生存中	生存、再発なし
111	78	女	肝がん 否定		単発	S5	5×5		有	C	4.9		5か月後腫瘍消失、他病死	
112	87	男	RFA	11.4.7	単発	S5	15×16	腫瘍	無	C	7.8		死亡詳細不明	
113	67	男	肝がん 否定							C	14.2			
114	77	女	RFA	11.7	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	9.9		再発、3年8か月後死亡	
115	92	女	TAE	11.10.4	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	9.2		再発、2年5か月後死亡	
116	78	女	T/R	10.3.24	単発	S2/3	19×18	腫瘍	有	C	31		9か月後再発、11年2か月 後死亡	
117	76	男	切除	11.7.26	単発	S7	80×75	腫瘍	無	C	8.7		無再発 H24.6.24死亡	
118	75	男	RFA	11.7	単発	S6	14×14	腫瘍	有	B	5.3		3年2か月後再発	2016.3以降来院なし
119	84	男	転移性肝 腫(肺大 細胞腫)							B	2		5か月後死亡	
120	75	男	RFA	13.10.2	単発	S7	15×14	腫瘍	有	B	52		1年11か月後再発 H27.9 H 27.12 H 29.10 再発し RFA施行、2020/5/29肝痛 死	
121	75	男	切除	11.6.					有	B	17		4年0か月後他病死	
122	70	女	PEI	12.5.9	単発	S4	27×20	腫瘍	有	C	21		再発、8か月後死亡	
123	83	男	TAE	11.8.30	単発	S6	35×30	腫瘍	無	C	5		2年7か月後再発 2015.7 2016.10再発にて RFA 死亡他病死	
124	75	女	RFA	8.1	単発	S5	20×20	腫瘍	無	C	9.2		2016.4再発 RFA	2021年に重症認知症で 施設入所。生存不明
125	80	女	TAE	12.11.20	単発	S1	40×40	腫瘍	無	C	5.7		再発、1年11か月後死亡	
126	86	男	T/R	13.11	3個	S146	13×13	腫瘍	無	C	36.6		無再発生存中	不明
127	78	女	RFA	12.3.1	単発	S4	8×9	腫瘍	有	C	16.2		1年10か月後再発 H27. 10 H28.5TACE H29.1 RFA 2020/6再発S6 RFA 2021/6再発S4 TACE	体力+認知症のため追 加治療困難
128	82	女	RFA	12.3.14	単発	S7	13×9	腫瘍	有	C	10.1		2年10か月後死亡	
129	87	女	TAE	12.7.6	2個	S3	20×15	腫瘍	有	C	414.5		再発、2年5か月後死亡	
130	85	女	RFA	12.2.13	単発	S5	10×17	腫瘍	有	C	15.2		再発、3年8か月後死亡	
131	76	男	TAE	12.6.20	>4個	S45678	55×52	腫瘍	有	C	82		3年1か月後死亡	
132	81	女	TAE	10.11.10	単発	S3	15×15	腫瘍	有	C			再発、2年6か月後死亡	
133	68	男	切除	13.5.20	単発	S5	35×38	腫瘍	無	B	52		2年9か月後死亡 死因不 明	
134	60	女	TAE	13.8.26	単発	S3	18×15	腫瘍	有	B	3548		再発、4年5か月後死亡、 肝臓死	
135	70	女	RFA	14.4	単発	S1	14×14	腫瘍	無	B	2.9		無再発生存中	生存、再発なし
136	83	女	T/R	13.10	単発	S7	26×26	腫瘍	無	C	2638		再発、5年7か月後死亡	

No	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2023調査
137	88	男	TAE	13.10.31	>4個	S4278	34×34	腫瘍	有	C	28.9		1年後再発 肺転移 左副腎転移 肝内再発、3年2か月後死亡	
138	79	女	切除	13.3	単発	S8	45×45	浸潤	無	C	32		1年3か月後死亡	
139	73	男	T/R	13.7.2	>4個	両葉	24×24		無	C	19		1年8か月後死亡	
140	80	女	T/P	13.5.1	単発	S5	30×30	腫瘍	無	C	21		9か月後再発 7年4か月後死亡、心不全死、肝がん死を除く関連死	
141	94	男		12.8.6						C			2年4か月後死亡	
142	83	女	TAE	7	>4個	S157		浸潤	有	C	10250		再発、7年後死亡	
143	67	男	切除	14.5.27	単発	S5	20×20	腫瘍	無	B	3.0	14	再発なし	2022.4月再発あり 2022.5.18 RFA 2022.6.22 CT RFA 後LDA形成 新たなHCCなし
144	66	女	T/R	14.9.10	単発	S3	25×25	腫瘍	有	B	32.0		2016.10 再発 TACE 2021/7/5死亡	
145	73	男	T/R	14.4.16	2個	S45	10×17		無	B	3.0	26	再発、6年4か月後死亡、肝臓死	
146	77	女	TAE	12.10.17	2個	S6	7×14	腫瘍	有	C	119.1		3年2か月後死亡	
147	78	女	切除	15.12.17	単発	S5	15×15	腫瘍		C	2.1	9799	再発無	生存、再発なし
148	89	女								B	1.7	16	死亡	
149	85	男	TAE	15.11.13	単発	S8	32×28	腫瘍	無	B	2.5	23	生存不明	2018.1月以降来院なし
150	74	男	T/R	15.9.7	単発	S4	24×22	腫瘍	無	B	8.4	1.7	再発なし、2021/7/7他病死	
151	76	女	TACE	17.8.2	>4	S5678	36×33	腫瘍	有	C	31.7	811	再発、1年1か月後死亡、肝臓死	
152	76	男	切除	16.3.16	単発	S8	23×20	腫瘍	有	NBNC	7.8	226	再発なし	
153	80	女	TAE・RFA	16.9.23	単発	S7	29×29	腫瘍	無	C	4.1	123	1年後再発 RFA施行 2020/10/8肝臓死	
154	90	女	RFA	13.5	2個	S6S8	14×13 11×10	腫瘍	無	C	15.5	12	4年4か月後 他病死 脳出血	
155	81	男	RFA	16.10.5	単発	S8	14×14	腫瘍	有	C	7.0	19	H29.8再発なし	生存、再発なし(2022.10月)
156	79	女	RFA	16.6.15	単発	S6	7×8	腫瘍	無	C	1.6	14.6	SVR後発癌	生存、再発なし
157	73	女	無治療	18.1.15	単発	S8	10×10	腫瘍	有	C	7.0	62	Pugh 10にて無治療を希望 9か月後死亡	
158	68	男	肝切除	17.10.20	単発	S8	13×13	腫瘍	無	B	6.8	26	再発、生存 2018/12再発あり テセントリク・アバスタチンで化学療法	再発あり(2022.11月) テセントリク・アバスタチンで化学療法
159	75	女	TAE+RFA	16.2.17	単発	S7	11	腫瘍	有	B	2	15	生存、再発なし	生存、再発なし
160	77	女	TAE/RFA	17.4.1	2個	S2, S6	12.19	腫瘍	有	C	46	20	再発、生存 2020/11再発 2020/11/17 TACE(S3/4) 2021/6/8 TACE(S3/4) 2021/7/27 RFA	2022.10.13 TACE 生存(2022.10.19)
161	74	男	TAE/RFA	15.6.2	2個	S5 S7	14.13	腫瘍	有	C	2	9	再発、生存	2022.10.20~両下肢浮腫増悪 蜂窩博愛病院消化器内科へ入院中
162	85	男	RFA	14.2.18	単発	S4	15	腫瘍	有	C	2	12	再発、4年9か月後死亡	
163	82	男	TAE	17.5.10	4個以上	S4578	46	浸潤	無	C	446	346	2年1か月後死亡	
164	70	男	TAE	17.6.26	4個以上	S3S7	14×13	腫瘍	有	C	11.57	54	2年10か月後死亡	
165	70	女	RFA	14.8.15	単発	S6	20	腫瘍	無	C			生存、再発なし	再発あり(2022.2月) 2022.2.24 TACE 肝S6:1.8cm
166	82	男	肝切除	10.7.15	単発	S5	13	腫瘍	有	C			再発、生存、 2021/1/11死亡	
167	85	女	TAE	16.1.26	単発	S6	25×14	腫瘍	有	B	1		再発、生存 2021/2/16死亡	
168	88	女	無	19.1.21	単発	S4	41×43	腫瘍	有	B	688.9	54	1年後死亡、肝臓死	
169	69	女	肝切除	19.2.25	不明	S7	30mm	腫瘍	無	B	2.1	11	生存、再発なし	再発なし(2022.11月)
170	77	男	肝切除	19.6.11	単発	S2		腫瘍	無	B	2.04	3500	生存	肝がん死(2022.7月)
171	71	男	RFA	18.1.31	2個	S7	21×19	腫瘍	有	B	3.5	28	再発、生存	再発あり(2019.5月) 2019.6.21 RFA
172	74	女	TAE		3個	S358	10×10	腫瘍	無	C	1603	27	再発、生存 2021/6/1死亡	
173	97	女	無	19.3.22	単発	右葉	50	腫瘍	有	C	866.4		2か月後死亡	
174	85	男	無	18.5.9	2個	右葉	不明	腫瘍	不明	C	2966		2年5か月後死亡	
175	83	女	肝切除	19.5.8	単発	S4	14×11	腫瘍	無	C	3.5	17	生存、再発なし	生存、再発なし(2022.10月)
176	80	男	BSC		単発	S8	26×20	腫瘍	有	B	16.16	66	HB+アルコール Pugh Cのため治療はされず 尾崎病院に転院 2019年11月8日診断	緩和ケア
177	81	女	肝切除	18.10.16	単発	S5	30×23	腫瘍	無	B	3.1	34	2018/6/19診断 前区域切除+S6亜区域切除 20201102再発なし	生存、再発なし
178	74	女	TAE+RFA	16.3.15	単発	S8	15×15	腫瘍	無	B	27.2	17	20201022 再発なし	生存、再発なし
179	72	女	肝切除	19.5.10	単発	S3	25×25	腫瘍	無	B	6.1	68	20190408診断 腹腔鏡下外側区域切除 20201029再発なし	生存、再発なし
180	81	男	TACE	16.7.12	多発	S8(S3)	15	腫瘍	有	C	7	172	鳥大医受診歴無 鳥取赤十字病院にてTACE H28年7月	2016.7.12 TACEAFP7 2017.5.25 TACEAFP7 2021.2.16 TACEAFP7 2022.5.24 AFP7.356 2022.5.30 肝がん死(肝細胞癌)
181	85	男	TAE	19.9.6	単発	S7	32×32	腫瘍	無	C	3	1581	2019/7/5診断 20200902再発なし	生存、再発なし
182	86	女	TAE	19.7.25	単発	S4	38×28	腫瘍	有	C	53.1	32	肝臓破裂にてTACEにて止血 201909以後に死亡	

No	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2023調査
183	80	女	RFA	19.3.29	単発	S8	17×11	腫瘍	無	C	3	20	2021008再発なし 鳥取赤十字 20210HCC多 発転移 要確認 緩和ケア 肝切除時期不明 多発骨転 移 放射線療法2021109	生存
184	98	女	BSC		多発	S8	30	腫瘍	無	C	4	535		
185	84	男		20.11.10						C	2.7	195	2019.6.骨転移にて対し て放射線治療開始。以後も 骨転移病巣判明しては放射 線治療を行っている経過。	
186	83	女	肝切除	15.5.18	単発	S2	27×22	腫瘍	有	C	13	38	術後 鳥取赤十字 満田先 生に確認 胃痛、前立腺腫、上行結腸 癌の合併あり 2021/7/9 胃亜全摘術施行、 結腸切除、肝切除術、両側 精巣切除 2021/7/19死亡（急性心不 全）	2019.4.10 CT：明らかなHCC再 発なし 他院へ情報提 供 半年ごとのフォ ローとされているが、 来院なし 2020.10.2 膝の手術で県外に在 るとの連絡が最後、来院 なし
187	85	男	その他	21.6.10	単発	S7	45×30	腫瘍	無	B	2.6	820	2020/12/4 TACE実施 2021/1/28 エコー下に RFAを行った。	生存、再発なし
188	85	女	TAE	20.11.26	単発	S7	12×10	腫瘍	無	B	2.4	25		生存、再発なし
189	73	女	RFA	21.1.28	単発	S5	8×8	腫瘍	有	B	2.6	16.22		生存、再発なし パラ クルード
190	64	男	肝切除	17.11.24	2個	S2, S5	33×26 20×20	腫瘍	無	B	18.8	48	2017/11/24 部分切除2か 所 2014年2月 S5：12mm 大 肝がんに対しRFA 以後再発なく経過観察中	生存、再発なし
191	79	女	RFA	14.2	単発	S3	12	腫瘍	有	C				生存、再発なし

(4) 平成7年度～令和2年度肝臓がん検診発見癌追跡調査報告

No	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2023調査
1	74	女	切除	95.10.24	単発	S4	55×55	腫瘍	有	C			再発、7年7か月後死亡	生存、再発なし(2022. 5月) 2016.3月以降来院なし
2	70	女	TAE	96.2.20	単発	S8	40×38	腫瘍	無	C			再発、2年1か月後死亡	
3	63	女	切除	96.3.13	単発	S7	30×23	腫瘍	有	C			再発、15年1か月後死亡	
4	83	男	TAE	96.7.15	単発	S4	12×12	腫瘍	無	C			再発、3年9か月後死亡	
5	74	女	TAE	96.8.29	>4個	S5/678	35×35	腫瘍	無	C			再発、1年8か月後死亡	
6	64	女	TAE	96.10.25	>4個	S67	67×57	腫瘍	無	B			9か月後死亡	
7	72	男	TAE	96.11.1	2個	S6	20×20	腫瘍	有	—			再発、1年1か月後死亡	
8	70	男	PEIT	96.11.22	単発	S5	25×25	腫瘍	有	C			再発、5年2か月後死亡	
9	69	男	PEIT	97.1.7	単発	S7	10×9	腫瘍	無	C			再発、6年1か月後死亡	
10	73	女	TAE	97.11.17	>4個	S234	80×60	腫瘍	無	C			3か月後死亡	
11	61	男	TAE	97.11.17	3個	S568	15×10	腫瘍	有	C			再発、2年3か月後死亡	
12	75	男	TAE	97.12.4	単発	S7/8	40×32	腫瘍	無	C			7か月後死亡	
13	57	男	TAE	98.3.3	単発	S1	70×50	腫瘍	有	B			1年後死亡	
14	80	女	切除	98.7.31	単発	S5/6	25×25	腫瘍	無	C			9か月後死亡	
15	49	男	RES	99.12.15	>4個	S4568	80×80	浸潤	無	B			4か月後死亡	
16	69	男	切除	00.12.23	単発	S8	50×50	腫瘍	無	—			再発、1年5か月後死亡	
17	66	男	TAE	01.9.19	単発	S6	100×100	腫瘍	無	C	260		1年10か月後死亡	
18	72	男	PEIT	04.8.2	2個	S1.5	25×25	腫瘍	有	C	219		再発、3年11か月後死亡	
19	83	男	T/R/P	05.10.17	2個	S1.4	30×30	腫瘍	有	C	25		再発、3年11か月死亡	
20	67	女	切除	06.08.09	単発	S8	25×25	腫瘍	有	B			無再発生存中	
21	79	男	T/R	06.11.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	28.9		3年後再発、生存不明	
22	72	男	切除	08.4.21	単発	右葉	100×100	腫瘍	有	C	22.3		37日後死亡	
23	60	男	TAE	08.4.	>4個	両葉	40×40	腫瘍	有	C	594		2年6か月後死亡	
24	61	男	動注/ 放射	11.10.	>4個	骨転移 あり		腫瘍	有	B	2200		10か月後死亡	
25	78	男	切除	12.4.19	単発	S3	20×20	腫瘍	有	C	18.3		1年5か月後再発 2017.5.9死亡 肝がん死	
26	77	男	切除	13.12.17	単発	S4	53×53	腫瘍	有	B	7.2		無再発生存中、2019/6/8 肝癌死	
27	72	男	TAE	13.11	>4個	S4	44×39	腫瘍	有	B	960		1年5か月後死亡	
28	74	女	TAE	15.3.26	2個	S45	72×72	腫瘍	有	C	3106		死亡H27.4.27溺死	
29	86	女	緩和治療		>4個	S24578	68×60	腫瘍	有	C	14219		死亡	
30	48	男	切除	16.7.13	単発	S7	23×19	腫瘍	無	B	4923		2016.12動注 2017.3ネク サバル 2018/1/11 生 存、2021/9/5 肝部分切除 再発、生存	再発あり(2022.4月) 肺転移 2022.6月 肺切除
31	60	男	切除	19.8.6	2個	S4	25	腫瘍	無	B	11.8	16	2021/8 胸骨転移→胸骨 腫瘍切除 2021/12 胸椎転移→放射 線治療	生存

7. 全国がん検診実績との比較

令和2年度（※69歳以下の実績）

（単位：人 %）

区 分		令和2年度実績 (鳥取県)	令和2年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数 (人)	76,814	50,253,268	○受診者・がん発見=(鳥取県)「X線」「内視鏡」の合計値 (全国)「X線」のみ ○要精検者・精検受診者=「X線」のみの数値 ○精検受診者は精検結果未把握の者を除く(以下の部位も同じ)
	受診者数 (人)	22,205	1,100,845	
	受診率 (%)	28.9	2.2	
	要精検者数 (人)	262	58,272	
	要精検率 (%)	5.46	5.29	
	精検受診者数(人)	219	46,149	
	精検受診率 (%)	83.6	79.2	
	がんの者 (人)	27	616	
がん発見率 (%)	0.12	0.06		
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数 (人)	59,087	38,169,912	○「頸部のみ」の数値 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(3,547,376) + (3,215,945) - (838,784)}{(38,169,912)} \times 100 = 15.5$ 鳥取 $\frac{(25,836) + (24,040) - (13,940)}{(59,087)} \times 100 = 60.8$
	受診者数 (人)	24,040	3,215,945	
	受診率 (%)	40.7(60.8)	(15.5)	
	要精検者数 (人)	521	79,358	
	要精検率 (%)	2.17	2.47	
	精検受診者数(人)	457	60,771	
	精検受診率 (%)	87.7	76.6	
	がんの者 (人)	6	836	
がん発見率 (%)	0.02	0.03		
肺 が ん 検 診	対象者数 (人)	76,814	50,347,337	○「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値(「喀痰のみ」は除く)
	受診者数 (人)	21,364	2,773,789	
	受診率 (%)	27.8	5.5	
	要精検者数 (人)	616	42,396	
	要精検率 (%)	2.88	1.53	
	精検受診者数(人)	553	35,030	
	精検受診率 (%)	89.8	82.6	
	がんの者 (人)	7	738	
がん発見率 (%)	0.03	0.03		

区 分		令和2年度実績 (鳥取県)	令和2年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数 (人)	44,660	25,093,144	○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(2,344,748) + (1,947,300) - (346,501)}{(25,093,144)} \times 100 = 15.7$ 鳥取 $\frac{(13,694) + (11,637) - (1,059)}{(44,660)} \times 100 = 54.3$
	受診者数 (人)	11,637	1,947,300	
	受診率 (%)	26.1(54.3)	(15.7)	
	要精検者数 (人)	853	122,855	
	要精検率 (%)	7.33	6.31	
	精検受診者数(人)	815	110,358	
	精検受診率 (%)	95.5	89.8	
	がんの者 (人)	61	5,993	
がん発見率 (%)	0.52	0.31		
大 腸 が ん 検 診	対象者数 (人)	76,814	50,350,669	
	受診者数 (人)	24,213	3,316,896	
	受診率 (%)	31.5	6.6	
	要精検者数 (人)	1,751	200,742	
	要精検率 (%)	7.23	6.05	
	精検受診者数(人)	1,352	141,019	
	精検受診率 (%)	77.2	70.2	
	がんの者 (人)	48	5,210	
がん発見率 (%)	0.20	0.16		

(出典) 鳥取県数値 = 鳥取県健康対策協議会各がん検診専門委員会資料

全国数値 = 地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

- (注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・健康増進事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。
- 2 全国の精検受診者は国が発表していないため、次により算定
精検受診者 = 「要精検者 - (未受診者 + 精検結果未把握の者)」
- 3 平成25年度から全国数値は、69歳以下の実績が公表されていることから、鳥取県数値も69歳以下の実績で比較している。
- 4 平成27年度から「地域保健・健康増進事業報告」対象者数は、各がん検診の対象年齢の「全住民」を報告することとなった。
- 5 平成28年度から乳がん検診について対象者数は「視触診方式及びマンモグラフィの併用者」「マンモグラフィのみ」が統一された。

厚生労働省「今後のわが国におけるがん検診事業評価の在り方について」報告書
 がん検診事業の評価に関する委員会（平成20年3月）による
 プロセス指標と本県実績との比較

令和3年度実績

		胃がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	26.9%		35.8%		
要精検率 [X線のみ]	許容値	11.0%以下	6.8%	○	4.8%	○	
精検受診率 [X線のみ]	許容値	70%以上	83.7%	○	79.6%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.11%以上	0.27%	○	0.08%		
陽性反応の集中度[X線のみ]	許容値	1.0%以上	1.5%	○	0.4%		

		肺がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	29.7%		34.5%		
要精検率	許容値	3.0%以下	3.6%		2.9%	○	
精検受診率	許容値	70%以上	89.6%	○	87.9%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.03%以上	0.05%	○	0.05%	○	
陽性反応の集中度	許容値	1.3%以上	1.2%		1.6%		

		大腸がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	29.7%		38.5%		
要精検率	許容値	7.0%以下	7.7%		5.9%	○	
精検受診率	許容値	70%以上	76.4%	○	74.0%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.13%以上	0.27%	○	0.21%	○	
陽性反応の集中度	許容値	1.9%以上	3.5%	○	3.6%	○	

		子宮がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	25.4%		49.9%		
要精検率	許容値	1.4%以下	1.19%	○	1.48%		
精検受診率	許容値	70%以上	80.5%	○	80.4%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.05%以上	0.01%		0.01%		
陽性反応の集中度	許容値	4.0%以上	0.5%		0.6%		

		乳がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	16.2%		33.8%		
要精検率	許容値	11.0%以下	6.28%	○	6.79%	○	
精検受診率	許容値	80%以上	94.8%	◎	95.2%	◎	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.23%以上	0.44%	○	0.35%	○	
陽性反応の集中度	許容値	2.5%以上	7.0%	○	5.2%	○	

※子宮がん、乳がんの受診率は単年度計算

Ⅲ. 令和4年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

令和4年度がん検診従事者講習会及び症例研究会等開催状況

事	業名	開催日時	場 所	出席者	内 容
胃がん	胃がん検診従事者講習会及び症例研究会	令和5年2月25日(土) 午後4時～午後5時30分	鳥取市 鳥取県健康会館	131名	演題：「正しいピロリ感染診断に基づき効率的な胃がん検診」 講師：広島大学病院総合内科・総合診療科教授 伊藤公訓先生 症例検討 西部—1例：鳥取大学医学部附属病院 八島一夫先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 藤井雄基先生 東部—1例：鳥取市立病院 相見正史先生
子宮がん	子宮がん検診従事者講習会及び症例検討会	令和5年2月12日(日) 午後3時～午後4時40分	鳥取市 鳥取県健康会館	65名	演題：「子宮頸がん予防のための新たなフェーズ～これからのがん検診とHPVワクチン～」 講師：日本大学医学部産婦人科学系産婦人科学分野主任教授 川名 敬先生 (講師の川名先生は遠隔地からオンラインにて講演) 症例提示4例
肺がん	肺がん検診従事者講習会及び症例研究会	令和5年2月18日(土) 午後4時～午後6時	米子市 鳥取県西部医師会館	68名	演題：「肺がん検診のための胸部X線読影演習システムの開発と活用—胸部X線読影力の維持・向上を目指して—」 講師：石川県立中央病院副院長 放射線診断科 小林 健先生 (講師の小林先生は遠隔地からオンラインにて講演) 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 野坂祐仁先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 安田健悟先生 西部—1例：鳥取大学医学部附属病院 小嶋駿介先生
乳がん	乳がん検診従事者講習会及び第29回鳥取県検診発見乳がん症例検討会	令和5年1月28日(土) 午後4時～午後5時30分	ハイブリッド開催 ①メイン会場/鳥取県健康会館 ②オンライン ※大雪の影響により、急遽開催方法を変更した。	23名 内訳 ①10名 ②13名	演題：「臨床試験から考えるDCISの治療戦略」 講師：岡山大学病院乳腺・内分泌外科准教授 枝園忠彦先生 症例検討 東部—1例：鳥取市立病院 小寺正人先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 大田里香子先生 西部—1例：鳥取大学医学部附属病院 若原 誠先生
大腸がん	大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会	令和5年3月4日(土) 午後4時～午後5時30分	米子市 鳥取県西部医師会館	73名	演題：「大腸がん検診の現状～精検未受診者の問題を中心に～」 講師：社会医療法人同愛会博愛病院副院長 浜本哲郎先生 症例検討 東部—1例：内科・消化器内科 片原ごとうクリニック 後藤大輔先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 津田晴宣先生 西部—1例：鳥取大学医学部附属病院 八島一夫先生
肝臓がん	肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会	令和5年2月4日(土) 午後4時～午後5時40分	鳥取市 鳥取県健康会館	93名	演題：「肝細胞癌—診断と治療の進歩—」 講師：鳥取市立病院内科 診療部主任部長 谷口英明先生 症例検討 中部—1例：鳥取県立厚生病院 三好謙一先生 西部—1例：日野病院 河村実穂先生

1. 胃がん検診症例研究会

日 時 令和5年2月25日(土) 午後4時～午後5時30分

場 所 鳥取県健康会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取市立病院 相見正史

症 例：50歳代 男性

既往歴：HP除菌

検診歴：毎年

経 過：2021年の上部消化管内視鏡検査にて、前庭部前壁に不整形の陥凹性病変を指摘された。生検でGroup 5であった。内視鏡的にsm深部浸潤を疑う所見はなく、粘膜内病変と診断、ESDが施行された。

病 理：Early gastric cancer、0-IIc、7×5 mm、tub1、pT1a、ly0、v0、pHM0、pVM0、Stomach、ESD

考 察：後ろ向きに過去画像を見直すと、2019年の時点で病変の指摘は可能であった。内視鏡検査において、鮮明かつ盲点のない写真を撮影するのはもちろんのこと、施行医自身の診断能を磨くことが重要である。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 藤井雄基

症 例：40歳代 男性

既往歴：特記事項なし HP除菌歴なし

検診歴：2018年、2021年に胃透視による検診を受け、異常は指摘されていなかった。

経 過：2022年6月の胃透視検診で吻門部小弯側欠損様を指摘された。

2022年7月の前医内視鏡検査で吻門部に2型腫瘍あり、生検にてgroup 5 (tub2)であった。2022年8月に鳥取県立厚生病院受診となった。当院のEGDでは食道胃接合部やや口側に病変を認め、生検行ったところバレット腺癌の診断となった。当院消化器外科で化学療法施行されたあとに鳥取大学医学部附属病院消化器外科へと紹介となり、ロボット支援下噴門側胃切除術が施行された。

病 理：Adenocarcinoma、well>moderatelydifferentiatedtype、INFb、pT2 (pMP)、Lyla (D2-40)、V1a (EVG)、pIMO、pPMO、pDMO、pRMO

考 察：食道と胃をまたがるように中分化型腺癌の浸潤を認めたが、切除標本からはバレット上皮はなく、原発は胃か食道か判断がつかなかった。後方視的に画像を見直すと2021年の胃透視検査でも吻門部に同様の欠損様を認めたが、指摘されていなかった。近年、食道胃接合部癌は増加傾向であり、食道や吻門部についても丁寧な読影の必要性を再認識した症例であった。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院 八島一夫

症 例：70歳代 女性

既往歴：高血圧、脂質異常症、7年前にピロリ菌除菌歴あり

検診歴：2019年度胃内視鏡検診では、胃体部大彎襞色域よりの生検にてgroup 1であった。

経過：2020年8月胃内視鏡検診で胃体部大彎に粘膜下腫瘍様隆起伴う小型IIc病変あり、生検にてgroup 5 (sig) であった。鳥取大学医学部附属病院紹介となり、精査後、幽門側胃切除術が施行された。

病理：M、Gre、Type0-IIc like、39×21mm、por2+sig、pT2(MP)、pStageIB(pT2N0M0)

考察：本症例は、発がんリスクが低い軽度萎縮背景胃粘膜から発生した除菌後スキルス胃癌である。除菌後長期経過では、軽度萎縮例から未分化型腺癌の発生リスクが高くなると報告もあり、萎縮程度に関わらず長期のサーベイランスが必要となる可能性が示唆された。

2. 子宮がん検診症例研究会

日 時 令和5年2月12日（日） 午後3時～午後4時40分

場 所 鳥取県健康会館

症例検討：鳥取大学医学部産科婦人科講師 佐藤慎也先生の進行により、4例（施設検診2例、車検診2例）の症例検討が行われた。

検討内容：

鳥取大学医学部産科婦人科講師 小松宏彰先生より下記の4症例が提示された。

症例1は50代女性。平成29年の施設検診でASC-US、その後受診なく令和3年度検診でSCCの判定となった。頸部組織診ではHSIL/CIN3であり、円錐切除術が施行され最終診断はHSIL/CIN3であった。

症例2は60代女性。平成29年から令和2年まで経年受診してNILM。令和3年度検診の結果はAdenocarcinomaであった。コルポスコープではUCF、MRIによる精密検査で頸管内に3cm大の腫瘤を認め、子宮頸癌ⅡB期、HPV非依存性腺癌の診断となった。同時化学放射線療法による治療を施行された。

症例3は70代女性。平成29年から令和2年まで施設検診を受け、頸部細胞診はNILMであった。令和元年には子宮留膿症で治療をうけている。令和3年度検診で頸部細胞診はNILM、内膜細胞診が疑陽性となり、精密検査の結果は子宮体癌、類内膜癌G2であった。準広汎子宮全摘術、両側付属器摘出術および骨盤リンパ節郭清が施行され、子宮体癌ⅠB期（類内膜癌G2）と診断された。

症例4は60代女性。平成29年から令和2年まで施設検診を受け、頸部細胞診はNILM。令和3年度検診で頸部細胞診はNILM、内膜細胞診が疑陽性となり、精密検査の結果は子宮体癌、類内膜癌G1であった。ロボット支援腹腔鏡下準広汎子宮全摘術、両側付属器摘出術、骨盤リンパ節郭清が施行され、子宮体癌ⅠA期（類内膜癌G1）と診断された。

各症例の細胞診所見を供覧し、診断治療に至るまでの問題点の有無を検討した。内向発育型の頸部腺癌の診断には留意することや、子宮留膿症や不正出血を呈する症例に対する子宮内膜細胞診の重要性を再確認した。

令和4年度 子宮がん検診症例検討会提出症例

症例	年齢	市町村名	検診月日	一次検診機関	一次検診結果		精密検査機関	精密検査結果			治療機関名	
					頸部	体部		組織診断	進行期分類	TNM分類		
症例 1	54歳	鳥取市	R 3 . 7 . 28	鳥取県保健事業団	SCC		鳥取県立中央病院	CIN3			鳥取県立中央病院	
症例 2	63歳	大山町	H29. 12. 17	鳥取県保健事業団	NILM							
			H30. 7 . 22	鳥取県保健事業団	NILM							
			R 1 . 7 . 7	鳥取県保健事業団	NILM							
			R 2 . 7 . 5	鳥取県保健事業団	NILM							
症例 3	70歳	米子市	R 3 . 10. 17	鳥取県保健事業団	Adenocarcinoma		鳥取大学医学部附属病院	腺癌HPV非依存性	II B期	cT2bN0M0	鳥取大学医学部附属病院	
			H29. 9 . 15	母と子の長田産婦人科クリニック	NILM	—						
			H30. 9 . 10	母と子の長田産婦人科クリニック	NILM	—						
			R 1 . 9 . 2	母と子の長田産婦人科クリニック	NILM	—						
症例 4	63歳	米子市	R 2 . 10. 27	博愛病院	NILM	疑陽性	博愛病院	類内膜癌Grade 2	I B期	pT1bN0M0 (cT1bN0M0)	鳥取大学医学部附属病院	
			R 3 . 7 . 14	博愛病院	NILM	—						
			H29. 7 . 24	母と子の長田産婦人科クリニック	NILM	—						
			H30. 10. 5	母と子の長田産婦人科クリニック	NILM	—						
症例 4	63歳	米子市	R 1 . 9 . 5	母と子の長田産婦人科クリニック	NILM	—						
			R 2 . 9 . 8	母と子の長田産婦人科クリニック	NILM	—						
症例 4	63歳	米子市	R 3 . 9 . 18	母と子の長田産婦人科クリニック	NILM	疑陽性	鳥取大学医学部附属病院	類内膜癌Grade 1	I A期	pT1aN0M0 (cT1aN0M0)	鳥取大学医学部附属病院	

3. 肺がん検診症例研究会

日 時 令和5年2月18日(土) 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

[東部症例]

提出者：鳥取県立中央病院 野坂 祐仁

症 例：60歳代 女性

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：これまで検診で異常を指摘されたことはなかった。2019年、検診で異常を指摘された。以後他院にてCTフォロー中、増大傾向を認めた。2022年2月、気管支鏡下生検施行も診断に至らず、6月に診断と治療を兼ねた手術目的に当科紹介となった。

既往歴：特記事項なし

喫煙歴：なし

臨床経過：胸部X線では左下肺野心陰影の裏側に結節影を認めた。胸部CTでは左下葉S9に1cm大の結節影を認め緩徐に増大した。2022年時点で1.7×1.3×2.3cm大、C/T比：1.0の結節に増大したが気管支鏡下生検では診断に至らなかった。左下葉肺癌疑い(cT1cN0M0 Stage IA3)の診断で、術中迅速病理診断併用の下、ロボット支援胸腔鏡下左肺下葉切除+ND2a-1リンパ節郭清を施行した。術後病理病期診断は、Adenocarcinoma (lepidic 70%、acinar 20%、papillary 10%)、pT1b(病変全体径2.0×1.6cm、浸潤径1.4cm)N0M0、pStage IA2であった。

考 察：本症例は胸部X線の読影において見落としやすい心陰影の裏側に発生した肺癌であった。2019年の胸部X線では指摘困難と思われるが、2021年以降の胸部X線では結節影が明瞭化しており見逃してはならない所見であると考ええる。比較読影も行い、心陰影の裏側など隠れた肺野も意識した読影を心掛ける必要があると感じた症例であった。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 安田 健悟

症 例：70歳代 男性

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：毎年肺がん検診を受けていたが、これまで異常指摘はなかった。20XX年10月に右鎖骨の違和感で前医受診。胸部X線写真にて右肺尖部の異常陰影を指摘され、当院呼吸器内科を紹介受診した。胸部単純CTで右上葉に気管と接する結節影を認め、生検で確定診断はつかず、20XX年11月に診断と治療目的に当科紹介となった。

既往歴：高血圧症、左自然気胸術後

生活歴：喫煙歴40本/日×36年(20-56歳)

臨床経過：20XX年度検診での胸部X線写真では異常指摘はできなかったが、初診時には右傍気管線から肺野に突出する陰影を後方視的に認めた。CTでは右S2に気管と接した2.4×1.5cm大のpure solid noduleを認めた。明らかな肺門縦隔リンパ節の腫大は認めなかった。CTガイド下生検では悪性所見は得られず、右上葉肺癌疑い(cT1cN0M0、cStage IA3)として術中針生検で非小細胞肺癌と診断後に胸腔鏡下右上葉切除+ND2a-1を施行した。術後経過は良好で、術後3日目に自宅退院となった。術後病理にて扁平上皮癌(pT1cN0M0、

pStage IA3) と診断され、術後補助療法としてuFT内服中である。

考 察： 昨年の鳥取県における肺がん検診の実績報告においても重喫煙者を含める高危険群所属者の癌発見率は非高危険群所属者よりも1.70倍高値であったと報告されている。本症例のような喫煙との関与の周知されている非腺癌病変は増大速度が速いため、過去の検診で腫瘤影が胸部X線写真で描出される頻度は高くない。喫煙歴のある症例では定期的な胸部CTでの評価が必要であると考えられた。

結 語： 右傍気管に位置する右上葉肺癌の一例を経験した。喫煙歴のある症例では、検診時の胸部X線写真に加えて、定期的な胸部CTフォローが必要である。

[西部症例]

提出者：鳥取大学医学部附属病院 小嶋 駿介

症 例：60歳代 男性

主 訴：なし（胸部異常陰影）

現病歴：X年5月、検診の胸部X線で異常を指摘され、前医受診。胸部CTで結節影を指摘された。
X年6月、当院呼吸器内科受診。X年8月、外科的生検目的に当科紹介受診。

既往歴：胆嚢腺筋腫症術後（X-1年）

生活歴：喫煙 40本×43年 former smoker

臨床経過：胸部X線で、右肺尖部に浸潤影を認めた。胸部CTでは右上葉S1-2に胸膜直下の浸潤影を認めたが、以前の胸部CTと比較して変化を認めなかった。右上葉三葉合流部に腫瘍径1.2×1.0×1.1cm、C/Tratio：1.0の充実性結節を認めた。胸部X線を見返すと右肺門部に淡い結節影を認めた。PET-CTでは同部にSUVmax：12.9の集積を認めた。肺尖部の浸潤影には異常集積は認めなかった。右上葉三葉合流部の病変に対して、開胸右上葉切除+中下葉部分合併切除+ND2a-1が施行された。病理組織学的検査で、Invasive adenocarcinoma、acinar-predominant pT2a（1.2×1.0×0.5cm、inv 1.2cm）、pI3、Ly0、V0、pN0、p-Stage IBと診断された。術後はUFTの適応であったが、本人の希望で術後化学療法は行わず経過観察の方針となった。

考 察： 本症例は、当初指摘された陰影以外からの発見肺癌（やぶにらみ肺癌）であった。異常陰影は1か所とは限らず、胸部X線全体をくまなく見ることが重要である。肺門部陰影は見落としやすいが、中間肺動脈幹、上肺静脈によるくの字、逆くの字の所見を知ることで診断の一助となると考えられる。

4. 乳がん検診症例研究会

日 時 令和5年1月28日(土) 午後4時～午後5時30分

開催方法 ハイブリッド開催

参加方法 ①現地参加

鳥取県健康会館

②オンライン参加

[東部症例]

提出者：鳥取市立病院 小寺正人

「検診発見乳がんの1症例」

症 例：59才 女性、閉経後

主 訴：なし（検診MMG異常）

既往歴・家族歴：特記事項なし

病 歴：検診MMGで要精査（比較読影なし）で当院受診。

所 見：視触診は異常なし。MMGでは、左U-Oにカテゴリー3の小さなFADを認めた。

エコーでは左C領域に、 $4 \times 6 \times 5$ mm、低エコー腫瘤影を認めた。小さいながらもhaloや血流増加を伴い、エラストスコア4、と悪性を疑う所見であった。MRIでは左C領域に小さな早期濃染像を認めたが、乳管内進展や多発病巣を疑う所見は認めず。

経 過：コア針生検を行い、浸潤性乳管癌、腺管形成型～硬性型の診断を得た。左乳癌T1bN0M0病期Iにて、乳腺部分切除+センチネルリンパ節生検を行なった。最終病理診断は、浸潤性乳管癌、腺管形成型、pT1apN0病期 I ER：90%、PgR：30%、HER2(-)、Ki67：10%であった。術後療法は、内分泌療法(アナストロゾール内服)と、放射線照射を行った。

この症例のように、MMGで乳腺陰影から離れた位置に孤立性の陰影が認められた場合、リンパ節との鑑別を慎重に行う必要がある。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 大田里香子

症 例：60歳代 女性

現病歴：乳がん検診で右L腫瘤性病変カテゴリー5を指摘され、当科受診。自覚症状なし。

所 見：(MG) 右MLOにFAD、構築の乱れ、カテゴリー4。(視触診) 右乳房DC区域に3cm大の硬い腫瘤を触知。胸壁固定なし。右腋窩に1cm大腫大リンパ節を触知。(US) 右DC区域に31mm大境界明瞭腫瘤、右腋窩に10mm大腫大リンパ節。(CNB) 浸潤性乳管癌、ER0、PgR0、HER2(3+)、ki-67 24%。

診 断：右乳癌 (DC) cT2N1M0 c-stageIIB、HER2 type

術前化学療法：EC4クール HP4クール + wPTX12クール

手 術：右Bt + Ax (II)

術後診断：yp-T0N0M0 yp-stage0

術後治療：PMRT、HP14クール

まとめ：自覚症状なく、検診で発見されたHER2タイプの乳癌。術前化学療法が奏効した。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院 若原 誠

症 例：77歳 女性

主 訴：なし（マンモグラフィ異常影）

現病歴：2015年に乳癌検診で左FADを指摘され、当科を受診。経過観察の方針となり、2017年の受診時にも明らかな変化なく、乳癌検診へ移行。2020年の乳癌検診では異常なし。2022年の乳癌検診でマンモグラフィ異常影を指摘され、当科を紹介受診。

既往歴：高血圧、高脂血症

家族歴：姉 乳癌

所 見：(MMG) 右L・I/O領域に辺縁微細鋸歯状の腫瘤、カテゴリー4。(US) 右乳房BD区域に11.9×8.2×10.2mm大の不整形の低エコー腫瘍。右腋窩に13.1×9.1×18.7mm大の節門構造の消失した腫大リンパ節。(MRI) 右乳房BD区域に約15mm大の不整形の造影結節。(CT) 右乳房BD区域に約14mm大の造影結節。右腋窩に明らかな転移を考える腫大リンパ節を2個指摘。(CNB) 浸潤性乳管癌、ホルモン受容体陽性、HER2 2+ (右腋窩FNA) 悪性

術前診断：右乳癌 (BD) cT1cN1M0 Stage IIA

手 術：右乳房全切除+腋窩リンパ節郭清

病 理：Invasive ductal carcinoma, scirrhous type, pT1c(20mm)、NG I、HG II、pN2a(5/26)、ER>90%、PgR>90%、HER2 2+・FISH陰性、Ki-67 LI 10.2%

最終診断：右乳癌 (BD) pT1cN2aM0 Stage IIIA

まとめ：自覚症状もなく、2年前には大きな所見は指摘できなかったが、検診発見時には局所進行となっていた1例であった。病理所見からは急速に進行するタイプの乳癌ではないと推測され、比較的長期に腫瘍が存在していた可能性も考えられた。後方視的に確認すると、2017年の当科最終受診時と2020年の乳癌検診時のマンモグラフィにはわずかだが所見の変化があるようにも思われた。診療フォロー時の経過をふまえた上で比較読影することができていれば、より早期に発見されていた可能性はあると考えられた。

5. 大腸がん検診症例研究会

日 時 令和5年3月4日(土) 午後4時～午後5時30分

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕 提出者：内科・消化器内科 片原ごとうクリニック 後藤大輔

症 例：35歳 女性

主 訴：便潜血陽性

現病歴：職場での大腸がん検診にて便潜血陽性（+/+：どちらも強陽性）を指摘され、2023年2月当院を受診（初診）した。なお、初めての検診であり、自身で便性状や便色の変化、体重変化の自覚はなかった。

既往歴：飲酒なし、喫煙なし

家族歴：父方祖父 胃がん、その他に大腸がんや炎症性腸疾患、大腸ポリープの指摘なし

常用薬：なし

内視鏡所見：初診5日後に下部消化管内視鏡検査を行った。肝彎曲部に35mm大の半周性以上を占める3型腫瘍を認めた。NBI拡大観察ではVN pit、JNET分類type 3で、肉眼所見よりがんを疑い生検を行った。生検結果はGroup 5：Moderately differentiated adenocarcinomaであった。

胸腹部造影CT所見：上記腫瘍に相当する部位に造影効果を伴う不整な壁肥厚を認めた。また、両肺野には転移と考える多発結節影を散見した。腹膜転移を疑う造影効果を伴う結節影も認められた。

診療方針：上行結腸がん（Stage IV）と診断し、今後遺伝子検索の上、総合病院外科で化学療法を開始、継続予定である。

検 討：家族性大腸がん（HNPCC、SPS等）家系以外に、「非家族性、非遺伝性の若年性大腸がん」が増加している。左側結腸（直腸・S状結腸）に、未分化型として認められることが多い。幼少期からの抗生剤投与に伴う腸内細菌叢の変化、小児期のX線被曝、若年層の食事変化（赤身肉摂取）や肥満の増加が原因とされている。現状、地域検診では40歳からの便潜血による大腸がん検診が行われており、欧米よりは早い世代での拾い上げを行っている。さらに若年で発症する可能性のある大腸がんの拾い上げはかなり困難であるが、家族歴を有する患者の早期スクリーニング、職場検診ではより早期からの大腸がん検診の導入も一考すべきかと考える。

〔中部症例〕 提出者：鳥取県立厚生病院 津田晴宣

症 例：67歳 男性

主 訴：便潜血陽性

既往歴：高血圧症、虫垂炎手術後

現病歴：2017年頃A病院で下部消化管内視鏡検査を受けたが異常指摘されなかった。2020年便潜血陽性指摘されたが、コロナ禍で精密検査受診しなかった。2022年6月7日職員健診で便潜血陽性を指摘されBクリニック受診した。2022年6月15日下部消化管内視鏡検査実施も疼痛強くSD junctionより口側へは挿入困難であったため、2022年6月22日Bクリニックより

CT検査追加・下部消化管内視鏡検査再検について当院紹介受診となった。

内視鏡所見：肛門側より60cmほどのS状結腸に全周性の2型腫瘍あり、スコープ通過不能であった。

ガストロ造影では腫瘍より口側への造影剤流入は少量程度であった。腫瘍部生検の結果、adenocarcinoma (tub1) であった。

腹部CT所見：S状結腸に不整な壁肥厚所見認めた。S状結腸近傍の腸間膜に8mm大の円形リンパ節を認めた。右上葉に3mm大の結節みとめた。

臨床経過：消化器外科紹介の後、腹腔鏡下S状結腸切除術施行となった。

病理結果：3.5×2cm、adenocarcinoma Tub2、pT3 (SS)、INFa、Ly0、V0、Pn0、pPM0、pDM0、pN0、pM0、pStage IIA

検討：便潜血陽性であれば基本的には大腸癌否定のため全大腸内視鏡検査が推奨されている。本症はコロナ禍であり精密検査を受けず、再度便潜血陽性となり全大腸内視鏡検査実施したところ進行大腸癌を認めた一例である。大腸癌検診の受診率向上並びに検診陽性者における精密検査率向上も現状としては課題となっている。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院 八 島 一 夫

症 例：70歳代 女性

既往歴：高血圧、脂質異常症、子宮筋腫

検診歴：毎年大腸がん検診は受診していたが、異常は指摘されたことはなかった。

経 過：2021年秋ごろより便に鮮血が混じることがあったが、痔と考えていた。2021年12月の大腸がん検診にて便潜血陽性、大腸内視鏡検査が施行され直腸Raに2型腫瘍を指摘された。当院消化器外科紹介受診となり、低位前方切除術が施行された。

病 理：Ra、Type 2、24×21mm、tub2、pT3 (SS)、pStage IIA (pT3N0M0)

考 察：本症例は、毎年大腸がん検診は受診されていたが、発見年に大腸がん検診で便潜血陽性となり、直腸Raに進行癌が確認された。本来ならば、検診前に血便症状あり、通常診療で大腸内視鏡検査を受けるべき症例である。便潜血陽性にて大腸内視鏡施行され、治癒切除となったが、便潜血が陰性であったならば、さらに進行した状況での発見という事態になった可能性がある。血便、新たな便秘などの症状がある場合は、検診ではなく医療機関を受診することを引き続き啓発する必要がある。

6. 肝臓がん検診症例研究会

日時 令和5年2月4日(土) 午後4時～午後5時40分

場所 鳥取県健康会館

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 三好謙一

はじめに：B型慢性肝炎症例において、肝線維化の抑止及びHBV-DNA量の低減は肝細胞癌の発癌リスク低減に寄与するが、発癌リスクそのものは潜在的に存在するため質の高いサーベイランスの継続が求められている。今回、早期発見に難渋したB型慢性肝炎からの肝細胞癌症例を経験したので報告する。

症例：60歳代 男性

主訴：なし

既往歴：ピロリ関連胃炎（除菌済）

生活歴：飲酒：機会飲酒、喫煙：15本/日 *20-40歳

処方薬：エンテカビル

現病歴：B型慢性肝炎のため近医通院中の患者様。腹部超音波検査で肝SOLを認めなかったがAFPの持続上昇があり、精査目的に紹介となった。

血液検査：TP 6.37g/dL、Alb 3.95g/dL、T-Bil 1.76mg/dL、AST 20U/L、ALT 16U/L、ALP 126U/L、 γ -GTP 33U/L、LDH 190U/L、Ch-E 252U/L、BUN 9.2mg/dL、Cr 0.86mg/dL、Glu 125mg/dL、AFP 13.8ng/mL、PIVKA II 22.7mAU/mL、HBV-DNA検出感度以下、HBe抗原(-)、HBe抗体(+)、WBC 4320/ μ L(neutro 60.6%)、Hb 15.4g/dL、Plt 16.0 $\times 10^4$ / μ L、PT 93.2%、FIB-4 1.97

Dynamic-CT：肝辺縁は鈍であり、慢性肝障害パターンを呈していた。奇静脈系の発達はないが胃静脈瘤を認めた。肝辺縁に多発するwashoutを伴わない早期濃染を認めた。

その後の経過：慢性肝障害に起因する血流障害を認めるが、明らかな肝細胞癌はないと判断し経過観察の方針とした。その後もAFPの上昇を認めたが、半年後の腹部超音波検査でも肝SOLを認めなかった。さらに半年後（紹介より1年後）にEOB-MRIを施行したところ、肝S5辺縁に動脈相で淡い染影を伴い肝細胞相で低信号を呈する20mm大のSOLを認めた。後方視的にdynamic-CTを確認すると、同部位は早期濃染域に一致して僅かなhump signを呈していた。超音波を再検したが、病変は肋骨の死角に入り込みやすい部位に位置していた。ソナゾイド造影超音波血管相で濃染し、後血管相でdefectを呈した。ラジオ波焼灼療法の適応ありと判断し、近日治療目的の入院を予定した。

考察：肝癌診療ガイドラインによると、肝細胞癌高危険群において典型的肝細胞癌の診断に診断能が高い検査はdynamic-CT、dynamic-MRi、造影超音波のいずれかが勧められるとされるが、いずれも施行可能であるならGd-EOB-DTPA造影MRIを推奨するとある。また、慢性肝疾患患者において、造影CTにて多血性を示すがwashoutがみられない病変に対しGd-EOB-DTPA造影MRIによる精査を行うことを推奨するとある。同検査はin/opposed phaseによるintracellular lipidの検出やDWIでの検討に加え、肝細胞相による血流に依存しない機能的画像検討があり、検出感度は最も高い。検査時間や汎用性の観点から撮影体制は施設間による差が存在すると思われるが、本症例のような診断困難例に対しては早期に実施を検討すべきであったと思われる。また、血流障害と誤認しやすい状況にあったも

の、多血性肝細胞癌の画像的特徴であるhump sign等を的確に拾い上げる総合的な読影力が求められることを再認識させられた症例であり、研究会で検討すべき症例としてここに報告した。

[西部症例]

提出者：日野病院 河村 実穂

はじめに：転移性肝腫瘍は原発性肝癌より高頻度に認め、大腸癌とそれ以外の癌で治療法が異なる。今回間質性肺炎の外来フォロー中に、新規に出現した肝腫瘍により診断したAFP産生胃癌の一例を経験したので報告する。

症 例：82歳 男性

主 訴：肝右葉の腫瘍

既往歴：境界型糖尿病、間質性肺炎、肺気腫、呼吸不全

生活歴：飲酒：週1回、喫煙：40本/日×60年

現病歴：X年6月よりCOPD、間質性肺炎にて呼吸器内科外来通院中。X+4年1月外来で施行した胸部CTにて肝S6に18mmのLDAを認めた。1年前のCTでは検出されていない。

初診時血液検査：Alb 3.8g/dl、T-bil 0.6mg/dl、AST 75U/l、ALT 96U/l、LDH 189U/l、ALP 88U/l、 γ GTP 31U/l、BUN 14.2mg/dl、Cr 0.85mg/dl、eGFR 65.4ml/min、CRP 0.26mg/dl、血糖144mg/dl、CEA 7.2ng/ml、CA19-9 10U/ml、AFP 271.4ng/ml、PIVKA-II 39mAu/ml、HCVAb(-)、HBsAg(-)

肝ダイナミックCT：肝S6の腫瘍は動脈相、門脈相、平衡相ともに乏血性であった。

腹部超音波検査：肝S6に12×19mmの境界明瞭で辺縁不整形の低エコー腫瘍を認めた。

MR I：肝S6の腫瘍と胃幽門部付近後壁、幽門下リンパ節はDWIで高信号、ADCmapで低信号であった。

EOB-造影MRI：肝S6の腫瘍は肝細胞相で低信号、その他SOLは認めなかった。

上部消化管内視鏡検査：胃前庭部から十二指腸球部にかけてBormannⅢ型を、また胃体上部小弯にⅡa病変を認め、前者はTubular adenocarcinoma、tub2、後者はGroup 4と診断された。

治療経過：進行胃癌、転移性肝癌の診断で治療方針は胃切除、肝転移に対しラジオ波焼灼療法、化学療法は呼吸不全があるため未施行とした。

病理診断：前者はAdenocarcinoma、pT3(SS)、INFb、Ly0、V1b、pPM0、pDM0、pN1(1/8：#6)、pstageⅣb、AFP染色陽性であった。後者はAdenocarcinoma、Tub1=Tub2、pT1a(M)、pUL0、Ly0、V0、pHMX、pVM0。

考 察：AFP産生胃癌（以下AFPGC）は、1970年Bourreilleらにより最初に報告された。AFPは胎生期の肝臓や卵黄嚢で産生される胎児血漿タンパクであり出生後は消失する。AFPGCとは臨床的に血清AFP値が高値、組織学的に癌細胞のAFP免疫染色陽性により診断される。胃癌全体の1.5～5.4%に認められ細胞増殖能が高く早期から脈管浸潤しリンパ節転移、肝転移の頻度が高く予後不良とされている。治療は通常の胃癌と同様である。生存期間中央値は14カ月、5年生存率は22%と報告されている。ラジオ波焼灼療法はHCCに対し完全焼灼率は78.1～100%と報告されており、転移性肝腫瘍には熱が伝わりにくく成績は劣るが3cm以内の腫瘍に限れば完全焼灼率は75.0%と高く無再発生存率も35%と非常に高く、本症例の局所治療の選択肢になると考えられた。

結 語：間質性肺炎のフォロー中に偶然に発見した肝腫瘍により発見しえたAFP産生胃癌の一例を経験した。胸部CTは肝臓まで確認することが大切であると教訓になる症例であった。またAFP産生胃癌は早期より肝転移することが知られている比較的まれな疾患である。

7. 各地区がん検診症例検討会開催状況

事業名	東 部			中 部			西 部			合 計		
	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数
胃 がん	9	22	276	1	6	38	9	25	324	19	53	638
子宮がん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
肺 がん	2	3	40	10	73	88	2	6	27	14	82	155
乳 がん	1	13	48	1	3	11	1	6	9	3	22	68
大腸がん	2	3	106	0	0	0	9	51	300	11	54	406
肝臓がん	1	2	85	1	2	25	5	20	160	7	24	270
合 計	15回			13回			26回			54回		

Ⅳ. 各がん検診精密検査医療機関登録について

鳥取県健康対策協議会においては、市町村が実施する各種がん検診の精度管理、向上のため、登録基準を設け、各がん検診精密検査医療機関の登録を行っております。登録基準については、平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が設定され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がありましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857-27-5566）へお問い合わせ下されば幸いです。

申請の届出書は「鳥取県健康対策協議会ホームページ」からダウンロードできます。

記

1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたもののについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

2. 次回の更新時期

次回の更新時期

◎一次検診登録

名 称	現在の登録期間	次回更新 手続き時期
子宮がん検診実施 (一次検診)医療機関	令和5. 4. 1～令和6. 3. 31 (2023. 4. 1～2024. 3. 31)	令和5年度中
肺がん一次検診医療機関	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31 (2023. 4. 1～2026. 3. 31)	令和7年度中
乳がん検診一次検査 (乳房X線撮影)医療機関	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31 (2023. 4. 1～2026. 3. 31)	令和7年度中

◎精密検査登録

名 称	現在の登録期間	次回更新 手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	令和3. 4. 1～令和6. 3. 31 (2021. 4. 1～2024. 3. 31)	令和5年度中	令和3. 4. 1～令和6. 3. 31
子宮がん検診精密検査	令和3. 4. 1～令和6. 3. 31 (2021. 4. 1～2024. 3. 31)	令和5年度中	令和3. 4. 1～令和6. 3. 31
肺がん検診精密検査	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31 (2023. 4. 1～2026. 3. 31)	令和7年度中	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31
乳がん検診精密検査	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31 (2023. 4. 1～2026. 3. 31)	令和7年度中	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31
大腸がん検診精密検査	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31 (2023. 4. 1～2026. 3. 31)	令和7年度中	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	令和4. 4. 1～令和7. 3. 31 (2022. 4. 1～2025. 3. 31)	令和6年度中	令和4. 4. 1～令和7. 3. 31

鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準（平成30年度より改正）

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間100例以上あること。ただし、部会等の長及び地区医師会の代表の委員が十分な実績があると認める機関については、この限りではない。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 4回/年 西部 1回/年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	3点
胃疾患研究会	東部 11回/年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	3点
胃がん内視鏡検診講習会	東部 1回/年	3点
消化器病研究会	中部 6回/年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	3点
消化管研究会	西部 5回/年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	3点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器がん検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点

※胃内視鏡検診マニュアルに従い、精密検査医療機関の登録基準の臨床例数は原則年間100症例以上に変更することとなり、平成30年度より「胃がん検診精密検査医療機関実施要綱」が一部改正しました。

「年間の症例数」について、医師個人とするか医療機関とするかについては、協議の結果、医師の習熟度の目安となるので「医師個人で原則年間100例以上」とすることとなりました。次回の更新3年後に向けて努力目標としていただくこととなりました。

また、登録基準においては、「食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間100例以上あること。ただし、部会等の長及び地区医師会の代表の委員が十分な実績があると認める機関については、この限りではない。」としており、100例を満たさない医師については、健対協が十分な実績があると認めれば登録されます。

鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコーピーに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度
子宮がん検診従事者講習会及び 子宮がん検診症例検討会	全県 1回/年

鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準（平成31年度より改正）

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつ気管支ファイバー下病理検査が可能であること。
ただし、他施設に委託することも可能であること。
- 3 CT読影を含む精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に以下に指定する学会及び研究会に参加して、合計20点以上を取得すること
 - (1) 鳥取県健康対策協議会主催の肺がん検診従事者講習会
10点（過去3年間に1回は必須事項）
 - (2) 各地区医師会主催の肺がん検診研究会 2点
 - (3) 日本肺がん学会総会 5点
 - (4) 肺がん検診セミナー 5点
 - (5) 日本肺がん学会中四国地方会 3点
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肺がん検診従事者講習会	全県 1回/年	10点
東部地区肺がん医療機関検診従事者講習会	東部 1回/年	2点
東部胸部疾患研究会（年5回）	東部 5回/年	2点
胸部疾患研究会・肺がん検診症例検討会（年12回）	中部 12回/年	2点
西部地区肺がん検診胸部X線勉強会	西部 4回/年	2点
日本肺がん学会総会（全国学会・地方会）	—	5点
肺がん検診セミナー（全国学会・地方会）	—	5点
日本肺がん学会中四国地方会（全国学会・地方会）	—	3点

鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
 なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
 なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 5 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 6 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 7 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。
 また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 8 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

[附則2]

- 1 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 2 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 3 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 4 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。

鳥取県乳がん検診一次検査（乳房エックス線撮影）医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（以下「乳房撮影装置」という。）を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適切な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できること。なお、精密検査を全大腸内視鏡検査で行うことが困難な場合においては、S状結腸内視鏡検査と注腸エックス線検査（二重造影法）の併用による精密検査を実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。（小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい）。
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 4回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 5回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器がん検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点

鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準（令和4年4月改正）

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
- 3 精密検査として、血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン（AFP）検査、HCV-RNA検査及びPIVKA II検査が実施できること。
- 4 次の基準に合う超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師の対応ができること。
 - (1) 走査法式は、電子コンベックス方式が可能であること。
 - (2) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
 - (3) ポラロイド撮影装置、プリンター、マルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
 - (4) 観察用モニターは、12インチ以上であること。（※携帯型超音波装置は除く。）

※一部携帯型で高機能の装置が出ているため、希望があれば装置を確認し、十分な画像があれば承認するものとする。
- 5 腹部超音波検査について、次のいずれかを満たしていること。
 - (1) 臨床例が年間100例以上あること。
 - (2) 最近5年間で300件以上の検査の実績があること。
 - (3) 検者が、超音波医学会認定超音波専門医（腹部または総合）又は超音波医学会認定超音波検査士（腹部）であること。
 - (4) 部会等の長及び地区医師会の代表の委員が、十分な実績があると認める機関については、この限りでない。
- 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。また、各種学会については、出席したことが証明できる書類等の写しを提出すること。

（別記）対象となる講習会等

講習会の区分	開催頻度	点数
肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会	全県 1回/年	5点
山陰肝・胆・膵疾患研究会	全県 1回/年	2点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回/年	2点
腹部画像診断研究会	中部 6回/年	2点
中部肝疾患セミナー	中部 2回/年	2点
肝・胆・膵研究会	西部 3回/年	2点
消化器超音波研究会	西部 2回/年	2点
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回/年	3点
山陰肝癌治療研究会	全県 1回/年	3点
日本消化器病学会（総会、大会、支部例会）	総会 大会 各1回/年 支部例会 各2回/年	2点
日本肝臓学会（総会、大会、支部会）	各 1回/年	2点
日本超音波医学会（学術集会、地方会）	各 1回/年	2点
日本肝癌研究会	各 1回/年	2点

（注） 上記以外の講演会等については、協議会及び専門委員会においてその都度協議することとする。

あ と が き

令和5年5月8日には新型コロナウイルス感染症は感染症法上の位置づけが「5類」に移行されました。ようやく社会生活も次第に日常を取り戻しつつあります。コロナ禍の間のがん検診は大きな影響を受けることとなりました。がん検診の目的である死亡率減少効果に対する影響は今後明らかになってくるものと思われます。引き続き精度の高いがん検診を実施し、受診率と精検受診率の向上に努める事が求められます。

鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第30報です。この報告書は単年度のがん検診の全体像を一覧いただけるものと考えております。がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますのでご承知おき下さい。編集にあたり、各部会長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。御礼申し上げます。発刊に際し、県医師会事務局の皆様には何時もの様に強力なお手伝いを戴きました。皆様に心から感謝申し上げます。

鳥取県健康対策協議会

理 事 岡 田 克 夫